

# 黙示録 - 未来の啓示

ハイロ・パブロ・アウベス・デ・カルヴァーリョ

## 導入

聖書の最後の本は悪い知らせをもたらすものであると多くの人が理解しています。アポカリプスという名前だけで多くの人に恐怖をもたらします。しかし、それは私たちが未知のものを恐れているからです。周囲に危険がないにもかかわらず、部屋の電気を消すと子どもたちは恐怖を感じます。黙示録に含まれる真の光が心を照らすとき、すべての恐れは消えます。「神は愛です」(1ヨハネ4:8)。そして黙示録は、その冒頭に「神が彼に与えられたイエス・キリストの啓示」(黙示録 1:1)と書かれているように、神からの啓示です。したがって、正しく理解すると、黙示録は神の愛を明らかにします。もしよく学べば、人は愛に満ちた天の父のご性格をさらに賞賛し、もっと神に近づきたいと願うようになるでしょう。神を知ることの結果は、神を愛し、喜んで神に仕えることとなります。この本に導かれて黙示録を学ぶことで、あなたと他のすべての読者がこの経験に導かれることが、私たちの心からの願いです。

著者も編集者も。

## 第1章

### 夢が終わりを告げる

「アポカリプス」という名前は「啓示」を意味します。その最初の節には次のように書かれています。

「神が彼に与えられたイエス・キリストの啓示」黙示録 1:1。

黙示録の時点で、聖書の他のすべての本の預言は成就します。それが、それらが神によって明らかにされた理由です。それは特にダニエル書の預言に関係しています。天使は終わりの日についての重要な啓示を与え終わると、こう言いました。「それでは、ダニエルよ、あなたは言葉を閉じて、世の終わりまでこの書を封印してください。」(ダニエル12:4)その本は、黙示録を明らかにする者の目の前で開かれました。「私は、王座に座る彼の右手に、内側と外側に書かれ、七つの封印で封印された本を見ました...そして、小羊が封印されたとき、封印の一つが開いていたので、私は見ました...」(黙示録5:1; 6:1)。ダニエルは預言ですが、黙示録は啓示であると言えます。後者は前者に補足的な啓示をもたらします。したがって、黙示録をより深く理解するには、ダニエル書の預言を理解するのが良いでしょう。この目的のために、これから 2 章を学びます。まず 1 節から 25 節を読みます。

「ネブカドネザルの治世の二年目に、彼は夢を見ました。彼の精神は動揺し、眠りは消えた。それから王は魔術師、呪術師、呪術師、カルデア人を呼び、王に夢が何であるかを告げさせました。彼らはやって来て、王の前に姿を現しました。王は彼らに言った、「私は夢を見ました、そして私の魂はそれを知るのに苦しんでいます。」カルデア人はアラム語で王に言った、「王よ、永遠に生きてください！」従者たちに夢を話してください。そうすれば私たちが解釈を与えます。王はカルデア人に答えて言いました。「一つだけ確かなことは、もし夢とその解釈を私に知らせなければ、あなた方は引き裂かれ、あなた方の家は糞場とされるでしょう。」しかし、もしあなたがその夢とその解釈を私に宣言したら、あなたは私から贈り物、賞品、そして大きな栄誉を受け取るでしょう。したがって、夢とその解釈を私に宣言してください。彼らはもう一度答えて、「王にその夢を家臣たちに話してもらいましょう。そうすれば我々は彼に解釈を与えましょう」と言いました。王は戻ってきて言った、「あなたが時間を稼ぎたいのはよくわかります。なぜなら、私が言ったことは解決したことがわかっているからです。つまり、もし夢を私に知らせなければ、一文はあなたのものになります。」というのは、あなたは、状況が変わるまで、私の前で嘘とひねくれた言葉を話すように手配したからです。したがって、夢を教えてください。そうすれば、解釈を与えることができます。カルデア人は王の面前で答えて、「王の要求を明らかにできる定命の者は地上に存在しない。というのは、どんなに偉大で強力な王であっても、魔術師や魔術師やカルデア人にそのようなことを要求した王はいなかったからです。王の要求は困難であり、神々以外にそれを王の前に明らかにできる者はなく、神々は人間とともに生きていない。

すると王様はとても怒って激怒しました。そしてバビロンの賢者を全員殺すように命じた。どの賢者を殺害すべきかという法令が出されました。そして彼らはダニエルとその仲間たちを殺そうと捜した。それからダニエルは、バビロンの賢者を殺すために出て行った王の護衛の長アリオクに、助言的かつ慎重に話しました。そして彼は王の命令であるアリオクに言った、「なぜ王の命令はこれほど厳しいのですか？」それから、アリオクはダニエルに事件を説明した。ダニエルは王のところに行き、時間を指定してもらい、その解釈を王に明らかにしてもらいました。

それからダニエルは家に帰り、仲間のハナニヤ、ミシャエル、アザリヤに、ダニエルとその仲間たちがバビロンの他の賢者たちとともに滅びないように、この奥義について天の神に憐れみを乞うべきであると言いました。その後、ダニエルは夜の幻視でその謎を明らかにされました。ダニエルは天の神を祝福しました。ダニエルはこう言いました。「神の御名が永遠から永遠に祝福されますように。神は知恵と力からです。」時間と季節を変え、王を排除し、王を確立するのは神です。神は賢い人には知恵を与え、知性のある人には理解を与えます。彼は深いものと隠されたものを明らかにします。神は暗闇の中に何かあるのかをご存じであり、光は神とともに生きています。

おお、私の父祖の神よ、私はあなたに感謝と賛美を捧げます。なぜなら、あなたは私に知恵と力を与えてくださったからです。そして今、あなたは私たちがあなたに求めていることを私に知らせてくれました。なぜなら、あなたは王のこの問題を私たちに知らせてくれたからです。

そこでダニエルは、王がバビロンの賢者を絶滅させるよう任命したアリオクのところへ行きました。彼は入ってきて言った、「バビロンの賢者たちを殺してはなりません。私を王の前に連れて行ってください、そうすれば私は王に解釈を明らかにします。そこでアリオクはすぐにダニエルを王の前に連れて行き、こう言いました。

ユダの捕虜の子供たちであり、その解釈を王に明らかにするだろう。」ダニエル 1:1-25

ネブカドネザルは心を乱す夢を見ましたが、それがどんな夢だったのか覚えていませんでした。その意味を知りたくて、彼は魔術師や占星術師に相談し、夢とその解釈が何であるかを教えてもらいました。魔法使いたちは、自分たちにはそれはできない、神だけができると言いました。それから王は、魔術師たちが

そして彼が相談した占星術師たちは天からの知恵を持っておらず、実際には欺瞞者でした。彼はマジシャンたちに、彼らが自分に伝えるために嘘の言葉を準備していることに気づいたとさえ語った。これに激怒した王は賢者たちの殺害を決意した。

しかし、彼らの中には神を畏れる人々、ダニエルとその仲間もいました。神の僕たちだけが神の啓示を理解するための知恵を受け取ることができます。彼らは天の神に祈り、神はダニエルに王の夢と解き明かしを与えました。そこでダニエルは王に謁見を願い出て、それが認められました。レポートを続けます。

「王はベルテシャザルという名前のダニエルに答えて言った、「私が夢で見たものとその解釈を教えてくださいませんか？」ダニエルは王の面前で答えてこう言いました。「王が要求する神秘は、魔法使いも魔術師も占星術師も王に明らかにすることはできません。しかし、天には神秘を明らかにする神がおられ、ネブカドネザル王に終わりの日に何が起こるかを知らせられたからである。」ダニエル 2:26-28

聖書の中で「終わりの日」という表現は何を意味しますか？それは何時を指しますか？地球の歴史の最後の日まで。テモテ第二 3 章で主は、終わりの日には「困難な」時代が来るだろうと言われました。そして私たちは今、この困難な時代に生きているのではないのでしょうか？失業、強盗、殺人、地球温暖化、社会的不正義、これらすべては私たちの時代に起こり、ダニエルが述べた終わりの日に私たちが確かに生きていることを示しています。預言の解釈は今日私たちの関心を集めています。続きを読む：

「あなたがベッドの上にいるときの夢と頭の中のビジョンは次のとおりです。王よ、あなたがベッドにいる間、この後に起こることについて考えが湧きました。神秘を明らかにする者は、これからどうなるのかをあなたに明らかにしました。そして、この神秘が私に明らかになったのは、私の中にすべての生き物よりも多くの知恵があるからではなく、その解釈が王に知らせられ、あなたがあなたの心の考えを理解できるようにするためでした。おお、王よ、あなたは見ていました、そして見よ、大きな像を見ました。これは計り知れないほど素晴らしく、あなたの前に立っていた。そして彼の様子はひどかった。」ダニエル 2:29-31

この像は、私たちの時代に何が起こるかを明らかにするために神が選んだ象徴でした。彼の「見た目」は「ひどい」ものでした。発表された未来は、好景気や繁栄に満ちた楽な時代ではなく、困難で恐ろしい時代でした。戦争、飢餓、暴力、抑圧は歴史に大きな影響を与え、新聞やテレビが毎日報道しているが、現在の時代が預言で与えられた像の外観の描写「恐ろしい」と正確に一致していることを示している。続きを読む：

「頭は純金、胸と腕は銀、腹と腰は青銅でした。脚は鉄でできており、足の一部は鉄で、一部は粘土でできています。あなたが見ていると、手の助けを借りずに石が切り出され、鉄と粘土でできた像の足に当たり、砕けました。そして、鉄、粘土、青銅、銀、金は一緒に砕かれ、夏の脱穀場のもみがらのようになり、風にさらわれ、跡形もなくなりました。しかし、その像を打った石は、全地を埋め尽くす大きな山となりました。これが夢です。そしてその解釈も国王に伝えます。」ダニエル 2:32-36

この恐ろしい像はさまざまな素材で作られていました。



像の一部	構成
頭	金
胸と腕	話す
お腹と腰	ブロンズ
脚	鉄
足	鉄と粘土

次に、預言者ダニエルは像の各部分の解釈を次のように述べています。

「おお、王よ、王の中の王よ、天の神が王国と力と力と栄光を与えてくださったあなた。人の子らはどこにいても誰の手に渡されたのか

野の獣と空の鳥が住み、あなたはそれらすべてを支配することができます、あなたは金の頭です。」ダニエル 2:37 と 38

預言者が王にこう言ったことに注目してください。「王よ、あなたは金の頭です。」ダニエルが話していた王は誰でしたか? 27 節と 28 節には次のことがわかります。

「ダニエルは王の面前で答えて言った。……天には奥義を明らかにする神がおられる。神はこれから何が起こるかをネブカドネザル王に知らせたからである。」ダニエル 2:27,28

ダニエルはネブカドネザル王に「あなたは金の頭です」と言いました。ネブカドネザル彼は当時どこの国の王でしたか?ダニエル 1 章 1 節にその答えがあります。

「ユダの王エホヤキムの治世の三年に、バビロンの王ネブカドネザルがエルサレムに来た」ダニエル 1:1

ネブカドネザルはバビロンの王であり、その最高の代表者でした。したがって、ダニエルは像の頭のシンボルを解釈するときに、王に「あなたは金の頭です」と言いました。像の頭はネブカドネザルが王であったバビロン王国を表していました。預言者はさらに次のように解釈しています。

「あなたの後に、あなたの国よりも劣った別の王国が起こるでしょう」ダニエル 2:39

バビロン王国も永遠に続くわけではありません。当時、バビロンは既知の世界全体を支配していました。それは世界的な帝国でした。「あなたの国よりも劣る」王国、つまりバビロンよりも劣る王国が出現するでしょう。像では、黄金の頭の後に銀の胸と腕が続きます。銀は金より劣った金属です。現在の競技では、1位に金メダル、2位に銀メダルが与えられる。銀は金よりも性能が劣るからです。預言者がバビロンの後にはバビロンよりも劣った王国が台頭するであろうと言っているとき、彼は銀で表される王国、つまり像の胸と腕を指しています。聖書は、ダニエル書 5 章の物語の中で、第二の王国が何であったかを私たちに明らかにしています。

「ベルシャザルがワインを飲み楽しんでいる間、父ネブカドネザルが神殿から持ち帰ってきた金銀の食器を持ってくるように命じました。エルサレム」ダニエル書 5:2

ネブカドネザルの子孫であるベルシャザルは、宴会の途中で酔って、エルサレムの神の神殿から神聖な道具を持ち出し、それを冒瀆的に使用しました。その結果、手が現れ、カルデア人には理解できない文字で神のメッセージを書きました。解釈を与えるよう呼び出されたダニエルは王にこう言いました。

"王 !いと高き神はあなたの父ネブカドネザルに王国と偉大さ、栄光と威厳を与えました...彼の息子であるベルシャザルよ、あなたはこれらすべてを知っていたにもかかわらず、あなたの心を謙虚にしませんでした。そして、あなたは天の主に対して立ち上がった... それから、この文章を書いたその手が彼から送られた... これがその解釈です: メネ: 神はあなたの王国を数え、それに終止符を打たれました。...ペレス :あなたの王国は分割され、メディア人とペルシア人に与えられました。」ダニエル 5:18,22-24,26,28

ダニエルはバビロンの王ベルシャザル王について言及し、「神はあなたの王国に番号を付け、それに終止符を打たれた」と解釈しました。それから彼はこう言いました、「あなたの王国は分割され、メディア人とペルシア人に与えられました。」主はどちらの帝国がバビロンを支配するかを示されます :メディア人とペルシア人です。

「その同じ夜、カルデア人の王ベルシャザルが殺された……そしてメディアのダリウス  
彼が約62歳のとき、彼は王国を手に入れました。」ダニエル 5:30 と 31

したがって、メディア・ペルシア帝国は、像の頭の後ろの部分、つまり銀の胸と腕によって表される帝国です。第2章に戻って、ダニエルは像の象徴性の解釈を続けました。

「あなたの後には、あなたの王国よりも劣った別の王国、そして第三の王国が立ち上がるでしょう。  
青銅は全地を支配するであろう。」ダニエル 2:39

ペルシア・メディア帝国の後には「第三の王国」が台頭し、「全地を支配」することになります。それは数年後、ダニエル自身に宛てた天使の言葉によって明らかになります。

「私は再びペルシアの君主と戦うつもりだ。そして私が出て行くと、見よ、ギリシャの君主が来るでしょう。……さて、私はあなたに真実を宣言します :見よ、さらに三人の王がペルシアに起こり、四番目の王は誰よりも大きな富で満たされるでしょう。そして富によって強くなった彼は、ギリシャ王国に対してあらゆる手段を講じるだろう。その後、強力な王が現れ、大いなる支配力を持って統治するであろう」ダニエル 10:20。 11:2と3

「私はペルシア人の王子と再び戦うだろう」という言葉から、この言葉がペルシア・メディア帝国の時代に話されたことがわかります。しかし彼はこう言います。「私が出て行くと、見よ、ギリシャの王子が来るでしょう。」ギリシャはメディア・ペルシア帝国に取って代わることになる。しかし後で天使はこれを認めてこう言います。

「見よ、さらに三人の王がペルシアで誕生し、四番目の王は……ギリシャ王国に対してあらゆる手段を講じるだろう。」ギリシャに関する天使の言葉「大いなる支配力で統治するであろう」は、ダニエルの像に表されている第三王国の描写と一致しています。

「そして第三の青銅の王国が全地を支配することになる。」  
ダニエル 2:39

像の腹と腰は青銅でできていました。これは彫像の3番目の部分で、第3王国 - ギリシャを表していました。ダニエル 2章で、預言者はこの像の象徴性を次のように解釈しています。

「第四の王国は鉄のように強いだらう。鉄はすべてを破壊し、押しつぶすからです。鉄がすべてのものを砕くように、彼はそれらを粉々に砕き、粉々に砕きます。」ダニエル 2:40

粉碎とは、粉末にする、粉碎することを意味します。聖書は、イエスが打ち砕かれるだろうと述べています。

「確かに神は私たちの弱さを負い、私たちの苦しみを担ってくださいました。そして私たちは彼が打ちのめされ、神に打ちのめされ、抑圧されていると考えました。しかし彼はそうでした

私たちの罪のために刺され、咎のために打ち砕かれた」イザヤ書 53:4-5

イエスはピラトの命令によって殴られました。「それで、ピラトはイエスを連れて行き、鞭で打つように命じました。兵士たちはいばらの冠を編んで彼の頭に置き、紫のローブを着せました。」ヨハネ 19:1 と 2。

ピラトとその兵士たちはローマ帝国に仕えていました。ローマは私たちの救い主を「粉碎」した鉄の帝国でした。ローマは鉄の脚に代表されるギリシャに続く帝国でした。ダニエル 2 章の夢の解釈を続けます。

「あなたが見た足とつま先は、一部は陶土で、一部は鉄でしたが、それは分割された王国になるでしょう。しかし、その中には鉄のような固さがあるでしょう。なぜなら、鉄が泥の粘土と混ざり合っているのを見たことがあるからです。足のつま先が一部は鉄で、一部は粘土でできていたように、王国は一方では強くなり、他方では弱くなるであろう。」ダニエル 2:41e 42

これまでのところ、彫像の各部分は、像の前の部分に対応する王国に続く王国を表していることがわかりました。したがって、ダニエルが上記の文章で説明した足は、像の脚で表された王国に続く王国を表しています。

ローマ。

ダニエル氏は、足は「分裂した王国」を表していると語った。これまで、像の各部分は 1 つの素材のみで表現されていました。頭は金だけ、胸と腕は銀だけ、腰と腹は青銅だけ、足は鉄だけでした。それは各政党が世界帝国を代表していたからである。一つの帝国だけが既知の世界全体を支配しました。像の足は 2 つの素材でできています。預言者はこう述べています。「あなたが見た足とつま先は、一部は陶土で、一部は鉄でした」。像の足とつま先は鉄と粘土でできていました。預言者は彼らについてこう述べています。「これは分裂した王国になるだろう」。

それはローマや以前の王国のような世界帝国ではないでしょう。いくつかの国がこの王国を構成することになります。歴史によれば、ローマ帝国はヨーロッパの野蛮な 10 部族の侵略によって滅ぼされました。

野蛮人の現在の名前	
アングロサクソン人	英語
アラマノス	ドイツ人
フランクス	フランス語
ブルゴーニュ人	スイス
ロンバード族	イタリア人
西ゴート族	スペイン語
シュヴァーベン人	ポルトガル語
勇敢な	-----
破壊者	-----
東ゴート族	-----

私たちは、ヨーロッパが常に分割された大陸であることを知っています。さまざまな国家が世界帝国を形成したことはありません。預言通り、ここは「分裂した王国」だった。この王国について預言者はこうも言いました。

「足のつま先が一部は鉄で、一部は粘土でできていたように、したがって、王国は一方では強くなり、他方では弱くなるであろう」ダニエル 2:42

預言者の言葉は、ヨーロッパのかつての姿と今日に至るまでのヨーロッパの姿を表しています。一部の国は鉄のように大国とみなされますが (例: イギリスやドイツ)、他の国は粘土のように弱い国 (例: ポルトガル) もあります。

ダニエル像の解釈は上から下、頭から始まったことがわかります。後続の王国も順番に続いていきました。像の頭によって表されるバビロン帝国は紀元前 605 年 (紀元前) に始まりました。この像の脚で表される第 4 帝国ローマは紀元前 168 年に台頭し、西暦 476 年まで続きました。彫像の各部分を解釈しながら下に進んでいくと、時間を進めていきます。これまでのところ、預言者ダニエルがネブカドネザル王に言ったことはすべて成就していることに注意してください。この像によって予言された一連の王国は、出現して地球を支配した一連の帝国によって忠実に実現されました。以下の表を参照してください。







すでに過ぎ去った出来事におけるシンボルの成就の正確さは、私たちに確信、つまり、私たちの時代と未来に関連する予測された出来事が同じ精度で成就するという信念を与えます。

この像が時代を「上から下まで」私たちに明らかにするように、頭は最古の王国を表し、足は終わりの時代の王国を表し、指は地球の歴史の最後の場面对応しています。男性の彫像なので、彼の足には10本の指があることがわかります。したがって、私たちは、終末には地球の政府が10の部分に分割されることを理解しています。世界政治の舞台裏の動きを研究すると、私たちがこの最新の政府構造の発足の瀬戸際に立たされていることがわかります。最近、地球上の影響のある代表的な人々のグループが、ローマクラブと呼ばれる作業グループに、世界的な政治経済部門を設計するという任務を与えました。「ローマクラブ (CDR) は、その言葉を借りれば「科学者、教育者、経済学者、人文主義者、実業家、国際公務員」である100人未満の非公式組織であると主張している...

ローマクラブは、地域への分割と全世界の統合を監督する任務を託されました...

クラブの結論と推奨事項は、特別かつ機密性の高い報告書として随時公表され、権力エリートに送られて実行されます。1973年9月17日、クラブは、世界政府システムの地域によって適応されたモデルと題された報告書の1つを送信しました。

この文書は、同クラブが世界を「王国」と呼ぶ10の政治・経済地域に分けていたことを明らかにしている。出典: Rumbo a La Ocupación Mundial、ページ。60、61 (強調と強調を追加)。

彼らの働きの結果を見ると、それがダニエルの像を通して預言されたことと正確に一致するので、私たちは感銘を受けます。世界は「王国」と呼ばれる10の政治経済地域に分割されていました。

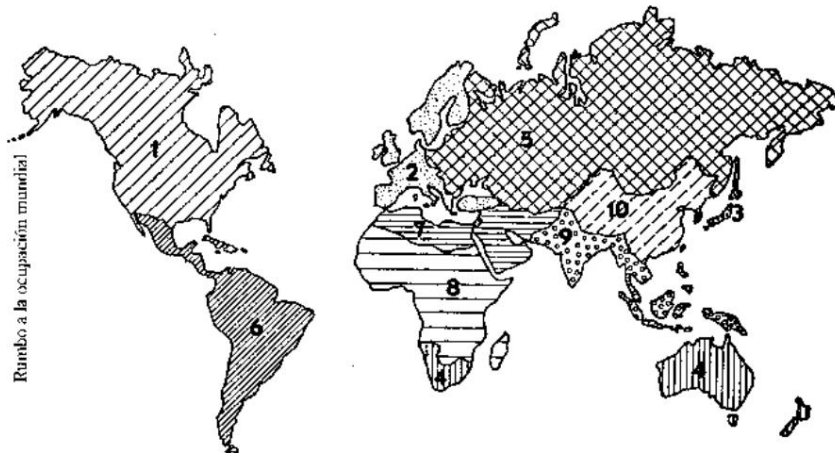


図 - ローマクラブによる世界の分割 (1973)

フォンテ : 著書「世界占領へ向かう」

地図でわかるように、今日私たちはこれらの王国のいくつかを特定し、認識することができます。すでに政府と議会を持っている欧州連合 (地図上の 2 番目) とメルコスール (6 番目) がその例です。私たちはすでに、この地球の歴史の最後の場面である十本の指の時代に入りつつあります。この新政府にはすでに「新世界秩序」というあだ名が付けられている。この話題はいくつかの新聞で取り上げられています。

欧州の指導者らは新たな世界経済秩序を要求2008年10月18日午前9時15分 パリ (AP通信) - このアイデアは野心的だ。世界の指導者や米国次期大統領の顧問らが年末までにニューヨークに集まり、世界経済の新たなビジョンの概要を模索する予定だ。

### 「指導者たちは新たな世界秩序を求める」

公開日: 2008年11月6日 | アンドレ・ラックマンと代理店

世界の指導者たちは昨日、米国次期大統領バラク氏に呼びかけた。

オバマ大統領は新たな世界秩序の構築に貢献している。

出典: <http://www.gazetadopovo.com.br/mundo/conteudo.phtml?tl=1&id=825254&tit=Lideres-pedem-nova-order-mundial> - 2010年6月22日にアクセス (強調は追加)。

より人間らしく

## ルーラ氏、新たな世界経済秩序の創設を提案

AFP - 2008年11月11日



昨日、イタリアのジョルジョ・ナポリターノ大統領がローマでブラジルのルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルバ大統領を迎える

ローマ--ブラジルのルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルバ大統領は、昨日ローマでイタリア共和国のジョルジョ・ナポリターノ大統領に迎えられ、「新たな世界経済秩序」の創設を呼びかけた。「現在の金融危機は、私たちが過ちを反省し、新たな世界秩序を創造する絶好の機会となっています…」(強調追加)

## 新しい秩序の誕生



BBC ブラジル - 2009/03/30

嵐の後、私たちは静けさを待ちます...火事でほとんど破壊された後、国際金融システム、2007年に始まった危機の中で、建築家たちはすでに新しい構造に取り組んでいる...今週、世界の主要20カ国のリーダーがロンドンで会合し、新たな経済体制の構築を開始するという使命を帯びている第二次世界大戦後出現した秩序と世界政治に取って代わる。多くの懐疑論者は、経済が現在抱えている問題に対処するために友好的な意向表明以上の成果が得られるのではないかと疑っている。しかし、先進国の何人かの指導者はすでに、富裕国が世界の将来を決める時代は終わったことを認めている。

これは、首都でG20の同僚らを迎える前にブラジルとチリを訪問した英国のゴードン・ブラウン首相が語ったものだ。」出典: BBC Brasil (強調追加)。

ダニエルの預言によると、新世界秩序の 10 の王国は王によって統治されることになります。この新政府が樹立されると、世界は史上最大の出来事を待ち受けることになります。

「しかし、これらの王たちの時代に、天の神は決して滅ぼされることのない王国を建ててください。この王国は他の人々に受け継がれることはありません。彼はこれらすべての王国を打ち砕き、焼き尽くしますが、彼自身は永遠に立つでしょう、ちょうどあなたが見たように、石が人の手を使わずに山から切り出され、それが鉄、青銅、粘土、銀、金を砕いたのと同じです。大いなる神は、将来何が起こるかを王に知らせました。その夢は確かであり、その解釈は忠実です。」ダニエル 2:44 と 45

私たちの時代に神によって設立される王国は石で表されています。聖書には「その石はキリストだった」とあります。コリント人への第一の手紙 10:4。ダニエルが「手の助けを借りずに、石が投げられるのを見たという事実は、キリストが人間の助けを借りずに二度目に地球に来られること、つまり父なる神によって遣わされて来ることを示しています。

「これらの王たちの時代に」と預言は述べています。私たちはすでにこの日に達しています。したがって、私たちはイエスの再臨の時にいます。キリストが戻って来られる！預言はまた、彼がこの地球に来たときに何が起こるかを報告しています。

「彼は鉄、青銅、粘土、銀、金を粉碎した。」ダニエル 2:44

像のすべての部分が押しつぶされ、破壊されました。すでに見たように、この像の各部分は、この地球上、この罪の世界に勃興するさまざまな王国を表していました。しかし、石であるキリスト・イエスが来られるとき、この罪の世界に築かれたすべての王国を滅ぼします。主はこう言われます。

「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。そしてその記憶はなくなるだろう過去のことは決して記憶に残らないのです。」イザヤ書 65:17

この言葉が成就するのが間もなくわかります。この罪の世界の歴史は間もなく終わります。間もなくイエス・キリストは、ご自分に会う準備をした人々を探すために、二度目にこの地球に到着されます。準備したの？あなたはイエスに遠慮なく自分自身を捧げたことがありますか？あなたは彼を救い主として受け入れましたか？あなたは自分の罪をすべて主に持って行きましたか？

神は憐れみと許しを持ってあなたを迎え入れたいと願っています。「わたしのもとに来る者をわたしは決して追い出しません」と彼は言います。ヨハネ 6:37。今日、時間があるうちに、あなたは神に従うことを決意し、祈りと神の言葉の研究を通して導きを求めてください。

そうすれば、神はあなたに備えを整えて下さり、神がこの地球に到着するとき、あなたは両手を広げて神を迎えることができるでしょう。

## 第2章

### ダニエル 7 章 - 四匹の獣と天の法廷の幻視

歴史上の出来事が、ネブカドネザルと預言者ダニエルに与えられた像を通して神が明らかにされたことをまさに実現したのを見ると、歴史上のすべての出来事、王国の出現と崩壊が神の手によって制御されていることがわかります。神が許可しなければ地球上では何事も起こらないということです。

前の章で学んだダニエル 2 章の預言は、神が預言者ダニエルに与えた唯一の啓示ではありませんでした。彼の名を冠したこの本の他の章には、その時からイエスの再臨の時までの王国の継承と滅亡を示す預言が記されています。第 7 章はその一例です。これから勉強していきます。最初の聖句を読むことから研究を始めます。

「バビロンの王ベルシャザルの最初の年、ダニエルはベッドの上で夢と幻を目の前に見ました。彼はすぐにその夢を書き、すべてのことをまとめて報告しました。」ダニエル 7:1

ダニエルは「バビロンの王ベルシャザル」が権力を握っていたときに幻を見ました。したがって、バビロニア帝国の時代です。神の言葉の中に偶然に見つかるものは何もありません。もし神が預言者に靈感を与えて、この時にこの幻を見たと言わせたとすれば、それはこの情報が神の僕たちがそれを理解するのに役立つからである。この聖句には、ダニエルが見たものを「すぐにその夢を書き留めて報告した」とも書かれています。次に読むことは、バビロニア帝国がまだ権力を持っていたときに書かれたものです。

「ダニエルはこう言いました。『私は夜の幻で見ていたのですが、見よ、天の四風が大海を巻き起こしました。大きくてそれぞれ異なる4匹の動物が海から上がってきました。』」ダニエル 7:2,3

神がダニエルに「天の四つの風が大海を巻き起こす」ことを示されたとき、ダニエルが自分が見たものを文字通りに理解するとは期待していませんでした。ダニエル書 2 章の彫像が象徴的であるように、海を揺るがす 4 つの風は何かを表す象徴です。聖書はそれらの意味を次のように説明しています。

「門番たちは東、西、北、そして北の四つの風に乗っていました。」  
南。"歴代誌第一 9:24

四つの風は「東・西・南北」の四方を象徴しています。  
4つの風が「大海を巻き上げ」ました。海は大きな水の集まりであり、聖書は水が人々を表していることを明らかにしています。

「そして彼は私に言った、『あなたが見た水、娼婦が座っている場所は、人々、群衆、国家、そして言語です。』」黙示録 17:15

したがって、ダニエルが見た水の集まりである大海は、地球上の多数の人々、国家、言語を表しています。大海を揺るがす 4 つの風は、地球のさまざまな地域の人々や国家が互いに立ち向かっていることを表しています。水をかき混ぜる風は、国家間の紛争、つまり戦争のシナリオを表しています。このシナリオでダニエルは、「大きくて互いに異なる 4 匹の動物が海から上がってくる」のを見ました。それらの意味は、後の章自体で明らかになります。

「私は近くにいた人の一人に近づき、このすべてについての真実を尋ねました。そこで彼は私にこう言い、物事の解釈を教えてくださいました。「この偉大な動物は4匹で、地から立ち上がる4人の王です。」ダニエル 7:16、17

4匹の動物は、権力を掌握した帝国の王を表しています。征服戦争のこと。レポートに続いて、動物が紹介されます。



「最初の子はライオンのように、鷲の翼を持っていました。私が見ていると、彼の翼はもぎ取られていました。彼は地から引き上げられ、人間のように二本足で立っていました。そして彼には次のような精神が与えられました。」男。"

ダニエル 7:4

この象徴を通して描写された王は誰ですか？ダニエル書自体は私たちに次のことを明らかにしています。

「王がまだ話している間、天から声が降ってきた。『ネブカドネザル王よ、あなたに告げられました。王国はあなたから去りました。』あなたは人々の中から追放され、あなたの家は野の獣たちと一緒にいるでしょう。そして彼らはあなたに牛のように藁を食べさせるでしょう、そして至高者が人間の王国を支配し、彼が望む者に誰にでもそれを与えることをあなたが知るまで、7回があなたを襲います。同時に、ネブカドネザルについての言葉は成就しました。そして彼は人々の間から追い出され、牛のように草を食べるようになり、体は天の露で濡れ、ついには髪が鷲の羽のように、爪が鳥の爪のように伸びました。しかし、それらの日々の終わりに、私、ネブカドネザルは目を天に上げ、再び理解が私に訪れ、私は至高者を祝福し、永遠に生き、その支配は永遠であり、その至高者を賛美し、栄光を与えました。王国は世代から世代へと続くのです。」ダニエル 4:31-34

ネブカドネザルに天からの宣告が下されましたが、ネブカドネザルは理解力を失い、動物のように藁を食べ始めました。すると「彼の髪は鷲の羽のように伸び、爪は鳥の爪のように伸びた」。しばらくして、彼は「再び理解できた」と言いました。これは彼が再び人間としての理性、つまり「心」を持っていたことを示しています。この事実は、ダニエル書7章で彼が見たライオンの特徴と一致します。「彼は人間のように立たせられ、人間の心を与えられた」。7章でダニエルが見た最初の動物の描写がネブカドネザル王の特徴と一致していることがわかります。前の章で、ネブカドネザルがバビロニア帝国の王であったことをすでに見ました。彼と彼が統治した王国バビロンは、ダニエル7章に見られる翼のあるライオンで表されています。

ダニエル 2 章と 7 章の啓示の並行性

ダニエル書 2 章では、最初の世界帝国であるバビロン王国が像の黄金の頭で表されています。金は金属の中で最も価値があります。すでに第 7 章で、バビロン王国は動物の王とみなされているライオンによって表されています（士師記 14:18、箴言 30:30、アモス書 3:8 参照）。第 2 章ではバビロンは金属の長によって表されていましたが、第 7 章では動物の長によって表されていることに注意してください。どちらの章でも、バビロンは世界帝国の最有力者として描かれていました。しかし、各章では、それは異なるシンボルを通じて行われました。ダニエル 7 章の幻の中の動物は、第 2 章の黄金の頭と同様の啓示です。違いは、ダニエル 7 章では、ダニエル 2 章の像の象徴性では示されていなかったバビロンの詳細が示されているという事実でした。

例えばダニエル 7 章では、バビロンの初代王が動物のように草を食べ、その後人間の心を受け取ったことが明らかにされています。そして、これは第 2 章の彫像によって明らかにされるのではなく、ライオンの「翼」の象徴によって、バビロンが猛スピードで世界を征服するであろうということも明らかにされます。この詳細はダニエル 2 章の象徴性にも明らかにされていません。第 7 章では第 2 章の啓示が繰り返されていますが、幻の意味が拡張されていることがわかります。これまでに与えられていなかった詳細がさらに詳しく示されました。啓示は同じですが、情報が追加されています。したがって、ダニエル 7 章の研究を続けると、この幻の中で神はダニエル 2 章に表されている世界帝国について同じ啓示を与えているが、以前には与えられていなかった詳細を付け加えていると考えることができます。

したがって、ダニエル 7 章を読み続けてみましょう。



「私は見続けました、そして、見よ、クマのような二番目の動物が片側に立っていました。その口の中、歯の間には三本の肋骨がありました。そして彼らはそれに言いました：立ち上がって、たくさん食べてください。」

ダニエル 7:5

引用された聖句は、預言者が「二番目の動物」を見たことを示しています。「動物」のシンボルが「帝国」を表していることはすでに見てきました。この 2 番目の動物は、バビロンに続く第 2 の帝国を表しています。

ライオンはバビロンを表していました。したがって、「2番目の動物」はその後の帝国を表します。ダニエルの預言の第 2 章ですでに学んだように、バビロンの帝国に続く帝国はメディア・ペルシア帝国でした。

ダニエルは「クマが…立ち上がった」を見た。クマの「台頭」は、メディア・ペルシア帝国の権力の台頭を表しています。予言によれば、クマは「片側」に立っていました。明らかに、クマには二つの側面がありましたが、預言者はクマがそのうちの「一方」に立っていると指摘しました。明らかに、この細部には意味があります。歴史によれば、この帝国はメディア人とペルシア人の2つの民族の連合で構成されていました。

熊に二面性があるように、帝国は二つの民族の結合で構成されていました。

クマの各側面はこれらの1つを表しています。預言者がクマが「一方」の側に立っていたのを見たという事実は、メディア・ペルシア帝国がバビロンを破って台頭したとき、その政府を引き継いだのはこれらの人々のうちの「一人」だけの代表であったことを示しています。帝国。メディア人とペルシア人が帝国を構成していましたが、これら2つの民族のうち1つの民族の代表者のみが政府を掌握します。予言の成就に関する記述はダニエル5章にあります。

「ペレス:あなたの王国は分割され、メディア人とペルシア人に与えられました...その同じ夜、カルデア人の王ベルシャザルが殺されました。そして、約62歳のメディア人ダリウスが王国を占領した。」ダニエル5:28-31

ダニエルが見たクマは、メディア=ペルシャを代表し、一方の側に立っていました。つまり、それは、民族の一つ、つまりメディア人のダリオスの代表を通して権力を握ったのです。

ダニエルは、クマが口の中に「あばら骨が3本」あるのを見ました（ダニエル7:5）。それらは、彼が食べた動物のものだったという印象を与えます。予言の中で動物が帝国や国家を表していることはすでに見てきました。したがって、クマの3本の肋骨は、メディアとペルシアに敗北する3つの国を表していました。

歴史によれば、実際、メディア人とペルシア人はその権力を強化するために、バビロン、リビア、エジプトという3つの主要な征服を行った。

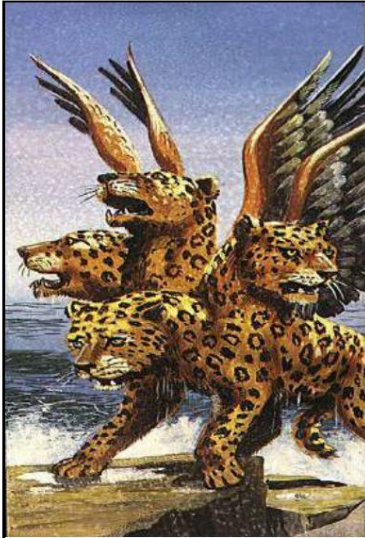
預言者はまた、クマが「起きて、たくさん肉を食べなさい」と言われているのを見ました。この表現は、メディアとペルシアが多くの戦いを通じてその支配を大きく拡大することを示しています。歴史によれば、実際、メディア人とペルシア人はバビロニア帝国が支配した領土よりも広い領土を支配していました。

彼の帝国のこのより大きな拡大は戦争を通じて得られました。神はメディア・ペルシア帝国のアハシュエロス王について語る際、その規模を伝える記述を御言葉の中に残されました。エステル記にはこうあります。

「アハシュエロスの時代、インドからエチオピアまで百二十七の州を統治していたアハシュエロスは……王子たちと家来全員を集めて晩餐会を開き、そこにはペルシャとメディアのエリートたちが代表として出席した。」エステル1:1,3

インドとエチオピアは、当時知られていた世界の両極端を代表していました。メディア・ペルシア帝国のアハシュエロス王がこれらの地域を統治していたことが聖書に報告されているという事実は、その領土が広大であり、当時既知の世界のほぼ全域に及んでいたことを裏付けています。ダニエル7章の幻の記述を続けます。





「この後も私は見続けた。見よ、背中に鳥の翼が4枚あるヒョウのような別の動物がいた。この動物にも4つの頭があり、支配権を与えられていた。」

ダニエル 7:6

これまでのところ、7章でダニエルが見た最初と2番目の動物は、像の最初の2つの部分が象徴するのと同じ王国を表していることがわかりました。ダニエルが見た動物の順序は、ダニエル 2 章の像の各部分によって与えられた啓示の順序に従っています。したがって、ダニエルが 7 章で見たこの 3 番目の動物が「ヒョウに似ている」と理解するのは自然なことです。」は、彫像の3番目の部分である青銅の腹によって象徴されたのと同じ王国、ギリシャを表しています。

私たちが説明している内容をよりよく視覚化するのに役立つ表を以下に示します。

像の一部 - ダニエル 2	王国を代表する	動物 - ダニエル 7
ゴールデンヘッド	バビロン	最初の動物 - ライオン
銀色の胸と腕	メディアペルシャ	2番目の動物 - クマ
ブロンズベリー	ギリシャ	3番目の動物 - ヒョウ

ダニエル書では、天使ガブリエル自身がダニエルに次のことを明らかにしたことがわかります。それがメディア・ペルシャに続く王国でした。

「そして彼は言いました、「私がなぜあなたのところに来たか知っていますか？」また王子と戦うよ  
ペルシア人の。私が出て行くと、見よ、ギリシャの王子が来るだろう。」ダニエル 10:20

天使は「ペルシア人」の王子と戦うと宣言した。したがって、彼はダニエルの心をメディア・ペルシヤ帝国の時代に向けました。それから彼は、ペルシア人の王子と戦った後に何が起るかを報告しました。「私が去るとき...ギリシャの王子が来るでしょう。」彼女はヒョウに代表される 3 番目の王国です。

ダニエルはヒョウの「背中に鳥の翼が4枚ある」のを見ました。翼が速度を表すことはすでに研究しました。ヒョウに 4 つの翼があるという事実は、ヒョウに象徴される王国、ギリシャが、速いスピードで帝国全体を征服したことを意味します。

実際、歴史によれば、ギリシャ人はアレクサンダー大王の指揮のもと、約10年でメディア・ペルシヤ世界帝国全体を征服した。

10年で全世界制覇ってすごいですね。物語は成就した、

その詳細はすべて、神が象徴を通してダニエルに示したとおりでした。預言の正確な成就是、神が最初から終わりを知っておられる方であり、その力強い御手で地上の出来事を導いておられる方であることを示しています。

幻はまた、この動物が「4つの頭」を持っていることを示しました。彼らを帝国征服に導いたギリシャの将軍、アレキサンダー大王は、33歳という若さで亡くなりました。彼の死後、いくつかの政治闘争が起こり、帝国は最終的に4つの部分に分割され、その名は4人の将軍でした。

彼らはいた：

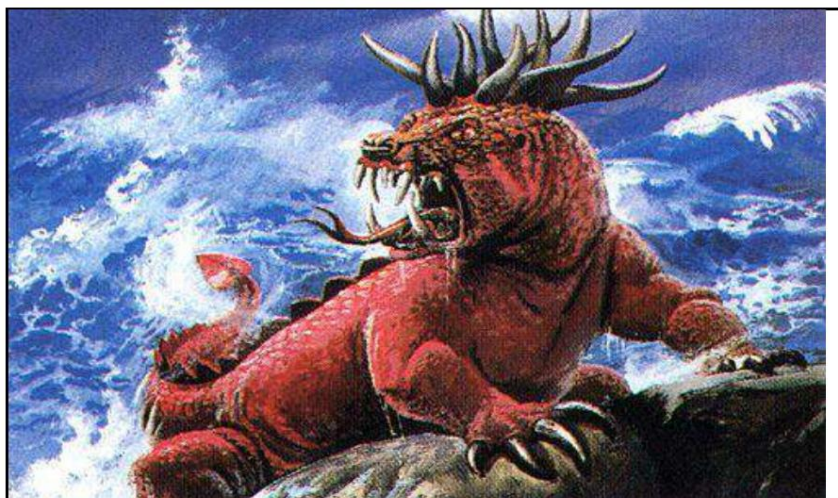
- カサンドロ。
- リュシマコス。
- セレウコス。
- プトレマイオス。

もう一度、歴史がシンボルを通して預言されたことを正確に実現したことがわかります。

ダニエルはさらに、ヒョウが表す王国について、「支配権は彼に与えられた」と述べていることに注目してください。後のダニエル書の中で、天使ガブリエル自身が預言者に、メディア・ペルシア（ギリシャ）に続く王国が偉大な支配力を持って統治する王国であると語っていることがわかります。

「さあ、私はあなたに真実を宣言します。見よ、さらに三人の王がペルシアに起こり、四番目の王は何よりも莫大な富で満たされるでしょう。そして富によって強くなった彼は、ギリシャ王国に対してあらゆる手段を講じるだろう。そのとき、強力な王が立ち上がり、偉大な支配力を持って統治するでしょう。」ダニエル 11:2,3

天使はダニエルに、メディア・ペルシア帝国の「ペルシア」に「三人の王」がまだ立ち上がる、つまり統治するだろうと報告しました。4代目国王は「ギリシャ王国に対してあらゆる手段を講じる」。これらの言葉は、メディア・ペルシアがギリシャに対して戦争をすることを表しています。しかし、この戦いで勝利を収めるのは誰でしょうか？歴史は、ギリシャが戦争でメディア・ペルシアを破ったことを示しています。そして、戦いの勝者であるギリシャについて、天使は「その後」、つまりこの戦争の後、「強力な王が現れ、大いなる支配力を持って統治するであろう」と言います。私たちはここで、ギリシャがヒョウに代表される帝国であり、そこに「支配権」が与えられることを確認します(ダニエル7:6)。それでは、第7章のビジョンの学習に移りましょう。



「この後、私は夜の幻視を続けました、そして、見よ、四番目の獣、恐ろしく恐ろしく、そして非常に強い、大きな鉄の歯を持っていました。それは食い散らかし、粉々に引き裂き、残ったものを足の下に踏みつけました。それは以前とは異なっていました」その前に現れたすべての動物には10本の角がありました。」

ダニエル 7:7

この4番目の動物は誰を表していますか?特定するのは難しくありません。これまでのところ、預言者が見たそれぞれの動物は、その出現順に、世界権力を互いに引き継いだ世界帝国を象徴していることがわかりました。最初の動物は最初の帝国、バビロンを表していました。2番目の動物は、バビロンに続く帝国であるメディア・ペルシャを表していました。3番目はギリシャを代表し、メディア・ペルシャに続いた。4番目の動物は、3番目の動物に続く勢力、つまりギリシャを表しているに違いありません。ダニエル2章の預言を研究すると、ローマがギリシャに続いたことがわかりました。7章でダニエルが見た4番目の動物の体の一部によって、このことが確認できます。預言者は自分には「鉄の歯」と言いました。「鉄」はダニエル書2章で彫像の脚を構成する素材であり、地球上に存在することになる第4の王国、ローマを表しています。鉄は砕けてあらゆるものを粉々に砕くからである」ダニエル 2:40。

ダニエル書7章に続く、預言者の理解への欲求  
この4番目の動物の象徴性の方が優れています。

「それから私は、四番目の動物についての真実を知りたかったのですが、それは他の動物とは違って、とても恐ろしくて、その歯は鉄で、爪は青銅で、そこにあるものは何でも食べ、引き裂き、踏みつけました。また、彼の頭にあった10本の角と、上に上がったもう1本の角についても、その前に3本が落ちました。その角は、目と口を持ち、横柄な口調で、仲間よりも頑丈そうに見えました。私が見ると、見よ、この角は聖徒たちと戦争を仕掛け、日の古き者が来て至高の聖徒たちに正義を与えるまで、彼らに勝利した。そして聖徒たちが王国を所有する時が来た。」ダニエル 7:19-22

4番目の動物が異教のローマ王国を表していることはすでにわかっています。しかし、私たちは獣に見られる10本の角と小さな角のシンボルの意味をまだ研究していません。私たちはダニエルのように、「象徴的な4番目の獣についての真実」を知りたいです。次の節で、天使が与えた説明を読んでみましょう。

「それから彼はこう言いました。『第四の獣は地上の第四の王国になるでしょう、それは他のすべての王国とは異なります。そして彼は全地を食い尽くし、足で踏みつけ、それを引き裂くであろう。』ダニエル 7:23

の像を通して主によって明らかにされた王国の順序によると、  
ダニエル 2 章、王国の継承は次のとおりです。

王国	像の一部	王国
1位	黄金の頭	バビロン
2番目	銀色の胸と腕	メディアペルシャ
3位	ブロンズベリー	ギリシャ
4位	鉄の足	ローマ

ダニエル 7 章に登場する 4 番目の動物が地球上の 4 番目の王国になると言っているとき、天使はローマ帝国を指しています。テキストに続いて、天使は 4 番目の動物に見られた角の意味を説明します。

「10本の角は、そこから立ち上がる10人の王に対応しています。  
王国」ダニエル 7:24

天使は、10本の角は「同じ王国から」、つまりローマ王国から立ち上がる「10人の王」に対応していると言いました。角は動物がまだ存在していたときに生えていました。これらは、ローマ帝国がすでに存在した後に台頭する王国を表しています。したがって、10本の角は、ローマがすでに権力を握っていたときに出現する10の王国を表していることがわかります。歴史によれば、ローマ帝国は次のような野蛮な 10 部族の行為によって引き裂かれました。

野蛮な人々	現在の名前
アングロサクソン人	英語
アラマノス	ドイツ人
フランクス	フランス語

ブルゴニユ人	スイス
ロンバード族	イタリア人
西ゴート族	スペイン語
シュヴァーベン人	ポルトガル語
勇敢な	絶滅した
破壊者	絶滅した
東ゴート族	絶滅した

この野蛮な10部族は、預言通りローマ帝国が存在していた時代に蜂起し、戦争によってローマ帝国を解体した人々です。これらの人々は、イギリス、ドイツ、スイス、イタリア、スペイン、ポルトガルなど、今日のヨーロッパで知られる国々を生み出しました。

上記の10民族のうち、「ヘルリ族、西ゴート族、東ゴート族」の3民族が現在絶滅していることに注意してください。この人たちに何が起こったのでしょうか？天使はダニエル7章で彼らに何が起こるかをすでに語っていました。物語の続きを読んでみましょう。

「そして、それら[十本の角]の後に、別のものが現れるでしょう、それは、以前とは異なるものになります。」  
まず、三人の王を倒すだろう。」ダニエル 7:24

立ち上る小さな角は、動物の10本の角によって表される10人のうち3人を虐殺するでしょう。これらはまさに、今日絶滅したように見える「ヘルリ、ヴァンダル、東ゴート族」です。小さな「角」が表す力が誰なのかはまだ分らない。ダニエル7章の記述に続いて、天使はこの小さな角が何をするかについて説明しています。この聖句を分析すると、この角が象徴する力がわかります。

「[角]は至高者に敵対する言葉を語り、至高者の聖徒たちを悲しませ、時代と法律を変えようとするだろう。そして聖徒たちは、一度、二度、そして半分の間、神の手に渡されるであろう。」ダニエル 7:25

角笛は「いと高き者の聖徒たちを悲しませる」力となるでしょう。歴史は、中世に行われた絞首台、断頭台、火刑、拷問によって、宗教の名の下に何百万もの至高の聖人たちを殺害した権力を私たちに示しています。教皇庁は「聖なる異端審問」を通じて聖書研究者に死刑を宣告した。

彼女は彼らを異端者と呼びました。なぜなら、彼らは彼女が教えた人間の教義に従わないからです。彼の行動によって、彼は小さな角に関する「彼はいと高き者の聖徒たちを傷つけた」という預言を成就させました。

天使はまた、角によって表される力が「時代と法律を変えることに尽力するだろう」とも述べました。その日、つまり神が定めた休息の「時」は土曜日です。

「あなたの神、主が命じられたとおり、安息日を聖く保ちなさい。6日間働き、すべての仕事をこなします。しかし、七日目はあなたの神、主の安息日である。あなたも、あなたの息子も、娘も、下男も、下女も、牛も、ロバも、どんな動物も、どんな仕事もしてはならない

あなたの下男も女中もあなたと同じように休むことができるように、あなたの者も、あなたの門の中の外国人も誰も休ませてはいけません。」申命記 5:12-14

しかし、教皇庁は、神が定めた安息日である安息日を変更し、その代わりに「日曜日」を置く権限があると主張している。彼はさらに、日曜日は自分によって制定されたものであり、この変更は彼の権威のしるしであると宣言します。彼が指揮する教会の発言によれば、日曜日を守る人々は彼の権威を認めている、次のように述べられています。聖書は安息日を宗教的に守るよう命じているが、この日は私たちが決して神聖視していない。」（ギボンズ枢機卿『父たちの信仰』1892年版）。

「私たちが土曜日の代わりに日曜日を守るのは、ラオデキア公会議（西暦364年）のカトリック教会が土曜日の厳粛さを日曜日に移したからです。」  
(改宗者のカトリック教義のカテシズム、ピーター・ガイアーマン牧師、50 ページ – 第3版。注: この作品は、1910年1月25日に教皇ピウス10世の使徒的祝福を受けました。

「日曜日はカトリックの制度であり、その遵守はカトリックの原則によってのみ定義できます。聖書の最初から最後まで、毎週の公の礼拝を週の最後の日から最初の日まで変更することを許可する一文を見つけることは不可能です。」（カトリック・プレス、オーストラリア、シドニー、1900年8月25日）。

教皇庁は暦も変更した。現在私たちが知っているものは「グレゴリオ暦」と呼ばれるもので、ローマ教皇グレゴリウスの要請により制定・制定されました。それまでは、ローマ皇帝ユリウスによるユリウス暦が採用されていました。

したがって、教皇庁は「時代と法律を変えることに尽力する」「小さな角」に相当します。

天使は、公然と聖徒たちを殺害する時期を示しました。  
最も高い：

「聖徒たちは、一度、二度、そして半分の間、神の手に渡されるであろう」ダニエル 7:25

「聖人たちは彼らの手に引き渡されるだろう」という表現は、教皇庁が聖人たちを拷問し殺害する権限を持っていることを明らかにしています。そして彼はこれを「1回、2回、そして半分」繰り返しました。天使が与えた「時間」を加えると、次の計算になります。

- 1回。
- 2ビートと • 1/2  
ビート

合計3回半（3.5回）。それはどれくらいの期間を意味しますか？ダニエル書そのものの中に、その答えが見つかります。

「というのは、北の王が戻ってきて、最初のときよりもさらに多くの群衆を野原に送り込み、一定期間、つまり何年も経ってから、大軍を率いて急いで来るからです。」  
ダニエル 11:13

「時間」は「年」に相当します。したがって、ダニエル 7 章で天使によって報告されている 3 年半は、3 年半に相当します。

ユダヤ人の一年は平均 360 日です。したがって、天使によって報告された 3 年半の期間は次のような日数になります。

$360日 \times 3年 = 1,080日$
$360日 \div 2 = 180日$
$1,080日 + 180日 = 1,260日$

1年が360日であると考え、3年半は1,260日となります。  
日々。

神は聖書の中で私たちに基準を与え、神の預言の中でそれぞれの基準が示されています。  
日は特定の期間を表すことができます - 民数記 14:34 を読んでみましょう

「あなたがこの地を偵察した日数に応じて、毎日が1年を表す40日であるから、あなたは40年間不法行為を負い、私の不快を経験することになる。」民数記 14:34

引用された本文から、聖書に基づいて、毎日が1年を表すと言えます。したがって、ダニエル 7 章で天使によって与えられた 3 年半の期間、つまり 1,260 日は、実際には 1,260 年を表していました (1,260 日 = 1,260 年)。聖人たちは1,260年間教皇庁に引き渡されることになる。歴史はまさにこれが起こったことを示しています。西暦 538 年、ユスティニアヌス帝の勅令により、ローマ司教は最高の教会権限を与えられました。それ以来、教皇庁はカトリック諸国に戦争を仕掛け、その覇権に反対するヘルリ族、ヴァンダル族、東ゴート族などの民族を滅ぼすよう扇動する活動を開始した。これらの人々は敗北し滅ぼされ、ダニエル 7 章の預言が成就しました。教皇庁はまた、いと高き聖徒を滅ぼすために十字軍と聖なる異端審問を実施しました。彼の唯一の罪は、神が啓示された神の言葉に従おうとしたことです。

教皇の優位性は、ナポレオン・ボナパルト軍のベルティエ将軍が教皇ピウス6世を投獄した1798年まで続いた。いくつかの歴史的資料は、この教皇は数か月後に斬首されたと主張しています。その後、至高者の聖徒たちを迫害し殺害する彼のこの世的な権力は終わりました。ダニエル書 7 章で天使が言ったように、教皇の覇権が始まった西暦 538 年から、教皇ピウス 6 世が投獄されこの世の権力が絶たれる 1798 年まで、ちょうど 1,260 年が経過しました。

1,260年にわたる教皇権力

538 1798

教皇ピウス6世編集

ユスティニアヌス帝は投獄され斬首される

天使はまた、教皇の優位性の後に何が起こるかを報告しています。

「しかしその後、法廷はその支配権を奪い、破壊し、最後まで飲み込むために開廷することになるだろう。全天の下にある王国と支配権と威厳は、いと高き聖徒たちの民に与えられるであろう。彼の王国は永遠の王国となり、すべての領土は彼に仕え、従うでしょう。」ダニエル 7:26

教皇庁が聖徒たちを迫害してきた1,260年間の終わりに、教皇庁の支配権を奪うために「法廷」が開かれることになる。私たちは、教皇制の一時的な支配権が1798年に剥奪されたのを見ました。天使が法廷が法王制の「支配権を奪う」ために開かれるだろうと述べたように、法廷が教皇制の支配権が剥奪されたのと同じ年に開かれたことがわかります。ここは何の法廷で、彼はどこに座っていたのでしょうか?答えを見つけるために7節から9節を読んでみましょう。

「私が角を眺めていると、見よ、角の中から別の小さな角が現れ、その前で最初の角のうちの3本が引き抜かれた。そして見よ、この角には人間の目のような目と、傲慢を語る口があった。私はいくつかの玉座が置かれ、日々の古き者が座るまで見続けた。彼の服は雪のように白く、頭の髪は純粋な羊毛のようでした。彼の玉座は炎であり、車輪は燃え盛っていた。彼の前から火の川が流れ出た。何千人もの人々が彼に仕え、無数の人々が彼の前に立った。法廷が開かれ、帳簿が開かれた。それから私はクラクションが発した不遜な言葉の声のために見えていました。見てみると、その動物は殺され、遺体は解体されて焼かれていました。他の動物に関しては、その支配権は奪われました。しかし、彼らには一定期間の延命が与えられた。」ダニエル 7:8-12

前の節で、ダニエルは教皇権を表す角の動きを報告することから始め、ダニエルの「前に」「最初の角のうちの3本が引き抜かれた」、つまり10の野蛮な民族のうち3つがローマ人によって滅ぼされたと述べています。彼の行動はすでに見たとおりです。ダニエルはまた、教皇権を表すこの角には「人間の目」があったとも述べ、角によって表されるこの権力が人間、つまり頭、この場合は教皇によって統治されていることを示しています。彼はまた、「不遜に語る口を持っていた」が、これは教皇庁が不遜に、つまり神に対して厚かましく語っていたことを示していた。彼はそのため、安息日を土曜日から日曜日に変更し、それによって神が定めた安息の時間を変更しようとし、同時に安息日を守るよう命じる律法の第四戒を変更しようとした。

これまでのところ、ダニエルの記述から、彼が預言的な幻視の中で、538年から1798年までの教皇権の覇権の間に行われた行為を見ていたことがわかります。そして彼は次のように報告しています。

「私は玉座が設置され、日々の古き者が座るまで見続けました。彼の服は雪のように白く、頭の髪は純粋な羊毛のようでした。・彼の玉座は火の炎であり、その車輪は燃え盛る火であった」ダニエル 7:10

明らかに、このシーンは地球上で起こったものではありません。燃えるような炎でできた玉座に座っている人を見ることができるのは天国だけです。座っている彼はこの火の玉座にいるのは父なる神にほかなりません。



「日々の古代人」。この聖句でダニエルが天で起こっている事柄を認識し始めたことは明らかです。彼はそこで見たものを次のように説明し続けます。

「彼の前から火の川が流れ出た。何千人もの人々が彼に仕え、無数の人々が彼の前に立った。法廷が開かれ、帳簿が開かれた。」ダニエル 7:10

では、法廷が天国で開かれた後、何が起こったのでしょうか？

「そのとき私は、クラクションが発する不遜な言葉の声を聞いて見ている。見てみると、その動物は殺され、遺体は解体されて焼かれていました。他の動物に関しては、その支配権は奪われました。しかし、彼らには一定期間の延命が与えられた。」ダニエル 7:11

神に対して不遜な言葉を吐いた角は裁きを受けた。ダニエルが見ていると、「その動物は殺され、その体は切り刻まれて焼かれるために与えられた」のが見えました。殺されたこの動物には教皇権を表す角が見られました。したがって、このホーンはその力を失いました。この動物の死は、1798年の教皇権の優位性の終焉を意味します。その年、教皇庁は致命傷を負い、教皇ピウス6世自身が逮捕され、この世の権力を失いました。

ダニエルはまた、預言の中で表されている他の動物たちに何が起こるかを彼が見たことを報告しています。しかし、彼らには一定期間の延命が与えられた。」ダニエル7章に登場する他の動物は次のとおりです。バビロンを表すライオン。クマはメディア人とペルシア人を表しました。そしてギリシャを代表するヒョウ。教皇庁がその権力を失ったとき（1798年）、彼は人々が他の動物に代表されていることに気づきました。

バビロニアのメディア人、ペルシア人、ギリシャ人はもはや地球を支配していませんでした。だからこそ彼は「支配権は彼らから剥奪された」と言いました。しかし、ダニエルは彼らが完全に破壊されていないことを見て、「彼らには一定期間と一定期間の延命が与えられた」と言いました。歴史は、これらの言葉が成就したことを示しています。バビロニア人、メディア人、ペルシア人、ギリシャ人は、過去の大帝国のような世界支配をもはや持たないものの、今日まで存在する国家を生み出しました。それらの原産国は次のとおりです。

- バビロニア人: イラク
- メディア人とペルシア人: イラン
- ギリシャ人: ギリシャ

これらの国々は、これらの古代の人々と同じ地理的地域に位置しています。

そして、1798年に教皇の優位性が終わった後、その時には何が起こっていたのでしょうか？  
預言者は13節でこう宣言しています。

「私は夜の幻視を眺めていたが、見よ、人の子のような者が天の雲に乗ってやって来て、日の老いた者のところに来て、彼を近づけた。彼には支配と栄光が与えられ、そして、王国は、あらゆる言語の人々、国家、人々が神に仕えるようになるためです。彼の支配は過ぎ去ることのない永遠の支配であり、彼の王国は決して破壊されない。」ダニエル 7:13,14

教皇の優位性が終わったとき、人の子は日の古にやって来るであろう。私たちは人の子がイエスであることを知っています。彼は繰り返し自分自身を人の子と呼んでいました（出典：マタイ 16:28; マルコ 8:38）。ダニエルは、彼、イエスが日の老いた者に到達するのを見た。宇宙の玉座に座るこの日の古人は、イエスの父である神です。ダニエルは、イエスが御父のみもとに来られると、「支配と栄光と王国を受け取り、あらゆる言語の人々、国家、人々がイエスに仕えるようになるだろう」と見ました。彼の支配は過ぎ去ることのない永遠の支配であり、彼の王国は決して破壊されない。」今日、1798年から長い年月が経過しました。教皇制度はとっくの昔に一時的な支配力を失っています。私たちは今、イエスが王国を受け取るために父のもとへ行くのをダニエルが見た瞬間に来ました。そして預言者は、このことが起こったとき、イエスが王国を受け取ったとき、イエスはいと高き者の聖徒たち、つまりイエスを愛する者たちにそれを与え、彼らがイエスとともに統治できるようにするだろうと見ました。

「全天の下にある諸王国の王国と支配権と威厳は、いと高き聖徒たちの民に与えられるであろう。彼の王国は永遠の王国となり、すべての領土は彼に仕え、従うでしょう。」ダニエル 7:27

前の聖句は、イエスが王国を受け取るとすぐに来られ、「王国と全天の下の王国の支配権と威厳」を私たちのような忠実な人々に与えるということを私たちに確認するものです。彼と彼の真実は、聖句の中で「いと高き聖徒の民」と呼ばれています。ダニエル 7 章の研究から、神はすでに神の国を受け入れに行っており、間もなくそれを聖徒たちに届けるために来られることが分かります。ですから、イエスが地上に来られる時が来たのですから、備えをしましょう！

このことを知ると、あなたは疑問に思うかもしれません。1798年から何年も経ったのに、なぜイエスはまだ地球に戻っていないのでしょうか？イエスは今日、天の父の御座の隣で何をしているのでしょうか。彼は来る前に何か仕事を完了する必要がありますか？これについては、次の章のダニエル 8 章の学習で見えていきます。

## 第3章

### ダニエル 8 章 – 雄羊、ヤギ、そして小さな角

7章に記録されている啓示は、ベルシャザルの最初の天使によって与えられました。「バビロンの王ベルシャザルの最初の年に、ダニエルは目の前に夢と幻を見ました。」ダニエル 7 :1. 第 8 章にあるものは約 2 年後に与えられました。

「ベルシャザル王の治世の三年目に、私、ダニエルは、その後、ある幻を見ました。最初に持っていたもの。」ダニエル 8:1

第8章で報告されている幻は「最初に見た幻の後に」与えられたと彼は言います。したがって、ダニエル7章と8章の示現は相互に関連していることがわかります。彼らは同じトピックを扱います。これを理解すると、第8章を理解しやすくなります。

「幻が浮かんだとき、自分がエラム州にあるスーサの城塞にいるように思えました。そして、自分がウライ川のほとりにいることがわかりました。」ダニエル 8:2

神はダニエルに靈感を与えて、その幻を見たとき、自分が「シュシャン」の城塞にいるように思われたと言いました。神はダニエルにビジョンの他の多くの場所で自分自身を見るようにさせることができたでしょう。しかし、なぜ神は特にこの場所、つまり「シュシャンの城塞」に連れて行って、預言者が神の靈感を受けて「私はシュシャンの城塞にいるようだった」と言えるようにしたのでしょうか？すでに見たように、ダニエルは「バビロンの王ベルシャザルの三年に」この幻を見たと言っています（黙示録 8:1）。ダニエルはバビロンに住んでいました。しかし、神は彼を幻視の中で「スーサの城塞」に連れて行きました。エステル記には、バビロニア帝国の崩壊後、次の帝国であるメディア・ペルシャ時代にスーサの街がどのように変わったかが示されています。

「アハシュエロス王が治世の三年目に、スーサの城塞にある王国の玉座に座ったとき、王子と家来全員を招いて晩餐会を開き、そこにはペルシャとメディアのエリートたちが出席していた」そして地方の貴族や君主たちが彼の前に立った。」エステル 1:2-3

メディア・ペルシャ帝国の王の玉座は「スーサの城塞」に設置されました。ダニエルはその幻を「バビロンの王ベルシャザルの三年に」、つまりバビロンがまだ権力を持っていた時に見ていたにもかかわらず、幻の中で次の帝国の王が住む「シュシャン」の城塞に連れて行かれました。座る - メディア・ペルシャ。神は彼を次の帝国、メディア・ペルシャの時代へのビジョンに連れて行きました。

「それから私は目を上げて見ると、見よ、川の前に雄羊が立っていた。それには二本の角があり、その二本の角は高かったが、一方の角はもう一方の角よりも高かった。そして一番背の高い人が最後に上がりました。」ダニエル 8:3

その後、第8章自体で、天使は雄羊とその角の意味を明らかにします。

「あなたが見たあの二本の角のある雄羊は、メディアとペルシャの王です。」  
ダニエル 8:20

2本の角はメディアとペルシャの王を表しています。したがって、雄羊はメディア・ペルシャ帝国を表します。預言者は次のことを見ました。そして一番背の高い人が最後に上がりました。」この二人のうちどちらかが王国での地位を占めることになる。しかし、メディア人とペルシア人の中で最も偉大なこの人は、「最後に台頭した」、つまり彼は最後に権力を握った。ダニエル書には、この二つの民族のうちどちらがその民族であったかが示されています。

初めて皇帝として代表者を置く：

「その夜、カルデア人の王ベルシャザルが殺された。そしてメディア人ダリウス、彼が約62歳のとき、彼は王国を手に入れました。」ダニエル 5:30,31

メディア・ペルシャ帝国の初代王は「メディア」でした。ダニエルは「一番大きな角が最後に上がった」のを見ました。メディア・ペルシャ帝国の最も偉大な王はペルシア人でしょう。

預言によれば、彼らは最後に起き上がるでしょう。ダニエル書自体で、これが成就したことがわかります。

「さあ、私はあなたに真実を宣言します。見よ、さらに三人の王がペルシャに起こり、四番目の王は何よりも莫大な富で満たされるでしょう。そして富によって強くなった彼は、ギリシャ王国に対してあらゆる手段を講じるだろう。そのとき、強力な王が立ち上がり、大いなる支配力を持って統治するであろう」ダニエル 11:2,3

引用されたテキストでは、天使はメディア・ペルシャ帝国を統治する最後の王についてダニエルに話しています。メディア・ペルシャ帝国の最も偉大な王はペルシア人でした。アハシュエロスはその王国が非常に大きく、127の州を統治したペルシアの王でした(エステル1:1)。ダニエルの幻の記述、第8章を読み続けます。

「羊が西に、北に、南に向かって突き進んでいるのが見えました。そして動物たちは誰も彼に抵抗できず、彼の力から自由になれる者もいなかった。しかし、彼は自分の意志に従って行動したので、偉大になりました。」ダニエル 8:4

メディア・ペルシャを代表する雄羊は「西に、北に、そして南に」「打った」、つまり「打った」のです。この殴打は、メディア人とペルシア人が支配を拡大するために行った軍事作戦を表している。メディア・ペルシャ帝国は非常に広大で、西ではギリシャの境界に達していました。

引用された聖句によると、アハシュエロス王の時代、メディア・ペルシャ帝国はアジアのインドからアフリカのエチオピアまで広がっていました。物語の続きで、ダニエルは雄羊について次のようにも述べています。「そして、どの動物も彼に抵抗できず、彼の力から自由になれる者もいなかった。」動物が国家や王国を表すことはすでに見てきました。メディア人とペルシア人に攻撃された国々は、彼らの軍隊の力に抵抗できませんでした。メディア人とペルシア人は軍事作戦で成功し、西はギリシャ、北はエチオピア、エジプトまで帝国を拡大しました。第8章でも引き続き説明を読みます。

「見ていると、見よ、一頭のヤギが西から全土を横切ってやって来ましたが、地面には触れませんでした。このヤギには目の間に顕著な角がありました。彼は、私が川の前で見た、二本の角を持った雄羊のところへ行きました。そして猛烈な力を入れて彼に突進した。私は彼が雄羊に近づき、彼に対して激怒して彼を殴り、両方の角を折ったのを見ました。なぜなら、雄羊には彼に抵抗する力がなかったからです。するとヤギは彼を地面に投げつけ、足で踏みつけました。そして、ヤギを彼の力から救うことができる人は誰もいませんでした。」ダニエル 8:5-7

前の聖句は明らかに戦争の場面を語っています。「目の間に顕著な角」を持つヤギに代表される国民が、メディア・ペルシアを代表する雄羊のところに来て、「打ち倒し」、「地面に投げ」、「足で踏みつけ」ました。後の第8章で、天使自身が、どの国がヤギで表され、誰が彼の目の間にある顕著な角を表しているかを明らかにしました。

「毛むくじゃらのヤギはギリシャの王です。目の間にある大きな角が最初の王である」ダニエル 8:21

歴史によれば、ギリシャはメディア・ペルシアを征服した。ギリシャ軍を勝利に導いたのはギリシャの将軍アレクサンダー大王です。征服者である彼は、ヤギの目の間にある注目すべき角を表しています。ダニエルは見た

ヤギが雄羊の「両角を折った」ということです。これは、ギリシャがメディア・ペルシア帝国を構成していたメディア人とペルシア人の両方を破ったことを意味します。ダニエル 8 章の記述を続けます。

「ヤギは大きくなりました。そして彼の力のあまりに彼の大きな角は折れ、代わりに4本の顕著な角が天の四方の風に向かって現れました。」ダニエル 8:8

数節後の同じ章で、天使は次のように説明しています。

「それが壊れ、その代わりに4つの王国が立ち上がったという事実は、この民から4つの王国が立ち上がることを意味しますが、その力はそれが持っていたものと同等ではありません。」ダニエル 8:22

この角がアレクサンダー大王を表していることはすでに見ました。歴史によれば、彼は33歳という若さで亡くなったという。その後、帝国はカッサンドロス、リュシマコス、セレウコス、プトレマイオスの4人のギリシャの将軍によって分割されました。彼らはそれぞれ王になりました。予言によれば、地球の四隅に4本の角が現れるという。領土は4つに分割され、4人の将軍が権力を行使しました。これらすべては何世紀も前に、まだバビロンの王ベルシャザルの3年目にダニエルに明らかにされました。神の啓示の正確な成就において、私たちは神が終わりを最初から知っていて、それが起こる前に何が起こるかを告げておられるお方であることが分かります。過去の歴史において預言されたことが忠実に成就したため、私たちは、現代の未来においても預言されたことが成就することを確信しています。

ダニエル 8 章の研究を続けます。

「それらの一つから小さな角が出て、南に、東に、そして栄光の地に向かって非常に強くなりました。それは天の軍隊に達するまで成長しました。彼はホストや星のいくつかを地面に投げ、足で踏みつけました。」ダニエル 8:9,10

私たちは原文に最も忠実な翻訳、つまり「そのうちの1つから」を上を示します。最新の聖書には「角の一つから」と書かれていますが、この翻訳は原文に忠実ではないことに加えて、解釈の誤りを引き起こします。スペイン語訳のレイナ・ヴァレラ聖書には、原文には「そのうちの一人」と書かれています。明らかに、このテキストは前の節を参照しています。このまま終わるのか？「天の四方の風に」（8節）。9節が「そのうちの1つから」という言葉で始まっているとき、それは明らかに「4つの風」の1つを指しています。そして、4つの風は何を意味するのでしょうか？繰り返します：

「門番たちは東、西、北、そして北の四つの風に乗っていました。」  
南。"歴代誌第一 9:24

「そのうちの一つから小さな角が出た」（9節）、つまり、東、西、北、南のいずれかの方向から「小さな角」が出てきました。この小さな角は誰ですか？このセクションの冒頭で、ダニエルがこの幻と第7章で説明されている幻を結びつけることから第8章を始め、「最初に見た幻の後の幻を見た」と述べていることをすでに見ました。（ダニエル 8:1）。8章の幻の記述を研究するとき、7章の幻との関係を検証するのは難しくありません。ダニエル 8章で預言者が見た最初と2番目の動物（雄羊とヤギ）は、メディア - ペルシアの領域を表しています。そしてギリシャ。7章の幻の中で、神はこれら2つの王国を象徴する動物も示しました。第8章が第7章の啓示の意味を繰り返し、拡張していることは明らかです。実際、第7章の啓示を以下と比較すると、

2章の啓示では、7章で見られた動物を通して与えられた啓示が、ダニエル2章の像を通して与えられた同じ啓示を繰り返す、さらに詳細が追加されていることがわかります。ダニエル書の教えは次のとおりです。意味を強調し、拡張するために繰り返すことです。

王国	ダニエル2	ダニエル7
バビロン	黄金の頭	ライオン
メディアペルシャ	銀色の胸と腕	ウルス
ギリシャ	ブロンズの腹と腰	ヒョウ
ローマ	鉄の脚	ひどい動物
分割された王国	10本の指を持つ鉄と粘土の足	テンホーンズ
教皇の覇権: 西暦538年 - 1798年		小さな角

表 - ダニエル2章と7章の異なるシンボルが同じ啓示をもたらします。ダニエル7章では、ダニエル2章の啓示が繰り返し詳細に語られています。

王国	ダニエル7	ダニエル8
メディアペルシャ	ウルス	2本の角を持つ雄羊
ギリシャ	ヒョウ	特徴的な角を持つヤギ

表 - ダニエル7章と8章のシンボルは同じ啓示をもたらします。ダニエル8章では、7章の啓示が繰り返し詳細に語られています。

8章に戻ると、ダニエルは、そのうちの1本から「小さな角」が出ているのを見ました。地球の方向。第7章では、小さな角のシンボルがすでに示されています。

「私が角を眺めていると、見よ、角の中から別の小さな角が現れ、その前で最初の角のうちの3本が引き抜かれた。そして見よ、この角には人間の目のような目と、傲慢を語る口があった。...この角は聖徒たちと戦争を起こし、彼らに勝利した。」ダニエル7:8,21

この「小さな角」が教皇庁であることはダニエル7章ですで見ました。小さな角のシンボルはダニエル8章で繰り返されています。シンボルが同じであれば、それは同じ意味を持ちます。次にこの章では彼の仕事について説明します。

「はい、彼は軍隊の王子にさえ偉大になりました。彼は神から継続的なものを奪い、神の聖所の場所は打ち倒されました。」ダニエル8:11

ダニエルさんは、小さな角が「ホストの王子まで」大きく成長するのを見たと言います。聖書はこの王子が誰であるかを明らかにしています。

「ヨシュアはエリコの麓にいたとき、目を上げて見ました。見よ、男が手に裸の剣を持って彼の前に立っていました。ヨシュアは彼のところに来て言った、「あなたは私たちの味方ですか、それとも敵ですか？」彼はこう答えた。私は主の軍隊の王子で、たった今到着したところです。」ヨシュア 5:13,14

使徒言行録には、天の王子の称号を持つこの存在が誰であるかが語られています。

「私たちの先祖の神はイエスをよみがえらせたが、あなたはイエスを木に吊るして殺しました。しかし、神は右手で彼を君主、救い主に高めた。」使徒 5:30,31

そうです、神の御子イエスは「軍隊の君」なのです。ダニエルは、その小さな角が「軍隊の君」、つまりイエスになるまで大きくなるのを見ました。歴史によれば、教皇はラテン語で教皇のティアラに自分の称号を記しており、これは預言の言葉と関係がある。

ヴィカリブ								フィリ						の		
-------	--	--	--	--	--	--	--	-----	--	--	--	--	--	---	--	--

代わりの								息子の						神の
------	--	--	--	--	--	--	--	-----	--	--	--	--	--	----

「神の子の代理」という称号を自分自身に引き受けることは、神の子イエス、つまり「軍隊の君」に対して「自分を誇大化する」ことです。それはあなたの代わりをとろうとしているのです。ダニエルは、小さな角が「彼から」、イエスから「継続的なもの」を奪ったとさえ述べています。新しい聖書には「継続的な犠牲」が含まれています。しかし、原文には「犠牲」という言葉はありません。したがって、「継続的」という単語のみを含む、最も忠実な翻訳を紹介しましょう。教皇がとった「継続」とは何だったのか？「継続」という言葉は、途切れることなく永遠に続くものを意味します。連続線とは、途切れない線のことです。中断されると継続的ではなくなります。神の言葉で述べられている「継続的」とは、神が永遠に変化することなく継続するように設計されたものです。そして、神は継続的で永久的、永遠に続くものとして何を定めたのでしょうか？聖書は私たちにこう答えています。

「それゆえ、イスラエルの子らは安息日を守り、代々永遠の契約として安息日を祝います。それは私とイスラエルの子らとの間の永遠のしるしです。主は六日で天と地を造り、七日目に休んで元気を与えられたからである。」出エジプト記 31:16、17

私たちは、教皇庁が神の法律を変更し、土曜日の代わりに日曜日を休息日として設定する意図を持っていたことを知っています。神はこう言われました。「あなたの神、主が命じられたとおり、安息日を聖く保ちなさい。6日間働き、すべての仕事をこなします。しかし、七日目はあなたの神、主の安息日である。あなたはいかなる仕事も行ってはならない」申命記 5:12-14。しかし、カトリックのカテキズムの戒めは、「日曜日と祝日を守る」ように教えています。教皇庁は土曜日を日曜日に変更する権限があると主張することで、神によって確立された「連続体」を奪い取っていた。こうして預言は成就した。教皇庁が宇宙の王座の前にある神の法を変更しなかったことは明らかです。なぜなら、神の法は決して変わることがなく、誰もそれを変える権限を持っていないからです。

人間の法則	神の律法 - 出エジプト記 20:3-17
1) 何よりも神を愛しなさい。	1) あなたにはわたしの他に神はいないでしょう。
2) 神の聖なる御名を無駄に受け取ってはなりません。	2) あなたは、自分のために、上の天にあるもの、下の地にあるもの、あるいは地下の水の中にあるものの彫刻や類似物を作ってはならない。あなたは彼らを崇拜したり、仕えたりしてはならない。なぜなら、わたしはあなたの神、主であり、嫉妬深い神であり、わたしを憎む者たちの三代目、四代目に至るまでの子供たちに対する父親の咎を訪ね、また、千世代に渡るわたしを愛し、わたしの戒めを守る者たちに憐れみを示すからである。
3) 日曜日と祝日を守ります。	3) あなたはあなたの神、主の御名を無駄に唱えてはならない。主は御名を無駄に唱える者を無罪とはされないからである。
4番目)父と母を敬いましょう。	4番目)安息日を聖く保つために、安息日を覚えておいてください。6日間働き、すべての仕事をこなします。しかし、七日目はあなたの神、主の安息日です。あなたも、あなたの息子も、娘も、下男も、下女も、家畜も、あなたの門の外にいる者も、いかなる仕事もしてはなりません。なぜなら、主は六日間で天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。だからこそ主は安息日を祝福し、神聖なものとされたのです。
5位)殺してはならない。	5) あなたの父と母を敬え。そうすれば、あなたの神、主があなたに与えられる土地であなたの日々が長く続くであろう。
6) 貞操に反して罪を犯してはなりません。	6番目)あなたは殺しては
7位)盗んではいけ	ならない。7番目)姦淫をして
ない。8) 虚偽の証言をしないこと。	はなりません。8番目)
9番目)隣人の妻を望んではなりません。	盗みはしません。第9回)隣人に対して虚偽の証言をしてはならない。



10位)他人の物を欲しがらないこと。	十)隣人の家を欲しがってはならない。あなたは隣人の妻、下男、女中、牛、ロバ、その他隣人のものを欲しがってはならない。
--------------------	--

教皇庁という小さな角の働きを今も報告しているが、「彼の聖所の場所」、つまり「軍の君」イエスの聖所の場所が「投げ捨てられた」と言われている。イエスの聖所はどこですか？聖書は私たちに次のように明らかにしています。

「さて、私たちが述べてきたことの本質は、聖所と主が定められた真の幕屋の奉仕者として、天の陛下の御座の右に座されたこのような大祭司がいるということである」人間ではなく建てられた。「……というのは、キリストは、真の聖所の一種である、手で造られた聖所に入るのではなく、天そのものに入って、今、私たちのために神の御前に現われるからである。」ヘブライ人への手紙 8:1,2,9:24

イエスの聖所は天にあります。ダニエル 8 章の預言の中で、小さな角が「神の聖所の場所」を破壊するだろうと述べたことによって、神は明らかに教皇庁が天国に行きそれを転覆させることができるという意味ではありませんでした。それはむしろ、教皇庁が天国の聖所における私たちのためにイエスのとりなしの働きを忘れさせようとしているという事実を指しているのです。これが起こったことを理解するのは難しくありません。今日、事実上すべての教会と宗教宗派は、イエスが天の聖所で私たちのために執り成してくださることを教えていません。この真実は忘れ去られていた。この現実には教皇庁の努力の結果です。神はダニエル 8 章の預言でこれが起こることを予言しました。しかし、神はまた、常にそうなるとは限らないとも言いました。聖域の真実は永遠に忘れられることはありません。

「その時、私は聖人が話すのを聞きました。そして、別の聖人は、話した彼にこう言った、「聖域と軍隊が引き渡されて踏みにじられるという、継続的で壊滅的な罪の幻影はいつまで続くのだろうか？」ダニエル 8:13

ダニエルは、ある天使が別の天使に「聖所が踏みにじられるために引き渡されるのはいつまで」、つまり聖所の真実がいつまで忘れられるのかを尋ねているのを見ました。もう一人はこう答えます。

「彼は私にこう言いました。『二千三百の夕方と朝まで。そして聖域は浄化された。』ダニエル 8:14

ダニエルには、2,300回の朝と夕の期間の終わりに、この真理が再び研究され、再確立され、説教されることになることが明らかにされました。あなたが今この真実について読んでいるという事実は、聖域の教義がもはや忘れられていないことの証拠です。彼女は説教されている。したがって、午後と午前の 2,300 回の期間がすでに満たされていることは明らかです。

天の聖所におけるイエスのとりなしの真実の再発見は、2,300回の夕と朝の期間の終わりに起こる唯一の出来事ではありません。

見てみましょう。「彼は私に言った、『二千三百の夕方と朝まで。そうすれば聖所は清められるでしょう。』2,300回の夜と朝の終わりに、「聖域」は「浄化」されます。これです

それは前の節で述べた、キリストが私たちのために執り成してくれる聖所だけでありえます。神は、2,300回の夕と朝が終わった後にその聖所が清められるだろうとおっしゃっています。

しかし、そこで次のような疑問が生じます。天国の聖域は浄化される必要があるのでしょうか？

これは良い質問です。天国の聖所を汚すものは何でしょうか？そこにあるものはすべて純粋ではないでしょうか？答えは「罪」です。罪は天国の聖域を汚しますが、それが清められるとそこから取り除かれます。私たちが地上で自分の罪を告白すると、イエスが私たちのために執り成してくれ、私たちは赦されます。罪はもはや私たちに残りません。彼らはどこに行くのですか？バプテスマのヨハネはイエスを見て、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊です」と言いました（ヨハネ 1:29）。神が世の罪を取り除いた後、それをどこへ持って行くのでしょうか？天国の聖域内の場所へ。そしてダニエルの預言は、これらの罪が永遠にそこに残るわけではないことを示しています。神は聖所の「清め」が行われる時期を定めました。このとき、聖域を汚す罪は取り除かれます。そしてこの浄化の働きの後、聖域は完全に清らかになります。このようなことが起こったとき、イエスの名において私たちの罪を告白し、さらに多くの罪を聖所に送ることは可能でしょうか？確かにそうではありません。聖域が再び汚染されてしまうため、それは不可能です。そのとき、人間にとっての恵みの時、つまり、イエスのとりなしを通して、悔い改め、信仰、告白を通して罪を消してもらえる時代が終わります。

イエスが天の聖所で私たちのために執り成してくださったという真理はもはや忘れられていないので、2,300回の午後と朝の期間が成就したことを私たちは今見ました。そして私たちは、この期間の終わりに、天の聖所で清めの働きが始まり、この働きが完了した後は、人間のためのとりなしの時がすでに終わっているように、罪を告白することがもはや不可能になることを見ました。終わる。イエスは間もなく天での働きを終えるでしょう。そして私たちの生活はどうなっているのでしょうか？私たちは今日、すべての罪をイエスのもとに持ち込んでいます。そうすれば、聖所での罪の清めが完了したときに、天国に送る罪はもうなくなりますか。浄化の働きが完了すると、もはやとりなしはなくなるので、地上のキリストの教会の会員は罪を犯すことなく聖なる神の御前で生きなければなりません。今回に対する準備はできていますか？私たちはすでに主イエスのご性質を自分の生活に反映しているのでしょうか？時間があるうちにやってみませんか。

## 第4章

### 2,300の午後と午前

前の章ではダニエル書 8 章 1 節から 14 節までを学びました。これからは、この章の残りの部分に焦点を当てます。誰かが天使に、天の聖域の真実はどれくらいの期間忘れられるだろうかと尋ねました。答えは次のとおりです。

「彼は私にこう言いました。『二千三百の夕方と朝まで。そして聖域は浄化された。』ダニエル 8:14

この期間はどれくらいの期間を指しますか?聖書から私たちに啓発しましょう。まずは「夕と朝」という言葉の意味を見てみましょう。創世記にはこうあります。

「初日は夕方と朝がありました。」創世記 1:5

「夕と朝」という表現は一日を指します。1日は2つの部分で構成されています。暗い時間、つまり「午後」と明るい時間、つまり「朝」です。したがって、「2,300 夕と朝」は 2,300 日を意味します。文字通りの 1 日 24 時間として理解すべきでしょうか、それとも別の意味で理解すべきでしょうか?神ご自身に明らかにしてもらいましょう。聖書の民数記の中で、主は次のように説明しています。

「彼らに言いなさい。『主は言われる、わたしが生きているとき、あなたがわたしの耳に語られたとおり、わたしもあなたたちにそうするであろう。……あなたたちがその地を偵察した日数に応じて、四十日、一日を表す。』」 「一年、あなたは自分の咎を四十年間負うことになる」民数記 14:34

それぞれの日が 1 年を表します。したがって、第 8 章でダニエルに与えた啓示では、2,300 日は 2,300 年に相当します。したがって、ダニエル書 8 章 14 節を次のように理解します。

「2,300年まで、そうすれば聖所は清められるだろう。」

ここで、幻を受けたときのダニエルの状況の分析に戻りましょう。いつ意味を説明していると天使は言いました

「これまで語られてきた夕方と朝の幻は真実です。しかし、それはまだ遠い日のことを指しているため、あなたはそのビジョンを保存します。私、ダニエルは衰弱し、数日間病気でした。それで私は立ち上がって、王様の仕事をしました。私はそのビジョンに驚きましたが、それを理解できる人は誰もいませんでした。」ダニエル 8:26,27

ダニエルによれば、天使は説明しなかったため、誰もその幻の意味を理解できませんでした。彼はこの説明を 8 章の最後の節 (26 節と 27 節) で述べています。この章では説明がありません。天使自身が預言者にこう言いました。「しかし、それはまだ遠い日のことを指しているため、あなたはその幻を保存しておいてください。」その時彼には何の説明も与えられなかった。預言者はこの預言の説明も受けずに残るのでしょうか?

ダニエルはベルシャザル王の3年目に2,300回の夕と朝の幻を受け取りました。「ベルシャザル王の治世の3年目に、私、ダニエルは幻を見ました。

---

最初に持っていたものの後。」ダニエル 8:1。ベルシャザルは約8年間統治した。その後、彼はメディア人とペルシア人によって殺されました。「その夜、カルデア人の王ベルシャザルが殺された。そしてメディアのダリウスは62歳くらいで、

王国を乗っ取った。」ダニエル 5:30,31. そのとき、ダニエルは再び天使の訪問を受けました。

「カルデア人の王国の王となったメディア人の血統であるアハシュエロスの息子ダリウスの治世の最初の年に、私、ダニエル...  
私は主なる神に顔を向け、断食、荒布を着て灰をかぶって、祈りと嘆願をもって主を求めました。……私が話していたとき、つまり、まだ祈りながら話していたとき、私が見た男ガブリエルは、私の視界の中で、最初、それは素早く飛んで来て、午後の犠牲の時に私に触れました。彼は私に教えたかったので、私に話しかけてこう言いました。「ダニエル、私はあなたにその意味を理解させるために出てきました。」あなたの嘆願の初めに命令が来ました、そして私はあなたにそれを宣言するために来ました、なぜならあなたはとても愛されているからです。したがって、物事を検討し、ビジョンを理解してください。」ダニエル 9:1-3,20-23

天使ガブリエルは彼にそのビジョンの「意味を理解させる」ために現れました。私は彼に「ビジョンを理解してください」と言いました。どのようなビジョンですか？明らかに、ダニエルには理解できませんでした。そして、そのビジョンとは何だったのでしょうか？ダニエル書全体の中で、ダニエル書が「私はその幻を見て驚いたが、それを理解できる人は誰もいなかった」と述べた箇所は 1 つだけです(ダニエル 8:27)。午後と午前の2,300です。ガブリエルは、2,300の夕と朝のビジョンを説明するためにやって来ました。9章の本文に続く天使の説明がわかります。

「70週間があなたの民とあなたの聖なる都市から切り離されます。」  
ダニエル 9:24

聖書の最も現代的な翻訳では、前述の節で「断ち切られた」ではなく「定められた」という言葉が使われています。ただし、この翻訳は原文に最も忠実ではありません。したがって、上記のテキストには「カット」という単語が付けられています。

午後と午前の 2,300 年が 2,300 年に相当することはすでに見ました。ガブリエルは預言者に、70週間はこの期間から「切り離される」と言いました。各週は 7 日間あります。したがって、70 週間は次のようになります。

$$70 \text{ 週間} \times 7 \text{ 日} = 490 \text{ 日}$$

$$490 \text{ 日} = 490 \text{ 年(それぞれ 1 日が 1 年を表す)}$$

2,300年のうち、預言では490年が断たれる、つまり切り離されることになります。なぜ彼らは離れ離れになってしまうのでしょうか？天使は「あなたの民からは七十週間が断たれる」(ダニエル 9:24)と言いました。この 70 週間 (490 年) で表される期間は、ダニエルの民のために予約されていました。聖書はダニエルがどの人々に属していたのかを明らかにしています。

「アリオクはすぐにダニエルを王の前に連れて行き、こう言いました。『ユダの捕虜の子らの中から一人を見つけました。その解釈を王に明らかにするでしょう。』」ダニエル 2:25

ユダはイスラエルの部族の一つでした。ダニエルはイスラエル人でした。天使がダニエルの民をめぐって70週 (490年)が分断されていたと述べたとき、彼は彼らがイスラエル人をめぐって分断されていることを示しました。この70週間の間に起こるであろう出来事は、特にイスラエルの人々の経験において実現されるでしょう。

天使はまたダニエルに、「あなたの聖なる都市をめぐって」70週間が打ち切られた、あるいは分断されたとも告げました。聖書はダニエルの都市が何であったかを私たちに明らかにしています。

「ユダの王エホヤキムの治世の三年に、バビロンの王ネブカドネザルがエルサレムに来て包囲しました。主はユダの王エホヤキムと神の家の器具の一部を彼の手に渡されました。彼はこれらをシナルの地に持って行きました...王は宦官の長であるアシュペナズに、王家の血統と貴族の両方のイスラエルの子供たちの何人かを連れてくるように言いました...その中には息子もいましたユダ、ダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤの者である。」ダニエル 1:1-3,6

ダニエルはエルサレムから連れてこられた捕虜の一人でした。彼女は彼の街だった。あなたの聖人のことガブリエルはダニエルに、70週間は「都市から切り離されている」と語り、70週間は... について表す期間（490年）がエルサレム上で決定されたことを明らかにした。天使が彼に示す出来事はエルサレムで起こります。490年は、イスラエルの人々とエルサレムに起こる出来事を預言が預言した期間となります。

この70週間は2,300年のうちのどこに位置するのかを知ることはまだ私たちには残されていません。最初でしょうか、途中ででしょうか、それとも最後でしょうか？天使はたった今、「70週は切り取られる」と言いました。さて、これらが2,300日という時間間隔の終わりまたは途中で始まると彼が指定しなかった場合、私たちはそれらがこの2,300日の始まりから始まるとしか理解できません。これをタイムラインの形にすると、70週間（490年）と2,300日の間には次のような関係になります。



70週間は2,300年の初めに始まります。

25節にある天使の説明を読み続けます。

「知って、理解してください。エルサレムを修復し建設せよという命令が出されてから、油そそがれた者、君主に至るまで、七週間と六十二週間。広場やバイパスは再建されるだろうが、それは悲惨な時代に限られるだろう。」ダニエル 9:25

言及された聖句を読むと、天使が預言の時間を数えるための出発点を与えていることがわかります。「エルサレムを回復し建設する命令が出されてから」と彼は言います。ここで天使は、カウントの始まりとなる出来事を明らかにします。それは「エルサレムを修復し建設する命令」です。これが天使によって開始点として与えられた唯一の出来事であり、天使が2,300回の夕と朝を説明しているため、これが2,300回の夕と朝を数える開始点であると理解します。そして、天使は70週を、世界から切り離された期間として説明しています。

午後と午前は 2,300 回、これが天使から与えられた唯一の開始点であり、これが 70 週を数える開始点でもあることに私たちは気づきます。したがって、エルサレムを回復し建設せよという命令は、2,300 年と70週間（490年）の数え始めを示す出来事となるのです。この命令はいつ発行されましたか？エズラ記には、そのコピーが書かれています。

「これは、アルタクセルクセス王が、イスラエルに対する主の言葉、戒め、掟の書記官である祭司エズラに与えた手紙の写しである。王の中の王アルタクセルクセスが、神の律法の書記官である祭司エズラに宛てたものである」天国：平和は完璧です！私の王国では、イスラエルの人々とその祭司、レビ人のうち、あなたと一緒にエルサレムに行きたい者は誰でも、行かなければならないと私が命じました。あなたは、王とその7人の顧問官から、あなたの手の中にあるあなたの神の律法に従って、ユダとエルサレムについて調べるように命じられているからです。そして、王とその顧問たちが進んでエルサレムに住むイスラエルの神に捧げた銀と金、そしてバビロン全州で見つけられる銀と金を、彼らの自由意志の捧げ物とともに受け取ることです。民も祭司も、エルサレムにある彼らの神の宮に無償でささげられた。」

エズラ記 7:11-16

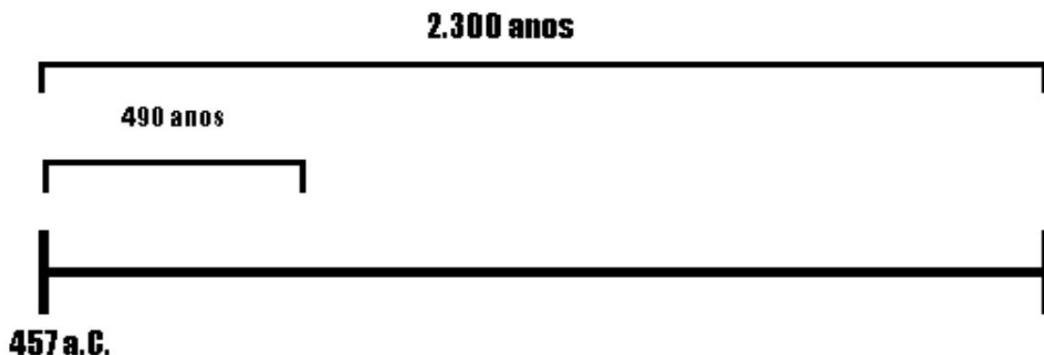
アルタクセルクセス王は、「それは私によって定められたものである」、つまり、それは王の命令であると述べています。その法令には、「あなたは、あなたの手にあるあなたの神の律法に従って、ユダとエルサレムに関する調査を行うために、王とその7人の顧問官から遣わされる」と述べられています。「審問」という言葉には「判断」という意味があります。アルタクセルクセス王が祭司エズラに「神の律法に従って」ユダとエルサレムで調査を行うよう命じたという事実は、この法令の中でアルタクセルクセスがエズラに神の律法を適用して裁きを行使する自律的に統治する権限を与えたことを示している。

そのような命令を与えることによって、アルタクセルクセス王はエルサレムの政府を「回復」していました。

この日までに、キュロス皇帝とダリウス皇帝から、人々にエルサレム再建を許可する二つの布告がすでに公布されていました（エズラ記 1:1-4; 6:1, 14; 6-8）。しかし、政府の復活を許した者は誰もいなかった。天使はダニエルに、預言の始まりを示す命令、つまり布告は「修復して建てる」ことであると告げました。

エルサレム（ダニエル 9:25）。エルサレムの再建を命令するだけの命令では預言は成就しません。エルサレムの政府も「回復」という命令が下される前に、預言で予言されていた時の数えを開始する条件は満たされませんでした。しかし、アルタクセルクセスの時代には、上記の法令の中でアルタクセルクセスも次のように述べているように、「政府を回復する」と同時に再建する命令が下されました。バビロンの全州で見つけた銀と金を、自由意志の捧げ物とともに……エルサレムにあるあなたの神の家に捧げなさい。」アルタクセルクセスは、「エルサレムにある」神の家を建設する仕事を完了するために捧げ物を集めるように命令します。そして彼はさらに言った、「それから、あなたの神の宮に必要なものは何でも、あなたが喜んで与えてくださるものは、王の宝物庫から差し出さなければなりません。」エズラ記 7:20。神の家はエルサレムにあり、エルサレムの一部であり、その再建を命じた法令は、結果的にエルサレム市を再建する法令であった。そして、この命令が成就したときから預言の数えが始まりました。歴史によれば、この出来事は紀元前 457 年に起こり、その年以降、午後と午前の 2,300 回の数えが始まり、70 回になりました。

週:



ダニエル 9 章 25 節の天使の説明に戻ります。彼は言った：

「知って理解せよ :修復と建設の命令が出されるまで」  
エルサレムから油注がれた者へ、君主へ、七週間と六十二週間。」  
ダニエル 9:25

天使は、紀元前457年であることがわかっているこの出発点から「油そそがれた者、王子まで」と言っています。主の軍隊の君がイエスであることはすでに見ました。そして天使は、イエスを「油そそがれた者」という二つ目の称号で呼ぶように神から指示されました。「油注がれた」という言葉は、神の聖霊の象徴である油を「油注がれた」人を指すのに使用されます。天使は、イエスを油そそがれた者と呼ぶことによって、預言が示す時期にはイエスが「油そそがれた」ことになり、したがって「油そそがれた」と呼ばれることができることを示しています。天使が示した時間は何時でしたか？彼は言った：

「命令の発令から…油そそがれた王子まで、 7週間と62週間」

「7週間と62週間」の期間は、7の合計に等しい。  
週 + 62 週:

$$7\text{週間} + 62\text{週間} = 69\text{週間}$$

各週は 7 日間なので、次のようになります。

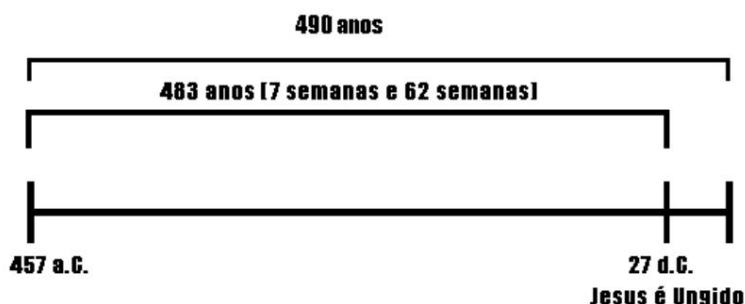
$$69\text{ 週間} \times 7\text{ 日} = 483\text{ 日}$$

預言の 1 日が 1 年に相当することはすでに見ました。したがって、483日は、483年に相当します。天使はこう言いました。

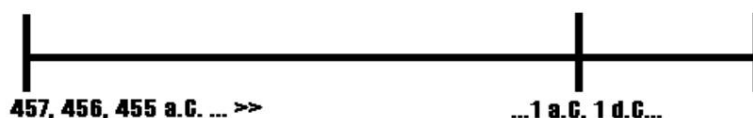
「命令の発令から…油そそがれた王子まで、7週間と62週間」

出発点である「秩序の出発」は紀元前 457 年に相当します。

その年から数えて、「油そそがれた君である君まで」、つまりイエスが油そそがれた時までには、「7週間と62週間」進めなければならない、と天使は言いました。483年。天使の説明をよりよく理解できるように、それをグラフに表します。



紀元前 457 年から 483 年前に進むと、次のようになります。



上のグラフには「0」という年が存在しないことに注意してください。紀元前 457 年以降、紀元前 1 年に達するまで年数は減少します。その後、紀元後 1 年目に直接進みます。紀元前 457 年から 483 年進んだ正しい年に到達するには、この点に注意することが重要です。紀元前 457 年から 457 年進むと、次のようになります。

457
- 457
-----
000

計算結果は 0 (ゼロ) になりますが、ゼロ年は存在しないため、457 年前に遡ると、そのまま西暦 1 年 (紀元後「1」年) に到達します。時間を進める必要がある 483 年のうち 457 年進んだとしても、483 年の終わりに到達するには、さらに 483 年から 457 年進める必要があります。まだ何年かかるかを計算してみましょう。

483
- 457
-----
026年

457 年進むと 1 年目に到達することはすでに確認しました。その年 (1 年目) からさらに 26 年進み、483 年完了すると、次のようになります。

西暦 1 年 + 26 年 = 西暦 27 年
-------------------------



そして、483 年が経ち、西暦 27 年に到達したことに気づきました。天使は、「教団の出発から」、つまり紀元前 457 年から「油そそがれた王子」が現れるまで、「七週間と六十二週間」になります(ダニエル9:25)。天使によって与えられた期間は西暦 27 年に終わり、その年に「7 週間と 62 週間」、つまり 483 年が完了します。天使は、この期間の終わりに、王子であるイエスが「油そそがれる」のが見られるだろうと言いました。これが実際に起こったことは歴史が証明しています。イエスは西暦 27 年に洗礼を受けて油そそがれました。聖書は、イエスが洗礼を受けて聖霊を注がれた場面を次のように描写しています。

「イエスがバプテスマを受けると、すぐに水から上がると、見よ、天が彼の前に開かれ、イエスは神の霊が鳩のように降りてきて、彼のところに来る。」マタイ 3:16



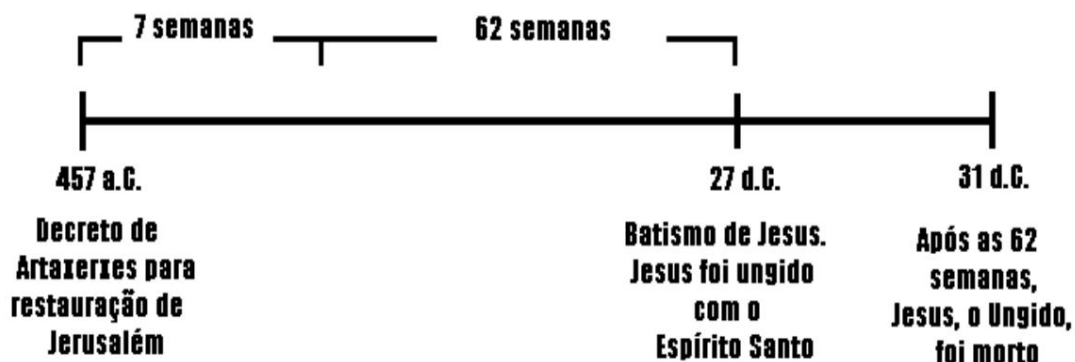
ここで、天使の説明の分析を続けることができます。

「62週間後、油そそがれた者は殺され、もう存在しません。」  
ダニエル 9:26

この油注がれた者がイエスであることはすでに見てきました。26 節で、天使は「七週間と三十分と二週間」という完全な期間について言及していないことに注意してください。ただ「62週間後」とだけ書かれています。なぜ彼はこんなことをするのでしょうか？ 62週間は、天使が25節で与えた期間の最後の部分であることに注意してください。

(1) 7 週間、(2) 62 週間。

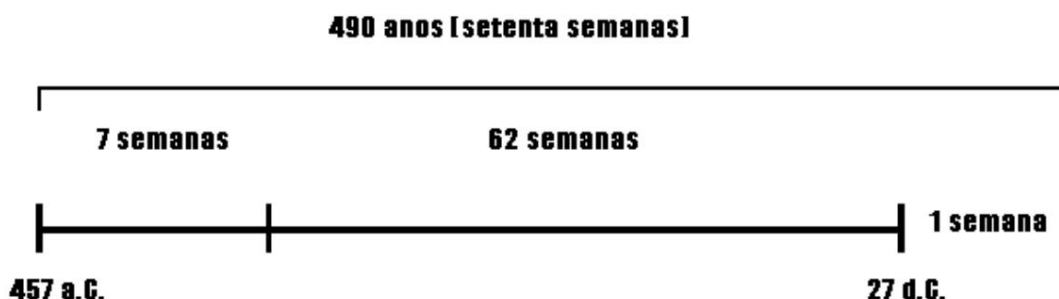
「62 週間」は指定された期間の最後の部分を構成するためです。この62週間は「7週間と62週間」の期間が終わったとき、つまり西暦27年に終わりました。62週間後に油そそがれた者が殺されるということで、天使は西暦27年以降にイエスが殺されるであろうことを明らかにしているのです。歴史によれば、イエスは西暦 31 年に亡くなったので、西暦 27 年以降に亡くなったということになります。



次の節に進みましょう。

「彼は一週間の間、多くの人々と堅い契約を結ぶでしょう。週の半ばにはそうなります  
いけにえと肉のささげ物はやめなさい」ダニエル9:27

天使は何週のことを話していますか？ 70 週間のうち、彼はすでに  $7 + 62 = 69$  週間について議論しました。  
つまり、最後の 70 番目について話しているに違いありません。



7 + 62 週間の期間の終わりには、70 週間を完了するまでに 1 週間残っていることに注意してください。  
この先週の預言が成就する出来事の説明が 27 節にあります。

「彼は一週間の間、多くの者と堅い契約を結ぶであろう」ダニエル 9:27

70 回の最後となる今週は、西暦 27 年から始まります。1 週間は 7 日あり、すでに見たように、この  
預言では 1 週間は 7 年に相当します。歴史によれば、イエスは油そそがれて以来、ユダヤ人の影響下で十字  
架につけられるまでの3年半の間、ユダヤ人に福音を告げ知らせました。しかし、ユダヤ人への福音の説教は  
ちょうど 7 年が経過する西暦 34 年まで続きましたが、この年、敬虔なユダヤ人キリスト教徒ステファノがユ  
ダヤ人自身の手によって殺害されました。

「そして彼らはステューブンを石で打ちました。ステューブンは電話してこう言いました。「主イエ  
スよ、私の霊をお受けください！」それから彼はひざまずいて大声で叫びました、「主よ、この罪を彼らに押し  
つけないでください！」これらの言葉を残して、彼は眠りに落ちました。... その日、エルサレムの教会に対し  
て大きな迫害が起こりました。「そして、使徒を除く全員が、ユダヤとサマリアの地方に散り散りになっ  
た。……散り散りになった者たちは、御言葉を宣べ伝えるためにどこへでも行った。」使徒 7:58、60、8:1 と

スティーブンが殺害された日、「教会に対して大規模な迫害が起こり」、キリスト教徒は「散らばり」、「どこにでも行って御言葉を宣べ伝えた」。

福音はユダヤ人だけに宣べ伝えられることをやめ、異邦人にも宣べ伝えられるようになりました。ユダヤ人にとっての70週間の「遮断」は終わった。

ステファノの殺害は、7年間の期間、つまりイエスが「契約」を結ぶだろうと天使が告げた週の終わりを告げるものでした。

「彼は一週間の間、多くの者と堅い契約を結ぶであろう」ダニエル 9:27

西暦27年のバプテスマ以来、イエスと使徒によって宣べ伝えられた福音を受け入れた人々は、この契約を受け入れました。しかし、ユダヤ人は一般に、ステパノを殺害した後、福音の説教者たちをエルサレムから追放したとき、これを拒否しました。これは、この週の終わりに発生しました (西暦 27 年 + 7 = 34 年)。このようにして、70週間にわたる預言は成就しました。

先週もこのことを説明していた天使はダニエルにこう言いました。

「週の半ばには、彼はいけにえと肉の捧げ物をやめるだろう」ダニエル 9:27

「週の半ばに」、つまり7年間の期間の真ん中に、「犠牲は」「終わる」のです。7年の半分は3年半です。この週が西暦 27 年に始まったことはすでに見てきました。それに 3 年半を加えると、西暦 31 年に到達します。歴史によれば、これはイエスが殺された年でした。天使がダニエルに与えた預言は、イエスが罪人のために死ぬ時を示していました。

それは天使が与えた「週の半分」に起こった出来事でした。そして、イエスの死はどのようにして「犠牲を止めた」のでしょうか。聖書に答えがあります。神は、人間が罪を犯したとき、動物に対して罪を告白し、それを犠牲にするように規定されました。動物の血には罪を赦すという救いの徳はありませんでしたが、それは私たちのために犠牲になるために来られる方、つまり真の祭壇、カルバリの十字架の上に犠牲になるイエスの血を表していました。イスラエル人によって捧げられたあらゆる犠牲、罪のためのいけにえは、私たちに代わって神の御子の犠牲を思い出させました。バプテスマのヨハネは、犠牲にされた動物はイエス・キリストを表しており、その流された血は神の律法に背いた人間の許しを得ることができると理解していました。ジョンはこの真実を次のように表現しました。

「ヨハネは、イエスが自分のところに来られるのを見て、こう言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ！」。ヨハネ 1:29

イエスが殺されたとき、真の犠牲が捧げられました。では、真の犠牲がすでに行われているのであれば、罪の赦しのために動物を犠牲にし続ける必要がどこにあるのでしょうか？イエスがカルバリの十字架で死んだ後は、動物を犠牲にする必要はなくなりました。罪人は自分の犠牲に対する信仰を表明するだけで済みます。

エルサレムの神殿は、犠牲として動物が連れて行かれる場所でした。イエスが亡くなったとき、神はエルサレムの聖所が動物を犠牲にする場所ではなくなると証言されました。

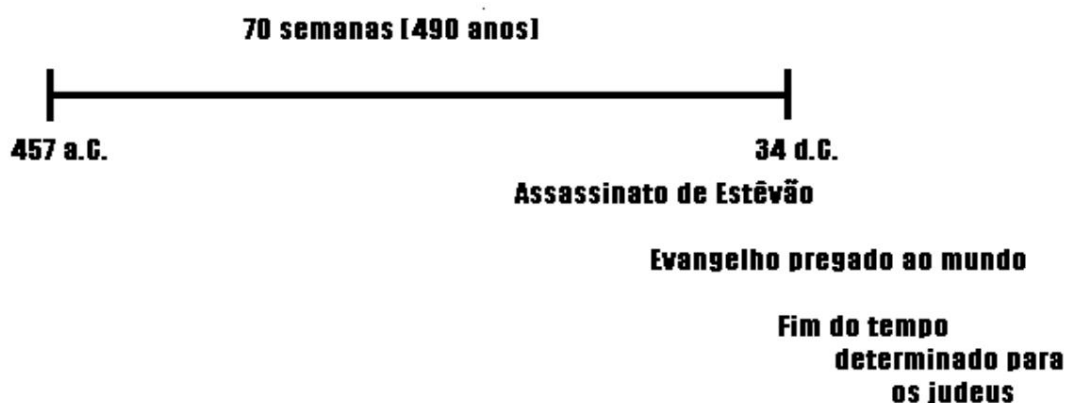
それは人々が許しを得ることができるようにするためであった。このことはマタイの福音書に次のように記されています。

「そしてイエスは、再び大声で泣きながら、霊を捨てた。見よ、  
聖域の幕は上から下まで真っ二つに引き裂かれた。」マタイ 27:50,51

高さ約5メートルのベールが「上から下」まで引き裂かれるという超自然的な作業だった。目に見えない存在が神殿のベールを引き裂きました。ベールは、罪人によって犠牲にされた動物の血が運ばれる場所でした。ベールが引き裂かれたとき、神はその聖所で行われた動物の犠牲はもはや意味をなさないと言われました。そこで奉仕していた祭司の奉仕も止まり、天における人々の真の祭司としてのキリストの奉仕に取って代わられることとなります（ヘブライ人への手紙 8:1,2）。

ダニエル 9 章 27 節で、天使は預言者に、同じ日に、「週の半ば」にイエスが「食事の捧げ物」をやめるだろうと告げていました。この捧げ物もキリストを表していました。それは上質な小麦粉または小麦粉のケーキから作られ、常に酵母は使用されませんでした。パン種は罪の象徴です。キリストの体を捧げることは罪のない捧げ物でした。キリストは一度も罪を犯さなかったからです。捧げ物としてささげられた小麦粉は穀物を挽いて作られたもので、私たちの咎のために挽かれるキリストを表していました（イザヤ書53:5）。イエスがカルバリの十字架で死なれたとき、イスラエル人は象徴的な捧げ物を捧げる必要がなくなりました。したがって、預言で予告されていたように、イエスは十字架の犠牲を通して食物の捧げ物も止められました。神は、愛する御子を私たちの罪の犠牲として送る時がいつ来るかを事前にご存じであり、この祝福された御業がいつ行われるかを、御使いを通して預言で知らせられました。

70週間の終わりに、イスラエルはステパノを殺害し、説教者たちをエルサレムから追放することで、神がキリストと使徒の説教を通して彼らに提案された福音の拒否を明らかにした。この期間の終わりには、イスラエルの人々はもはや地上の神の教会とは見なされなくなり、エルサレムは神が人々と共に住む物理的な場所では永遠になくなるでしょう。



西暦 34 年以降に書いた使徒パウロは、彼らは次のように述べています。  
真のユダヤ人はイエス・キリストを信じる人々であると考えられていました。

「そして、神の言葉が失敗したとは思えないでください。すべての人が失敗したわけではないからです」  
実際、イスラエルはイスラエル人です。また、彼らはアブラハムの子孫であるため、全員がアブラハムの子供というわけではありません」ローマ  
人への手紙 9:6,7

「ですから、信じる者はアブラハムの子であることを知りなさい。」ガラテヤ 3:7

「なぜなら、彼は外見上だけのユダヤ人ではないからです...しかしユダヤ人は、次のようなユダヤ人です。  
それは内なるものです」ローマ人への手紙 2:28,29

ダニエル 9 章 24 節で天使はこう言いました。  
あなたの民とあなたの聖なる都よ、罪を終わらせるために。」ダニエル 9:24

神はイスラエルの民に対して目的を持っていました。もし彼がキリストと使徒たちによって宣べ伝えられた福音を受け入れていたら、ダニエル 9 章 24 節にあるように、キリストは彼らに、70 週間の終わりに彼らの罪が「やむ」ようにする力を与えていたでしょう。しかし、彼らはキリストを拒否し、人生において神の目的が達成される代わりに、罪を重ね、キリストとステパノを殺しました。したがって、神の目的は、彼らを拒絶した人々の人生では成就できませんでしたが、良いたよりを信じるすべての者の人生では成就されました。これらの人々は、信仰を通して与えられたキリストの恵みによって、心の中に存在していた神に対する敵意を「止め」ました。神は人を尊重しないことがわかります。ユダヤ人も異邦人も、キリストを通してのみ約束を受け継ぐことができます（ローマ人への手紙 3:30）。ユダヤ人であるパウロは次のように書きました。

「私たちに何かメリットがあるのでしょうか？いいえ、まったくそうではありません。なぜなら、ユダヤ人もギリシャ人も、すべての人が罪の下にあることを私たちはすでに証明しているからです。「正しい人は一人もない、理解する人もいない、神を求める人もいない」と書いてあるとおりです」ローマ人への手紙 3:9-11

ここまで、私たちは天使がダニエルに与えた70週間の説明を研究してきました。しかし、天使がダニエルに2,300回の夕と朝の幻を説明するために来たことを私たちは忘れることはできません。2,300年間の最初の部分である「70週間」。

70 週間と 2,300 年のタイムラインをまとめたグラフを下にもう一度示します。

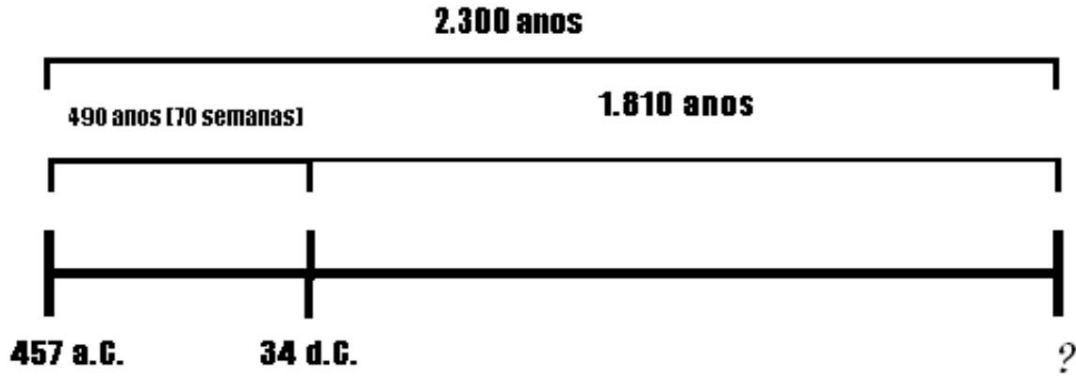


70 週間を調査するときすでに 490 年進んでいるので、2,300 年を完了するまでの残り時間を確認し、490 年の終わりに対応する日付に追加するだけです。

$$\begin{array}{r} 2300 \\ - 490 \\ \hline \end{array}$$

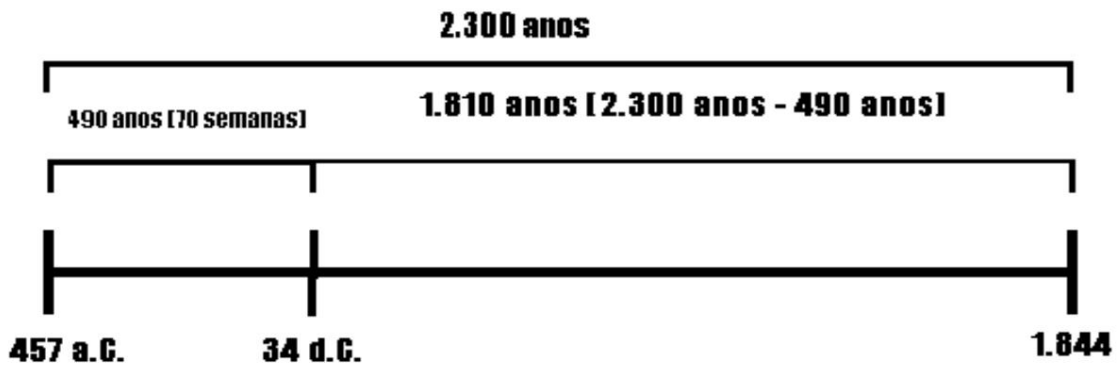
1810年

2,300年にわたる予言は2つの部分に分かれていました。最初の70部分は週は490年に相当し、残りの時間は1810年に相当します。



記号上のグラフのは、予言によって予測された期間が終了する年を表しています。これを知るには、490年間を終了した年(上のグラフによれば、西暦34年)を、2,300年間の終わりに達するまでの残りの年に単純に加算します。計算してみると、次のようになります。

0034 直流  
 + 1810年  
 -----  
 1844 d. C.



2,300回の夕と朝の予言は1844年を指しており、「2,300回の夕と朝が来るまで、そして聖所は清められる」(ダニエル8:14)と書かれていました。どの聖域ですか？ダニエル8章を学ぶと、ここはイエスの聖所であり、人間の手によって建てられたものではないことが分かりました。それはキリストがとりなしてくださる場所であり、天にあります(ヘブライ人への手紙8:1,2; 9:24)。天国の聖域を汚すものは何でしょうか？

罪。イスラエルの聖所では、人々が犠牲となる動物に対する罪を告白したとき、この聖所(「聖」と呼ばれる)の2つの区画を分ける聖所の内側の幕(カーテン)にこの動物の血が振りかけられました。そして「至聖なる」。ペールに血を振りかけるというこの行為は、

その動物について告白された罪は、その血を通して聖域に移されました。このようにして、毎年、この象徴的な移転の働きによって、イスラエルの聖所は罪で満たされていきました。そして、年に一度、司祭によって聖所が清められました。同様に、カルバリの十字架でキリストの犠牲が成就された後、人がイエスへの信仰によって自分の罪を神に告白すると、その罪はキリスト・イエスの血の功績によって天の聖所に移されます。過去にイスラエルの民に与えられた聖所で行われた儀式は、天でのキリストの奉仕を通して実際に何が起こるかを示す一例でした。そのため、パウロはエルサレムの聖所で行われた儀式を報告した後、「これは現代のためのたとえである」と言いました。

(ヘブライ人への手紙 9:9)。

2,300の夕と朝の預言によって、神は、その預言に示されている2,300年が終わるとき、つまり私たちが1844年に到着したとき、天国の「聖所」が「清められる」ことを私たちに知らせました。私たちの真の司祭であるイエスは、1844年に聖所を清める働きを始めました。神はいつ終わるのでしょうか？すぐ。そして、主が終わりを迎えると、私たちは罪を告白する手段がなくなり、罪を再び聖域を汚すこととなります。一度浄化されれば、天国の聖域は再び汚されることはありません。黙示録の次の言葉は、聖所を清める働きが終わったときのイエスの態度をよく表しています。義人は義を実践し続け、聖人は自らを聖化し続ける。」黙示録 22:11。今日は、私たちの罪を示してくださるよう神に願い、イエスの犠牲を信じてそれを告白し、彼らを神の聖所に早めに送る時です。したがって、キリストの働きが完了すると、私たちはもはや告白する罪がなくなり、純粹で汚れのない状態となり、とりなしなしで聖なる神の前で生きることができるようになります。

神は聖域の浄化が終わるとこのような状態になる人々を地球上に持つでしょう。これらの人々は黙示録で次のように説明されています。

「私が見ると、見よ、小羊がシオンの山に立っていました。そして、彼と一緒に14万4千人がいます...彼らは小羊が行くところどこにでも従う者です...彼の口には嘘は見つかりませんでした。彼らには何の傷もありません。」黙示録 14:1,5

神の力と恵みによって、私たちがこの汚れのない民の一員となれますように。  
主イエスよ。アーメン。

## 第5章

### 黙示録 13 章 - 獣の統治

最初の章でダニエル 2 章の象徴的な像を研究したとき、10本の指がキリストの再臨の時に世界を統治する王に対応していることが分かりました。黙示録の第 13 章には、10本の角を持つ獣の象徴を通して、補足的な啓示が示されています。

「そのとき、私は海から上がってくる獣を見た。十本の角と七つの頭があり、その角には十個の冠があり、頭には冒流の名が刻まれていた。」黙示録 13:1

この 2 つの対応に注目してください。ダニエル 2 章の像の 10 本の指。獣の十本の角。しかし、黙示録 13 章の本文には、私たちの注意を引く詳細が述べられています。

「私は、十本の角と七つの頭を持つ獣が海から上がってくるのを見た。  
角は十の冠」黙示録 13:1

ダイヤデムは王冠です。王が「王国」を受け取ると、彼はどうなるでしょうか？戴冠式です。ヨハネが10本の角が「王冠を授けられている」を見たという事実は、それらによって表される10人の王がすでに王冠を授けられていたことを明らかにしています。黙示録 17 章では、この同じ獣に関するさらなる詳細が追加されています。そこで天使は、十王が権力を握ったときに何をするかを予言します。

「彼らも同じ志を持ち、自らの力と権威を獣に譲り渡すつもりだ。」  
黙示録 17:13

引用された聖句は、この十人の王の力を獣に引き渡すことによって、彼は世界的な権力を手に入れ、地球全体が彼に仕えることになることと予言しています。黙示録 13 章では、その獣が全地を支配する力を持つようになる。

「そして、私が見た獣はヒョウのようで、その足はクマの足のようで、その口はライオンの口のようにでした。そしてドラゴンは彼に力と王座と偉大な権威を与えた。」黙示録 13:2

その獣は「ヒョウ、クマ、ライオン」の3つの動物の特徴を持っていました。いつ私たちがダニエル書 7 章を研究しましたが、それらが次のことを象徴していることがわかりました。

獅子座 - バビロン。  
クマ - メディアペルシャ。  
ヒョウ - ギリシャ。

ダニエル 7 章では、これら 3 匹の動物は 3 つの王国を表していました。そして、これらの代表的な王国に共通するものは何でしょうか？バビロン、メディア・ペルシャ、ギリシャはすべて世界強国でした。この獣が三匹の動物の特徴を備えているということは、その獣が地球全体を支配することを意味します。黙示録 13 章でヨハネがそれを見たとき、その獣はすでに地上の 10 人の王の力を受けていました。2 節はさらに、「そしてドラゴンは彼に力と王座と偉大な権威を与えた」と報告しています。聖書では、ドラゴンはサタンの特徴です。

「そして、偉大な竜、あの古代の蛇は地に投げ落とされました。  
悪魔とサタンを呼びます」黙示録 12:9。

獣は神の力ではなくサタンの力によって統治し、権威を持つようになる。



「また、その頭の一つが致命傷を負ったかのように見えてましたが、その致命傷は治癒していました。彼が獣を追ったとき、全地が驚嘆した」黙示録 13:3

ヨハネは、その獣の頭の一つを「まるで死ぬほどの傷を負ったかのように」見た。獣は教皇庁であり、彼らの頭は指導者である教皇を表しているに違いありません。「まるで致命傷を負ったかのように」という表現は、元のギリシャ語の「スファゾ」という言葉の翻訳です。この言葉は常に実際に亡くなった人を指すのに使用されます。例として、この表現が登場する一節をここに引用します。

「そして私は、玉座と四匹の生き物の間で、長老たちの真ん中に、屠られたかのように立っている小羊」黙示録 5:6

前の節で「殺されたかのように」という表現は「スファゾ」という言葉の訳です。「小羊」は殺されたものとして描かれています。私たちは小羊が私たちのために屠られたイエス・キリストであることを知っています。したがって、原文で「スファゾ」という言葉が使用されている場合、それが指す人物が実際に殺されたことを意味していることがわかります。黙示録 13 章で、獣の頭の一つが「スファゾ」（致命傷）を負ったと表現されているという事実は、その頭が実際に「死んだ」ことを意味します。

「しかし、彼の致命的な傷は癒されました。地球全体が驚嘆した。獣」黙示録 13:3

教皇が亡くなり、「復活」して現れる。教皇が「復活」したのを見れば、地球全体が驚くのも不思議ではありません。引き続き第 13 章を読みます。

「そして彼らはドラゴンを崇拝しました。なぜなら、彼は獣に権威を与えたからです。そして彼らはその獣を崇拝して言った、「誰がその獣に似ているだろうか？」誰が彼女と戦えるだろうか？」黙示録 13:4

ヨハネは、地球の住民が復活した教皇を見ると彼を崇拝し、敬意を払うだろうと考えました。そしてそうすることで、彼らは実際に自分たちに権威を与えてくれる者、つまりサタンその人を崇拝することになるでしょう。したがって、「復活」は神の摂理によってではなく、サタン自身の行為によって起こることがわかります。引用された聖句はまた、地球の住民がこの事実を目撃したときに何と言うかについても述べています。誰が彼女と戦えるだろうか？これらの質問は、地球の住民が「死からよみがえった」人を見るという現実と直面する驚きを明らかにします。昨今、死についての話題が多くなっています。死後に何が起こるかについて何千もの本が書かれています。さまざまな宗教がそれぞれ死後に何が起こるかについて理論化していますが、それでもなお、何千人もの人々の心の中に、次のような疑問が残ります。今日に至るまで、私たちは、復活したと証明され、死の間に見たことを語った人を見たことがありません。」サタンは、この欺瞞を通して、何千人もの人々に、この「復活した」教皇の言葉を彼らの疑問に対する真の答えとして受け入れさせるでしょう。死んで生き返った人の言葉にどうして疑問を持てるのでしょうか？そして、もし彼が死への鍵さえ持っているなら、なぜ私たちは彼の言葉を信じるべきではないのでしょうか？このような質問は、次の預言の言葉を反映しています。誰が彼女と戦えるだろうか？」実際、ここの住民は、

地球は、死を克服する力があることを「証明」して死からよみがえった者に対抗する力や権威は地球上に誰もいないと考えるでしょう。預言はさらに次のように述べています。

「彼には傲慢さと冒涇を語る口が与えられました。そして彼には42ヶ月間行動する権限が与えられた。」黙示録 13:5

神の言葉によれば、冒涇とは何でしょうか？

「そして大祭司は彼に言った、「生ける神にかけてあなたにお願いします。あなたが神の子キリストであるかどうか私たちに教えてください。」イエスは彼に答えた、「あなたの言ったとおりです。」すると大祭司は衣服を引き裂いて、「彼は冒涇した。なぜまだ証人が必要なのでしょうか？見よ、今あなたは彼の冒涇を聞いたであろう。」マタイ 26:63-65

パリサイ人たちは、イエスが自分を神の子であると言ったとき、それを冒涇していると考えました。実際には神の子ではないのに、誰かが自分を神の子だと主張することは冒涇とみなされていました。イエスは神の子でしたが、パリサイ人たちは信じようとしませんでした。したがって、彼らにとって彼の発言は冒涇でした。したがって、私たちはこの概念を理解します。誰かが自分をキリストの代わりに置くと、冒涇するのです。各教皇は、バチカンの王位に就くと称号を持ち、この国の公用語であるラテン語で「ヴィカリフ・フィリイ・デイ」と読みます。意味は「神の子の代わり」です。どうして人はこの称号を自分のものにできるのでしょうか？神の言葉によれば、実際には神の子ではないのに、自分をキリストの代わりとして神の子として置くことは冒涇的な行為であり、冒涇です。本文には「彼には傲慢さを発言する口が与えられた」とも書かれています。「傲慢」という言葉には「誇り」という意味もあります。これは、彼が地球上の他の偉大な者たちよりも自分を高く評価すること、また自分の権威が疑問視されることを許さないことを示しています。彼は何よりも自分自身を高く評価します。預言は今も時を示している

その期間中、この教皇はそのような権限を有することになります。5節に「四十二か月の間」とあります。42 か月は3年半に相当します。これは地球上の最後の教皇の統治期間となります。彼が権力を握っている間に何が起こるのでしょうか？次の聖句は私たちに次のことを明らかにします。

「そして彼は神に対する冒涇の言葉を口を開いて、神の名と神を冒涇しようとした。彼の幕屋と天に住む人々。」黙示録 13:6

私たちは「冒涇」という言葉の意味をすでに学びました。誰かが神の子の代わりに自分自身を置くと、神の子の代わりに自分を置くと、その人は神を冒涇していることになります。したがって、「冒涇」とは、神によって定められたものの代わりに自分を置くという事実を指します。したがって、神の「名」を冒涇するということは、神の「名」の代わりに何かを置くことを意味するに違いありません。神の「名前」が何であるかを私たちが知っていれば、教皇が代わりに何を置くのかをより簡単に示すことができます。出エジプト記には神の名前についての言及があります。

「それから主はモーセに言われた、『最初の石の板と同じように、石の板を二つ切りなさい。そして、私はその板に、あなたが壊した最初の板に書かれていたのと同じ言葉を書きます...それから彼は、最初のものと同じように、石の板を2枚切りました。モーセは朝早く起きて、主が命じられたとおりにシナイ山に登り、二枚の石の板を手にした。主は雲に乗って降って来て、彼とともにそこに立っておられた。そして彼は主の御名を告げた。』出エジプト記 34:1,4,5

主はモーセにこう言われました、「そしてわたしは最初の石板に書かれていた言葉を彼らの上に書き記す」。この「言葉」が十戒でした。聖書は神がこれらの石板に律法を書き記したことをどのように説明していますか？私たちが読んだ最後の聖句は私たちに次のことを明らかにします。

「主は雲に乗って降って来て、彼とともにそこに立っておられた。そして彼は主の御名を宣べ伝えた。」出エジプト記34:5

神が御名を宣言するとき、神は律法を書き記します。

黙示録に戻りますが、冒瀆とは神の代わりに自分を置くことを意味します。神の名を冒瀆することは、神の法律の代わりに法律を置くことです。教皇たちは神の律法の代わりに人間の戒めを置き、教理問答を通して教えてきました。その中で、第4戒の代わりに、「日曜日と祝日を守りなさい」と書かれています。しかし、神の律法の第4戒めには次のように書かれています。6日間働き、すべての仕事をこなします。しかし七日目はあなたの神、主の安息日である。」出エジプト記 20:8。

教皇たちは神の律法に定められた戒めに反する戒めを宣言し、神の名を冒瀆している。そうは言っても、黙示録 13 章 6 節の言葉を理解するのは簡単です。すべての教皇は神の名を冒瀆しています。しかし、預言の中で示されている者は、地球を支配する10人の王の力を受けるため、他の者よりも大幅にそうするでしょう。

黙示録 13:6 には、獣が「自分の…幕屋を冒瀆するために口を開いて冒瀆した」とも書かれています。「幕屋」という言葉は、旧約聖書の中で神の「聖所」を指すのに使われています。天には聖所があり、そこでイエス・キリストが私たちのとりなし者また祭司として仕えています。

「さて、私たちがこれまで述べてきたことを総合すると、私たちにはこのような大祭司がいるということです。この大祭司は天にある陛下の御座の右に座し、聖所と主が設立された真の幕屋の奉仕者であり、「人間ではありません」へブライ人への手紙 8:1,2

神の幕屋を冒瀆することは、その場所に別の幕屋を置くことです。教皇は自分たちの教会を「聖域」と呼びます。このことで彼らは神の幕屋を冒瀆しています。彼らはまた、司祭を「司祭」および執り成し者と呼び、信者に罪を告白するよう命じます。このようにして、彼らは人々の心を真のものから人間によって確立された偽のものへとそらしめます。偽りの聖所礼拝には、崇拜者に神聖さや安らぎを伝える美徳はありません。天の聖所におけるキリストの奉仕だけが私たちに益をもたらします。この点で誰も誤解しないでください。

黙示録 13 章には、その獣が「天に住む」人々に対して冒瀆を言うことも明らかにされています。この表現は何を意味するのでしょうか？その答えは、エペソの信者たちに語ったパウロの言葉の中にあります。

「しかし、神は憐れみに富んで、……私たちが罪過で死んでいたにもかかわらず、私たちがキリストとともに生かし（恵みによってあなたは救われました）、私たちがキリストとともによみがえらせ、キリストとともに座らせてくださいました。」キリスト・イエスにおける天の領域」

エペソ人への手紙 2:4-6

神は私たちがキリストとともに「天の場所」に座らせました。したがって、黙示録は彼らが「天に住んでいる」と述べています。獣は冒瀆的な言葉を吐きます。つまり、イエスを本当に受け入れた人々を偽りの性格で表現します。

「また、彼は聖徒たちと戦争をし、聖徒たちに打ち勝つことも許された。そして彼に与えましたあらゆる部族、民族、言語、国家に対する権威。」黙示録 13:7

獣は聖徒たちに「戦争」を起こし、彼らを打ち負かします。ダニエル 7 章を学んだとき、教皇庁が聖徒たちに戦争を仕掛け、彼らを破るということが何を意味するのかがすでにわかりました。教皇庁に忠実な軍隊を通して、神とその律法に敬意を払う神の聖徒たちを殺害したのです。したがって、ここでそれは、最後の教皇がその権威の下にある勢力を通じて過去の歴史を繰り返し、神の聖人たちを殺そうとすることを意味します。この聖句はまた、「あらゆる部族、民族、言語、国家を支配する権威が彼に与えられた」とも述べています。教皇は地球全体に対する権威を持ち、それには正式に設立されたすべての教会も含まれます。いかなる国家も、部族も、言語も、人々も神の権威から自由になることはできません。彼は世界を支配するでしょう。

「そして、地上に住むすべての者は、世の初めから屠られた小羊の書に名前が記されていない彼女を崇拜するでしょう。」黙示録 13:8

「地上に住む人々」という表現は、キリストへの奉仕に入らなかったことのない人々を指します。彼らは霊的に天に住んでいるのではなく、地上に住んでいます。これらの人々は小羊の書に名前が書かれていません。彼らは皆、その獣を崇拜し、その命令に従います。私たちは黙示録 13 章を読み、研究し続けます。

「耳のある人は聞いてください。」黙示録 13:9

前のテキストには、「耳のある人は、聞いてください」とあります。この表現は何を意味するのでしょうか？聴覚に障害のない人だけがメッセージを聞くことができるということでしょうか？黙示録には象徴が示されており、これらは聖書自体によって明らかにされなければならないことを思い出しましょう。イエスはたとえ話の最後で「聞く耳のある者は聞いてください」という表現を使いました（例：ルカ14:35）。たとえ話は教えを含む物語でした。そこに含まれる教えを理解するには、それを聞く人が神に対して心を開く必要がありました。したがって、聖霊を通して神の真理が彼に明らかにされるでしょう。誠実な人、キリストを心の中に受け入れた人だけが、彼の言葉を理解しました。そこでイエスは、「聞く耳のある者は聞きなさい」と言われました。黙示録でこれと同じ表現を見つければ、次に言われることは、イエスに心を捧げた人だけが理解し、受け入れられるものであることがわかります。そして何と言われますか？

「誰かが捕虜になったら、彼は捕虜になります。剣で殺す者は剣で殺されなければなりません。ここに聖徒たちの忍耐と信仰がある。」黙示録 13:10

上記の言葉は、獣が力を得たときに迫害されるイエスに属する人々だけが理解できるでしょう。したがって、引用された言葉は、この預言に示されている時期に獣の力によって迫害される神の子の観点から理解されなければなりません。このとき、彼らは、聖句にあるように、誰かが自分たちを「捕らえ」、「剣で」殺そうとしているのを見るでしょう。誰になりたいですか

これをやっていますか？第四戒の安息日に忠実な神の子たちを捕虜にして殺害するために迫害する勢力、警察、そして地球の国々の軍隊。イエスは、「聖徒たちを捕らえる者は誰でも「捕らわれの身となる」でしょう」と言われました。そして、「剣で殺す者は剣で殺されなければならない」。イエスは誠実な子供たちに、敵が自分たちに行くことはすべて自分たちに返ってくると予告しておられます。さらに彼は、「ここに聖徒たちの忍耐と信仰がある」と付け加えた。もし聖徒たちが忍耐して信仰を持たなければならないと主が言われるなら、それはその言葉の成就が遅れることを意味します。私たちは、この獣に42か月間力が与えられることを見ました。したがって、邪悪な者たちへの報復は、獣の統治が42か月続いた後に行われることになる。だからこそイエスは聖徒たちに、「ここに聖徒たちの忍耐と信仰がある」と言われるのです。そして、獣に与えられた力が終わるとき、何が起こるのでしょうか？黙示録 17 章にその答えがあります。

「あなたが見た十本の角は十人の王であり、まだ王国を受けていないが、彼らは獣とともに一時間だけ王としての権威を受けるでしょう。彼らは同じ意図を持っており、彼らの力と権威を獣に引き渡します。彼らは小羊と戦い、小羊は彼らに勝つだろう」黙示録 17:12-14

獣は地上の王たちの力を受け、神に忠実な聖徒たちの身となって小羊と戦いますが、最終的には神に敗北します。

次の聖句に移りましょう。

「そして私は、別の獣が地から出てくるのを見た。それは、獣の角のような二本の角を持っていた。」  
子羊;そして彼はドラゴンのように話しました。」黙示録 13:11

預言者は「別の獣」が立ち上がるのを見た。それは彼が初めて見たものではなかった。したがって、それは「獣」でもありますが、教皇や教皇権を表すものではありません。これまで見てきたように、「獣」という言葉は教会と国家の結合を表しており、教会は地球の政府に神の民を迫害するよう命令しています。ヨハネがここで別の「獣」を見たという事実は、彼がこれと同じ性質の別の力、つまり教会が政府を利用してその力で神の民を迫害する教会国家連合の結果を見たことを示しています。

この「野獣」とは誰なのでしょう？ジョンのビジョンに関連する詳細、それに関連するものが答えを与えてくれるはずですが、ジョンは彼女が「地上から昇っていく」のを見たと言います。この表現は何を意味するのでしょうか？それを知るために、黙示録 13 章に登場する最初の獣を描写するために使用された表現と比較してみましょう。

「すると、10本の角と7つの頭を持つ獣が海から上がってくるのが見えました。」  
黙示録 13:1

これが最初の獣である教皇です。ジョンは彼女が「海から上がってくる」のを見た。海は大きな水の集まりです。黙示録 17 章では、水の集まりが預言の中で何を表しているかがわかります。

「あなたが見た水、売春婦が座っている水は、人々、群衆、国家、そして言語です。」黙示録  
17:15

ヨハネが、教皇制を象徴する獣が水の集まりから「海から立ち上がってくる」のを見ているという事実は、教皇制が人口が密集し、さまざまな民族、国家、言語が混在する場所から権力を握ったことを意味します。位置した。

歴史によれば、教皇庁の本部はヨーロッパのローマにありました。ヨーロッパは、何世紀にもわたって多くの民族、国家、言語が共存してきた大陸であり、教皇庁が権力を掌握したときにはすでに人口が密集していました。最初の獣とは異なり、「他の獣」は「地から出てくる」ように見えました。創世記の第1章によると、天地創造の週、神が私たちが土地と呼ぶものを出現させ、そこに私たちが野菜を植えるまで、地球上には水が広がっていました。聖書は次のように述べています。「神は乾いた元素を地と呼び、水の集まりを海と呼んだ」（創世記 1:10）。この聖句から、神は水のない乾燥した土地を「地」と呼んでいることがわかります。黙示録の象徴性において、水の集まりが多くの民族、群衆、国家、言語を象徴していることがわかりました。

したがって、神が創世記で「地」と呼んだ乾燥した部分は、多くの民族、国家、言語がなく、人口もまばらな場所を表します。私たちの地球には、アジア、ヨーロッパ、北アフリカなど、「旧世界」と呼べる場所があり、何千年もの間、人口密度が高い場所でした。しかし、近世にヨーロッパ人が植民地としたため「新世界」と呼ばれる大陸が存在する。それはアメリカです。ヨハネには、その獣が「地」、つまり多くの民族、多数、国家、言語が存在しない場所から現れたように見えたので、彼はアメリカのいずれかの国の中にいるに違いありません。

2番目の獣がどこにいるかを理解するのに役立つもう1つの詳細があります。彼は彼女が「別の」獣であることに気づきました。最初の獣である教皇制は、カトリック教会と地球の政府の結合の結果でした。この2番目の獣は「他者」であるため、カトリック教会と地球政府の結合を表すことはできません。それは必然的に他の教会と地球の政府との結合でなければなりません。したがって、この別の獣はアメリカ大陸のカトリック諸国には存在しないでしょう。この大陸内では非カトリック国家でなければなりません。中南米の国々がカトリック国とみなされていることはわかっています。非カトリックとして生まれ、今日でもそう考えられている唯一の国は「アメリカ合衆国」です。プロテスタントの原則に基づいて設立され、今日に至るまでプロテスタント国家として知られています。「獣」という言葉が聖徒たちを迫害する教会と国家の結合を表していることはすでに見ました。プロテスタント教会と政府、この場合はアメリカ政府が連合して神の民を迫害することで、もう一人の「獣」の預言が成就することになる。今日、聖人たちを迫害するためにプロテスタント教会と米国政府との間にそのような結合は見られません。しかし、預言の中で見られる第二の獣の象徴は、この結合が、まだ存在していないとしても、すぐに結合することを明らかにしています。

その獣には「子羊の角のような2本の角があり、角が2本ありました。」そして彼はどのように話した」（黙示録13:11）。ダニエル8章を学ぶと、「角」というシンボルが「力」を表していることがわかりました。たとえば、ヤギの目の間の大きな角はアレキサンダー大王を表していました。「他の野獣」の象徴で呼ばれる米国は共和制国家である。政府の権力は、特定の人物に集中したり居住したりするのではなく、憲法に定められた政府の原則に基づいて定められています。米国が自由の国として知られていることはよく知られています。その理由は、表現と礼拝の自由が常に存在し、教会と国家が明確に分離されてきたためです。アメリカ国民は常に自らの信念を表現し、信仰を告白する自由があり、国家は教会の意志とは無関係に行動します。プロテスタントは宗教問題に対する国家の不干渉を祈ります。

プロテスタントは、アメリカ政府の基盤となる統治原則の1つです。アメリカ政府のもう1つの原則は「共和主義」です。この主義では、政府は国民の意志によってもたらされるものであり、アメリカのように家族によって支配されるものではありません。

君主制の場合。プロテスタントと共和主義はこの国の権力と繁栄の秘密であり、ヨハネが見た「他の獣」の二本の角に相当する。

ジョンは、その獣が「ドラゴンのように話した」と言いました。この野獣を代表するのがプロテスタント教会とアメリカ政府の連合である。彼女の「話」をどうすれば理解できるでしょうか？明らかに、国家は口をもつ者ではありません。しかし、国家の立場は、政府において国民を代表する立法当局の行為によって規定される。国家は、その「立法当局」を通じて自らを明示する、つまり「語る」のです。たとえば、法律を定義して投票するとき、この法律はあたかも国民全体が声を一つにして、定義された内容を発言したのと同様です。したがって、国民の「言論」は立法当局の命令である。「のように」と語るということは、この国にの性質を表す法律が制定されることを意味する。

これらの法律は何を言うのでしょうか？神の言葉では、ドラゴンは聖徒たちに対して怒り、彼らを迫害していると描写されています。

「そして竜はその女に対して激怒し、神の戒めを守り、イエスの証しを持っている他の子供たちと戦争を始めた。」黙示録 12:17

ドラゴンの仕事は、神の聖人たちに対して激怒し、彼らに対して戦争を仕掛け、彼らを殺そうとすることです。したがって、「のように」という表現は、神の聖人たちに投獄と死刑を宣告する残酷な法律の公布を指すと理解されています。プロテスタント教会と米国政府の連合から生まれた政府機構は、戒めに従順な神の子供たちの迫害と死を許可する法律を可決することになる。これらの法律はどの戒めに違反するのでしょうか？この章の次の節を読むと、次のことがわかります。

「彼はまた、彼の前で最初の獣の権限をすべて行使しました。そして彼は地球とそこに住む人々に、致命的な傷が癒された最初の獣を崇拜させました。」黙示録 13:12

最初の獣は教皇権であり、教皇たちは権威を特別に認めるものとして日曜日を守ることを考慮していることを、私たちはすでに学びました。したがって、二番目の獣が「最初の獣の権限をすべて行使した」と預言が述べているように、日曜日の遵守を課す法律を彼が可決するだろうと私たちは理解しています。アメリカ合衆国における日曜日、日曜日の法律の遵守を義務付ける法律が採決される予定です。

この節はまた、二番目の獣が「その前で」最初の獣の権威を行使するとも述べています。これは、米国の国会議員がこれらの日曜法について投票するとき、教皇庁の立会いの下で投票することを示しています。彼らは、米国（地球）に住む人々（そこに住む人々）に、最初の獣である教皇を崇拜させるでしょう。研究を続けます。

「そして彼は大いなるしるしを行ったので、人々の目の前で火を天から地に降らせることさえした。」黙示録 13:14

二番目の獣は「素晴らしいしるしを働いた」。この野獣を構成する人々には2つの階級があります。それは政府と教会の代表者です。この2つのうちどちらか

信号機を操作する人はどの階級に属するのでしょうか？マタイの書にその答えがあります。

「偽キリストと偽預言者が立ち上がり、大きなしるしと奇跡を示すからです。できれば選ばれた者さえも欺くためだ。」マタイ 24:24

預言者は政府ではなく教会に関係のある人々です。したがって、イエスの言葉から、偉大なしるしは宗教家によってなされることがわかります。黙示録 13 章には、この獣は「大いなるしるしを行い、人間の目の前で火を天から地に降らせるほど」であると述べられています（黙示録 13:13）。これらの人々は獣によって象徴される力に協力することになるので、彼らがそのような奇跡を行う力を神から受け取らないことは明らかです。彼らはサタンの力によって奇跡を行います。

「そして、獣の前で行うことを許されたしるしによって、彼は地上に住む人々を欺き、剣の傷を受けて生きていた獣の像を作るように言いました。」黙示録 13:14

教会の偽預言者が行うしるしを通して、米国で「獣」と呼ばれるこの教会と国家の結合は、「地上に住む人々を欺いた」、つまり、この国に住む人々を欺いたのです。「そしてイエスは彼らに、剣で傷つきながらも生きていた獣の像を作るように言われました。」これらの最後の言葉は、プロテスタント教会の偽預言者たちが米国の住民に「剣の傷を受けて生きた獣の像」、つまり最初の獣の像を作るよう説得しようとしていることを表している。、教皇庁。

かつての教皇庁はどのようなものでしたか？聖徒たちを迫害し殺害するための教会と地球政府の連合。これが野獣だった。獣のイメージは何でしょうか？画像は忠実にコピーしたものです。教皇という野獣のイメージは、教会が政府軍を使って聖人たちを迫害し殺害したのと同じシステムのコピーとなるだろう。

偽預言者たちは、自らが行う奇跡を通じて、神の戒めに忠実な神の聖徒たちを迫害し殺害するための政府軍の使用を支持するようアメリカ国民を説得しようとするだろう。こうして、過去の教皇迫害システムのコピーが形成されることになる。「獣のイメージ」が形成されず。

「また、彼には、獣の像に息を吹き込むことも許されました。そうすれば、獣の像が言葉を発し、獣の像を崇拜しない者を皆殺しにすることができるのです。」黙示録 13:15

前の節は、プロテスタント教会の偽預言者を通して、第二の獣の行動を描写し続けています。この偽預言者たちの行動によって、獣、米国の教会と団結した政府が「獣の像に息を吹き込む」ことが「許された」と書かれています。「息」を与えることは聖書において特別な意味を持っています。創世記には、神がアダムに命の息を与え、それから彼は生き始めたと書かれています（創世記 2 :7）。預言が、二番目の獣が最初の獣の像に「命の息吹」を与えることを許されたと述べているとき、それは、アメリカ政府とプロテスタント教会の力を合わせて、次のような迫害体制を引き起こすであろうことを私たちに明らかにしています。古代の教皇制度を勝ち取るために、米国内の「生活」を勝ち取ったのだ。

この一連の聖句は、これが達成されたときに何が起こるかを明らかにしています。「獣の像が話し、獣の像を崇拜しなかったすべての人が殺されるようにするためです」。米国で野獣によって課される日曜法に従わない聖徒は殺されるだろう。



古い教皇迫害システムでは、命令は宗教権力（この場合は教皇）から出され、総督が命令を執行することができました。宗教権力は民間権力に聖徒たちを迫害するよう命令し、後者はそれに従った。したがって、獣の、教皇庁のスピーチは、当時教皇であった宗教指導者から発せられたのです。「獣の像」とは獣の忠実なコピーであり、忠実なコピーとして獣と同様に機能するシステムです。したがって、獣の「スピーチ」が宗教指導者の命令であれば、「獣の像のスピーチ」も宗教指導者の命令に対応することになります。したがって、ジョンが幻視の中で「獣の像」が語るのを見たという事実は、アメリカ合衆国において、プロテスタント教会が政府軍に法律の力によって教義を強制させる権限を有するようになるということを示している。

「そして彼は、小さい人も大きい人も、金持ちも貧しい人も、自由人も奴隷も、すべての人に右手か額に刻印を入れさせ、その刻印か名前を持っている人以外は誰も売買できないようにしました。獣の名前、またはその名前の数字。」黙示録 13:16,17

テキストは「他の獣」の働きを語り続けます。この聖句によれば、アメリカ政府は教会の影響を受けて、「小さい者も大きい者も、富める者も貧しい者も、自由な者も奴隷も、すべての人」に「しるしが置かれる」ことを保証するだろう。この聖句では、第二の獣が場所や国を指定するのではなく、「すべて」の上に何かを配置させようとしていることに注意してください。これは、これらの「すべて」が地球のあらゆる場所から来た人々であることを示しています。

第二の獣があらゆる人に何らかのしるしを与えようとするだろうとジョンが見ているという事実は、第二の獣が代表する権力、プロテスタント教会の影響を受けたアメリカ政府が、その影響力を国外にも及ぼそうとし、他国に影響を与えようとしていることを示している。国々は自国民が「しるし」を確実に受け取ることができるようにする。

これは何の「サイン」なのでしょう？

「もし彼の右手と額に刻印があったとしたら……それは刻印、あるいは獣の名前だ。」最初の獣からです。最初の獣は教皇です。教皇たちが自らの権威のしるしとして公言する教義がある。それは、第四戒を土曜日から日曜日に安息日に変更することである。神の言葉にはこの変化を許可する権限はありません。したがって、教皇たちは、それが自らの権威にのみ属することを宣言する。カトリック教徒自身がこれを宣言しています。以下の文書からの引用を参照してください。

「教会が教訓として祭りを制定する権限があることを証明する方法はありますか？

答え - もし彼女にそのような力がなかったら、そして現代の宗教者全員が彼女に同意するようなことをすることはできなかったでしょう。彼女は、週の7日目である土曜日の遵守を、週の最初の日である日曜日の遵守に置き換えることはできなかったでしょう。その週には聖書の権威はありません。」教義のカテシズム (カトリック) 174 ページ。

したがって、獣のしるし、教皇権のしるし（その権威のしるし）は日曜日であることがわかります。したがって、ジョンは、第二の獣が「すべて」に獣の刻印を課すことになるのを見て、米国政府がその影響を受けていることを理解します。

教会は、他の国でも日曜日を自国民の礼拝日として課すようになるだろう。私たちが研究している聖句によれば、しるしは「右手」または「額」に置かれることになります。申命記の中で、神はご自分の子供たちに神の言葉を手と額に縛り付けてほしいという願望を表明されました。

「そして、私が今日あなたに命じるこれらの言葉は、あなたの心に留めておくべきです。あなたはまた、それをしるしとして手に結び、目の間の前飾りのようにしなければなりません。」申命記 6:6,8

このように言われた神は、イスラエル人が戒めを書いたコピーを手や額に貼り付けるのではなく、それを心に留めておくことを望まれました。だからこそ、彼はそれらを「額」（目の間の正面）に置くように言いました。彼らはまた、それらを仕事に移すこと、つまり実践することも望んでいた。だからこそ、「しるしとして」手に結びなさいと言われました。同様に、黙示録で、第二の獣が働いて、誰もが手や額に獣の刻印（日曜日を守る）を受けようになると読むとき、これはそれが彼らの良心に強制することを意味します。国家権力を通じて、彼は国民に日曜が休みの日であることを告白し、仕事を避けてそれを守るよう強制するだろう。

彼の中で、黙示録 13章17節の言葉は、日曜日を休息日として守るように人々に加えられる圧力の性質を今でも私たちに明らかにしています。

「そのため、その物を持っている人以外は誰も売買できなくなりました。  
黙示録13:17

経済制裁もあるでしょう。今日、米国は世界最大の経済大国です。彼らは実質的に世界のすべての国と貿易関係を持っています。米国が実施した経済封鎖は、地球上のほとんどの国にとって破滅を意味するだろう。預言によれば、この国の政府は第二の獣として、他のすべての国に影響を与えて、この国と調和して行動するようになるので、その印を持っている者、つまり誰以外は誰も「売買」できないようになる日曜日を守ります。アメリカ政府にこれほどの圧力をかければ、世界がそれに屈しないわけがないことがわかります。地球上で、大勢の人々が法王という野獣を崇拝することになるでしょう。この章の最後の節は、誰が復活して現れ、全世界の敬意を受ける教皇となるのかを私たちに確認しています。

「その獣の名前、あるいはその名前の数字。ここに知恵があります。理解のある者は獣の数を計算させてください。それは男の番号であり、その番号は六百六十六だからである。」黙示録 13:17,18

あえて17節の最後を引用します。彼は獣の名前と「彼の名前の数」、つまり獣の名前の数について話して終わっていることに注意してください。次に 18 節は、「理解力のある者は獣の数を計算させなさい」という言葉で始まります。聖書は何の数字について話していますか？前の節で「獣の名前の数字」が出てきました。18節で、神は「理解力のある者」に獣の数を計算するよう勧めています。彼は、多くの人がこの一節を歪曲し、獣の名前の数を計算違いして、神の啓示と一致しない結論に達することを知っていました。神の言葉によれば、誰が「理解力」があると考えられるのでしょうか？答えは申命記にあります。

「あなたは、わたしが命じるあなたの神、主の戒めを守るために、わたしが命じる言葉を付け加えたり、取り除いたりしてはならない。 ...

「わたしの神、主がわたしに命じられたとおり、わたしは法令と戒めを教えた。……それを守り、守りなさい。これがあなたの知恵であり、理解なのだから。」申命記 4:2、5、6

前述の節でモーセは人々に「あなたの神、主の戒め」を与えたと語ります。そして、それらについて言及して、彼はこう言います。「それらを守り、それを満たしてください。これが…あなたの理解だからです。」安息日を含む神の戒めを守る人は理解力を持っています。神が獣の名前の数を計算するよう招いているのは彼らです。神の目から見て、これらの人々はこの計算を正しく行い、神の啓示を得ることができる立場にあります。安息日を守らず、公然と十戒に違反している人々は、獣が神の律法の違反を宣言する力であることを理解する立場にありません。彼らにとって、日曜日を守ることは罪ではありません。したがって、神の言葉によれば、私たちは獣の数について牧師、司祭、枢機卿、その他日曜を守る宗教指導者が与える解釈を受け入れることはできません。御言葉によれば、戒めを守らなかった人は啓示を受けられません。戒めを守る「理解者」は、黙示録 13 章の最初の獣が神の律法の公然とした違反を支持する運動を率いる男であることを知っています。彼は世界を連れて行き、可能であれば自分が選んだ者たちを欺くだろう。

黙示録 18 節ではさらに、獣の数は「人間の数」とであると述べられています。女性の番号だという人も多いです。しかし、聖書によれば、これは真実ではありません。この数字は女性ではなく「男性」の数字です。そして、すでに見たように、それは獣の名前の数字です。名前を計算すると 666 という数字が得られる男は誰ですか？

教皇庁が獣である場合、その獣の数を教皇の間で調べなければなりません。聖書によれば、それは男性の番号であるため、私たちは教皇庁内で預言の仕様を満たす男性を探す必要があります。聖書は今でも「数を計算する」こと、つまり獣の名前の数を計算するよう勧めています。各教皇は、バチカンの王座に就任する際に「正式な名前」を持ちます。この名前はバチカンの公用語であるラテン語で付けられています。この言語では、文字も数字の価値があります。したがって、預言にあるように、教皇の名前の文字を合計し、その価値を「計算」することが可能です。

黙示録 13 章の冒頭 (3 節) で、ヨハネは「自分の頭の 1 つ」、つまり (教皇庁の) 獣の頭の 1 つが瀕死の重傷を負っているのを見たことが報告されています。

黙示録 17 章によれば、頭は王の称号を持つ教皇を表しており、その意味を説明するときに天使が「七つの頭は…七人の王でもある」と言っているためです。

(黙示録 17:9,10)。教皇が国王となったのは、バチカンが国となった1929年以降である。それ以来、彼らは「バチカン国家の主権者」という称号を持ち始めました。ところで、バチカンはローマ法王が国王である君主制の国です。聖書に次のように書かれているように、預言の教皇は、1929年から今日までバチカンの王位に就いた7人の教皇「王」のうちの1人でなければならない。」(黙示録17:11)。黙示録 17 章の教皇の預言については、Editora Advertência Final から出版された私の別の著書『The Last Pope』で詳細かつ詳細に研究されています。

したがって、黙示録 13 章に示されている教皇は、1929 年以降教皇の座に就いた人々の中から探さなければなりません。



単語や文字が表示される順序さえも重要です。これを理解すると、この章の研究テーマである黙示録 14 章の理解が容易になります。

聖書は、今日私たちが見ているような順序で章と節に分けて神から与えられたものではないことを私たちは知っています。したがって、一章を読み終えたという事実は、神が提示しているテーマが終わったことを意味するものではありません。この例は山上の説教にあります。聖書の記述では、それはマタイ 5 章 1 節から 7 章 28 節までのいくつかの章に分かれています。山上の説教のこの例は、聖書のある章を研究するとき、その章が前の章で示されていたことの続きを示していることがいかに十分にあり得るかを示しています。これは黙示録の 13 章と 14 章に当てはまります。黙示録 17 章には、獣とその軍隊、そして小羊とその忠実な者たちとの間で起こる戦いが記されています。

「あなたが見た10本の角は10人の王です...これらは...獣に彼らが持つ力と権威を提供します。彼らは小羊と戦い、小羊は彼らに打ち勝つでしょう...神と共にいる召された選ばれた忠実な者たちも打ち勝つでしょう。」  
黙示録 17:12-14

引用された本文の中で、天使は王国を受け取ることになる「十人の王」が「彼らの持つ権威を獣に差し出す」と報告しています。黙示録 17 章では、これら 10 人の王が「まだ王国を受けていない」（黙示録 17:12）と言われているため、王たちが獣に「権威」を与える時期はまだ先のことです。しかし、黙示録 13 章では、獣に関して「すべての部族、民族、言語、国家を支配する権威が彼に与えられた」（黙示録 13:7）と述べられているため、その時がすでに到来していることがわかります。この聖句では、「権威は彼に与えられた」という過去形が使われていることに注意してください。  
したがって、黙示録 13 章に記されている時点で、十人の王たちはすでに自分たちの権威を獣に差し出していたことがわかります。

黙示録 17 章の本文に戻ると、十人の王が自分たちの権威を獣に差し出した後、獣とともに「小羊と戦う」ことがわかります。黙示録 13 章は、王たちがすでにその権威を獣に与えていた時代に私たちを連れて行っていることを私たちはすでに見ました。したがって、イエスは私たちを、獣と地の王たちが「小羊と戦う」時代へと連れて行きます。預言は、この戦いの勝者は誰であるかを告げています。「小羊が彼らに勝つ」（黙示録 17:14）。どれくらい続きますか？黙示録 13 章にその答えがあります。

「全地が驚嘆し、獣に従いました...それは彼に与えられたものです...  
四十二か月継続する権威」黙示録 13:3,5

前のテキストでは、獣に42か月間継続する「権限」が与えられることが明らかにされています。この期間中ずっと、獣は小羊と戦います。この戦いで彼女は何をのでしょうか？黙示録 13 章には次のような答えがあります。

「彼は口を開いて神を冒瀆し、神の名を中傷し、天に住む人々さえも幕屋を中傷しようとした。聖者たちと戦い、聖者たちを打ち破ることも彼に与えられたのだ...」

小さい者も大きい者も、金持ちも貧しい者も、自由人も奴隷も、すべての人に、神は彼らの右手か額に特定の刻印を与え、その印を持っている者以外は誰も売買できないようにする。獣のマーク、名前、またはその名前の数字。」黙示録 13: 6、7、16、17

獣は聖徒たちと「戦い」、つまり彼らを迫害し、獣の刻印を持つ者以外は誰も売買できないようにします。前の章で、獣の刻印が日曜日を守っていることをすでに見ました。13章を注意深く読むと、この章では、黙示録 17章で予告されている小羊との争いにおいて獣とその仲間たちがとる部分に特別な注意が払われていることがわかります。獣はすべての人に自分を崇拜させようとします。

この時に主日を守る者は獣を崇拜し、獣の刻印を受けることになる。そして、コルデイ口の同盟国は紛争においてどのような役割を果たすのでしょうか？神は忠実な者に何を期待しているかを語られるのではないのでしょうか？明らかにそうです。定められた時に小羊に忠実な人々に対する神の指示はどこにあるのでしょうか。テキストの後にこれらの指示を探すのが合理的だと思われます。それが私たちがやることです。したがって、黙示録 14章を読み始めましょう。

「わたしが見ると、小羊がシオンの山に立っていて、その額に小羊と十四万四千人がいて、その額に小羊の名が書かれていた。」  
黙示録 14:1

13章と14章の主題の続きは、小羊とこの争いの中で小羊とともにいた人々の幻視の説明から始まります。「私が見たところ、見よ、小羊がシオンの山に立っていました。そして、小羊とともに十四万四千人がいました。」（黙示録 14:1）。この聖句でヨハネが見た「小羊」がイエスであることがわかります。しかし、ヨハネが幻の中でイエスという人物を見たのではなく、「小羊」を見ていたという事実は注目に値します。小羊はイエスの象徴です。したがって、私たちはこのビジョンが象徴的なものであることを認識しています。

ヨハネは、小羊イエスが「シオンの山に立っている」のを見た。なんと山のシンボルは何を表していますか？ヨハネの書の中にその答えがあります。

「私たちの先祖たちはこの山で礼拝しました」ヨハネ 4:20

上の言葉はイエスに話しかけたサマリア人の女性が言ったものです。彼女が使用した「山」という言葉は、サマリア人の礼拝の場であるゲリジム山を指します。その山で礼拝した人は皆、同じ「教会」、この場合はサマリア人の教会に属していました。したがって、「山の上にある」という表現は、同じ教会に属していると理解できます。黙示録 14章1節には、小羊イエスが「十四万四千人と共に」山にいたのが見られます。これは、この幻で示されている時点で、これらの144,000人がキリストの教会に属することを表しています。この聖句は、彼らだけが救われるとは言っていないことに注意してください。本文からのそのような推論は正しくありません。ここで14万4,000人は、真の教会に属し、キリストに最も近い人々として見られます。後で見るように、他の多くの人々も預言が示す時期に彼らが説いたメッセージを受け取り、救われます。次の章を読み続けます。

「彼らの額には、神の名と父の名が記されている」（黙示録 14:1）。本文には、144,000人の額に小羊、つまりイエスの名前が刻まれていたと書かれています。聖書の中の名前が性格を表していることは、これまでの章ですで見えました。144,000人はイエスとその父の性質を持ち、イエスによって聖化され、罪なく地上で生きることになります。

「表」に書かれた名前は「決断」を表します。心は決断を下す場所です。ある人の額にイエスの名があるという事実は、その人が揺るぎないほどの固い決意で、神のご性質を完全に反映した形で神に従うと決意したことを表しています。神の性質を持つという決定を下すとき、人は自動的にイエスの性質を持つことを決定することになります。なぜなら、両者は等しいからです。したがって、144,000人の額には神とイエス（子羊）の名前が同時に刻まれているのが見られます。

獣と地上の王たちがすべての人に獣の印を受けさせるために行動しているのを見た後、ヨハネは小羊とその額に神の名が刻まれた14万4,000人の人々を目にします。ここで私たちは、戦いの争点となる2つの階級の人々を識別することができます。一方では、野獣とその仲間たちは、日曜日を守るよう全員に強制し、野獣の刻印を受けさせようとしています。一方、144,000人は安息日に対して忠実です。

この文脈で、144,000人は世界に向けて何かメッセージを発表するのでしょうか？はい、確かに。それが何であるかについては、黙示録 14 章の 6 節から 12 節で見えていきます。その前に、この章の 2 節から 5 節を見てみましょう。そのためには、黙示録 14 章を読み続けましょう。

「私は天から、多くの水の声のような、大きな雷の声のような声を聞きました。また、私が聞いた声は、ハープ奏者がハープを演奏するときの声に似ていました。彼らは玉座の前、四人の生き物と長老たちの前で新しい歌を歌いました。そして、その土地から買い取られた14万4,000人以外には、誰もその歌を学ぶことができなかった。」黙示録 14:2,3

14万4,000人が「誰も学ぶことができなかった」歌を歌いました。イスラエルの人々は、自分たちの経験や歴史を歌を通して語る習慣がありました。たとえば、イスラエルがエジプト軍から救出されたときの例を挙げます。かつて、神がイスラエルの民が通過できるように紅海を開いた後、エジプト軍の前で紅海を閉じたとき、イスラエルの民はその経験を歌の形で語りました。

「そこで、モーセとイスラエルの人々はこの歌を主に向かって歌い、こう言った、「主は栄光に勝利されたので、私は主に向かって歌います。主は栄光に勝利されました。」彼は馬と乗り手を海に投げ込みました...ファラオの戦車と軍隊を海に投げ込みました。そして船長たちは紅海で溺死した。波が彼らを覆いました。彼らは石のように深みに落ちていった。」出エジプト記 15:1,4,5

モーセはまた、ここ地球での人生の最後の日に、イスラエルの人々の将来の経験を預言的なビジョンを持って歌で描写しました（申命記 32 章）。人生経験を反映した曲は、その人生を生きただけの人にしか意味が伝わりません。ジョンは、「144,000人以外には誰もその歌を学ぶことができない」と悟りました。なぜ彼は、このグループ以外には誰もその歌を学ぶことができないと報告したのでしょうか？144,000人はユニークな体験をすることになるため、ジョンは「144,000人以外には誰もその歌を学ぶことができない」と考えました。ここで、144,000がわかります。

彼らは救われるすべての人を代表しているのではなく、むしろその中でユニークな経験をする人々のグループを代表しています。獣と子羊の間の最後の戦いについては次のように言われています。

「彼らは小羊と戦い、小羊は彼らに打ち勝つでしょう...彼らは打ち勝つでしょう」  
神と共にいる召された者、選ばれた者、忠実な者たちも同様です。」黙示録 17:14

上で述べた「神と共にいる」人々とは14万4,000人です。  
シオンの山に立っている小羊と、彼とともに十四万四千人。」

ヨハネは黙示録の別の節で、次のような人々の歌を語っています。  
彼らは獣を倒しました。

「私は、いわば、火と混ざり合ったガラスの海と、神の豎琴を持った獣の征服者たちを見た。そして彼らは神の僕モーセの歌と小羊の歌を歌い、こう言った、「全能の神、主よ、あなたの御業は偉大で素晴らしいです！諸国民の王よ、あなたの道は正しくて真実です！主よ、あなたの御名を恐れず、讃美しない人がいるでしょうか？あなただけが聖なるのです。したがって、あなたの正しい行いが明らかになったので、すべての国々があなたの前に来て礼拝するでしょう。」黙示録 15:2-4

引用された聖句の中で、ヨハネは獣の勝利者たちが「ハープを持ち」「歌」を歌っているのを見たと言っていることに注目してください。ヨハネは黙示録 14 章 2 節で、14 万 4,000 人が歌うのを聞いたときの歌は「ハープ奏者」の歌に似ていたと報告しています。

「私が聞いた声は、ハープ奏者がハープを演奏しているような声でした。\_\_\_\_\_  
彼らは玉座の前で新しい歌を歌った」黙示録 14:2 と 3

したがって、私たちは黙示録 15 章 2-4 節に記されている獣を征服した者の歌が 144,000 人の歌であることがわかります。したがって、144,000 人は獣の征服者です。聖書が明らかにしているところによると、彼らが獣に勝利したという事実が彼らの経験を特別なものに行っているのです。黙示録 13 章には、神によって「聖人」と呼ばれていても、獣に征服される人々がいると書かれています。

「獣に従って全地が驚嘆した……聖徒たちと戦い、彼らに打ち勝つことも彼に与えられた」黙示録 13:3,7 \_\_\_\_\_

この勝利は、野獣とその仲間たちが主イエスの聖徒の多くを殺すという事実を表しています。サタンが神の聖人に対して持つことができる唯一の勝利は、肉体を殺すことです。それは魂を殺すことはできません。神の律法と主イエスに忠実であり続けたために教皇とその背教者たちによって殺された者は皆、義人の復活によって安らぎ、よみがえらされるでしょう。

聖徒たちとは異なり、144,000 人は黙示録 15 章 2 節で「獣の征服者」と呼ばれています。獣は彼らを殺しません、彼らは殉教者にはなりません。そして、獣は小羊の再臨の前に小羊に対して立ち上がる最後の力であるため、144,000 人が獣によって殺されないという事実は、彼らが再びキリストが生きて天の雲の中で戻ってくるのを見るであろうことを示しています。死を経験する。

彼らは死を見ることなく天国に移されます。これは 144,000 人の経験になります。



預言者ヨハネは、自分が聞いた14万4,000人の歌の声について今も報告し、次のように報告しています。

「私は天から多くの水の声のような声を聞いた」黙示録 14:2

黙示録は、もう一人が多くの水のように声を持っていると述べています。

「私は誰が私に話しかけているのかを見ようと振り向いた。そして戻ってきたとき、私は見た…人の子のような人…多くの水の声のような声だった。」黙示録 1:13-15

引用された聖句では、「人の子」のような人は多くの水のような声を持っていたと言われています。イエス様がご自身をしばしば人の子と呼んだことを私たちは知っています。彼は詩の中で描写されている人物であり、その声は「多くの水の声のような」ものです。これは、ジョンが 144,000 人から聞いたと報告している声の説明と同じであることに注意してください。ヨハネが14万4,000人から聞いた声を、イエスの声を説明するのに使ったのと同じ言葉で説明したという事実は、14万4,000人を構成する人々とイエスとの間に存在する調和を示しています。聖歌隊の歌手たちが歌の中で非常に団結し、自分たちの声の違いをまったく感じないのと同じように、キリストと 144,000 人を代表するこれらの人々間のハーモニーは、ジョンが両方の声をナレーションすることへのインスピレーションを与えたほどです。イエスと144,000人の同じ言葉で、キリストの声とヨハネが見た14万4,000人のこのような類似性は、この14万4,000人がイエスの姿を完全に反映している人々であることを示しています。彼らは神と神の性質と完全に調和しています。

ヨハネが14万4,000人の声を「多くの水の声のように」聞いているという事実は、別の象徴性が織り込まれています。黙示録 17 章で、神は「水」というシンボルが何を意味するかを示しています。

「あなたが見た水は…人々、群衆、国家、そして言語です。」

黙示録 17:15

水は「国家と言語」も表していることに注意してください。

水のシンボルの意味を考えると、ヨハネが14万4,000人の声を「多くの水」の声として聞いたという事実は、この集団（14万4,000人）を構成する人々がさまざまな国や言語の出身であることを意味していることがわかります。

そうすれば、144,000 人は、特定の国の出身者や同じ言語を話す人だけで構成されるグループではないことがわかります。彼らは地球の隅々から来た人々です。そこに神の力が現れます。神は、地球上のさまざまな国々、さまざまな社会経済的および文化的状況、そしてさまざまな国が暮らす多様な環境のただ中で、ご自分とイエスの性格を反映する人々を育て上げます。多くの人々の異教主義、他の人々の自由主義と放縦、他の人々の宗教的狂信、これらの異なる国々から神がご自身の性質を完全に反映する人々を受け入れることを妨げるものは何もありません。

神の力は、最も不利な条件下で人々を変え、純粋な性格を備えたイエスに完全に似た者に変えるのに十分であることが明らかになるでしょう。そうすれば、罪の言い訳はなくなります。彼の住んでいた環境があまりにも困難で、あまりにも落胆するような状況だったため、彼がイエスを受け入れ、その力によって罪を克服することが不可能だったなどとは誰も主張できません。邪悪と不法行為が最も大きくなる時代、終わりの日

この地球の歴史 - 罪が人類に罪過の最大の結果を課したとき、人類が最も弱体化したとき、神は地球上のあらゆる国々からイエスの性質を完全に反映する民を擁するでしょう。したがって、この144,000人のグループは神と救いの計画を正当化するでしょう。神の計画は地球の表面に住むすべての人を救うのに十分な包括的なものであり、キリストの恵みは、キリストを望み、自分のものとしたすべての人の中にキリストの姿を完全に回復させるのに十分であったことが宇宙に証明されるでしょう。あなた自身の、あなたの個人的な救い主です。これから黙示録 14 章を読んでいきます。

「これらの人たちは貞淑であるため、女性によって汚されていないのです。彼らは小羊がどこへ行っても従者です。彼らは人の中から贖われた者たちであり、神と小羊のための初穂である」黙示録 14:4

144,000人のグループが神と救いの計画を代表するものであることから、このグループの結成は天の住人によって大いに期待されています。14万4,000人は前の節で「神と小羊のための初穂」として示されています。「初穂」という言葉は聖書の中で「最初の」、あるいは最も重要という意味で使われています。聖書は、キリストは「眠りについた人々の初穂」(I コリント15:20,23)であると述べており、キリストの死によってすべての罪深い人間に永遠の命が可能になったので、キリストが亡くなった人々の中で最も重要であることを表しています。彼を信じる者は、14万4,000人が「神と子羊の初穂」とみなされているという事実は、このグループが救いの計画の文脈において代表する重要性を示しています。明らかに、ここで重要視されているのは、14万4,000人が他の人たちよりも高められているという事実ではなく、むしろ神が彼らの人格においてさらに栄光を受けるという事実にある。なぜなら、そのようなことが起こるための条件が歴史上最悪だった時代に、神は彼らの中にイエスの姿を完全に反映する人格を形成したからです。人類の世代が罪によって最も弱っていた時代であり、すべての祖先が肉体に対して示した無配慮の結果に苦しんでいました。

彼らの体は、何世代にもわたって罪を犯し続けたため、最も弱っていました。人間が罪に抵抗し、罪を克服することが最も困難であった時に、神は彼らを通してご自身の力を現し、彼らを世界、自己、悪魔の征服者としたのです。

引用された本文では、14万4,000人が「女性によって汚されていない」人々であるとも述べられている。この章の1節を学ぶときに、この幻が象徴を提示していることをすでに見てきました。したがって、このグループを構成する人々は「女性に汚されたことのない」人々であると主は言われますが、彼らが性的関係を持ったことのない男性であることを私たちが理解することを主は期待されていません。黙示録 17 章を学んだときに、聖書の預言において女性は「教会」を意味し、売春婦の女性はキリストを裏切った教会を表していることをすでに見ました。彼は神の言葉に明らかにされた真理を放棄し、人間の教義を教えました。144,000人が女性に汚染されていなかったという事実は、彼らが男性の教義を維持していなかったということの意味です。したがって、彼らは教義的に純粋でした。聖書の信仰に関するコラムについてさらに詳しく知りたい場合は、最終警告聖書コース、レベル II、Editora Final Advertência のレッスンを学ぶことをお勧めします。

聖書は依然としてこの14万4,000人の集団について述べており、「彼らは小羊がどこへ行っても従う者である」と述べています。黙示録 14:4。この機能

彼らがイエスに対してどれほど献身的に取り組んでいるかを示しています。主が行くところどこにでも従うということは、主のあらゆる動きに注意を払うことを意味します。それは、みことばが勧めているように、人生のあらゆる瞬間において、すべての考えや感情がキリストへの従順の虜になることを意味します(IIコリント10:5)。私たちは神とそのような交わりを持っているでしょうか？もしそれを持っていないなら、今すぐ神に尋ねてみてはいかがでしょうか？主の御名の名誉と栄光のために、今それを実行できますように。それでは黙示録 14 章を読み続けてみましょう。

「そして彼の口には嘘は見つからなかった。彼らには何の傷もありません。」黙示録 14:5

彼らの中に嘘が見つからなかったと宣言しているのは神の言葉であるため、嘘とは何かという私たちの概念に従ってだけでなく、神の概念に従っても、彼らは嘘をつきませんでした。イエスは、「わたしは神を知っていると言いながら、神の戒めを守らない者は偽り者である」と言いました(ヨハネ2:4)。144,000人は嘘をつかないので、神の戒めを守りません。彼らはより高い神聖さの基準を達成しました。本文には、この人たちは「傷がない」とも書かれています。これは、このグループに参加する人々の神聖さの程度を示しています。「macula」という言葉は「しみ」を意味します。傷がないということは、人格に傷がないことを意味します。神の律法に違反する習慣がないこと。神の意志に完全に従うこと。神を正当化するこの選ばれたグループの特徴をすべて見ると、その一員になるのは不可能だと思う人もいるかもしれません。しかし、もしこの考えが頭をよぎったなら、イエスの次の言葉を思い出してください。しかし、神にとってはそうではありません。なぜなら、神にとってはすべてのことが可能だからです。」マルコ 10:27。この言葉を信じることによって、私たちは完全になることができます。アーメン！

次の章で黙示録 14 章を読み続けます。

## 第7章

### 最初の天使のメッセージ

「私は、別の天使が天の真ん中を飛んでおり、地上に座する人々、すべての国民、同族、言語、人々に永遠の福音を宣べ伝えているのを見た」黙示録14:6

何かが空を飛ぶと、誰もがそれを見ることができます。ヨハネが天使が「天の真ん中を飛んでいる」のを見たという事実は、この天使がすべての人に見えることを示しています。天使は「永遠の福音」を持っていました。「福音」という言葉は「良い知らせ」を意味し、イエスを通して人間に提供されるすべてを要約します。イエスを心から受け入れることは、福音と、それに伴うすべての約束を受け入れることです。

そして、神を受け入れるとき、私たちは「大きくて尊い約束」の相続者となり、その約束を通して「神の性質にあずかる者」(Iペテロ1:4)、つまり性質において神とイエスに似た者となります。引用された聖句には、天使がこの福音を「地上に座している人々、すべての国、部族、言語、人々に宣べ伝える」ために持っていたとも書かれています。天使のメッセージは、獣との争いの時代に世界中に宣べ伝えられるでしょう。ヨハネが見た天使が誰を表しているのかは私たちにはまだ分からないが、この幻は黙示録の他の幻と同様、象徴的なものである。何

天使を表すでしょうか？使徒パウロはガラテヤの人々にこう話しています。「そして、あなたは私が最初にあなたがたに福音を宣べ伝えたことを知っています...そしてあなたは拒否しませんでした...あなたは私を神の使いとして受け入れました。」ガラテヤ 4:13,14。パウロはガラテヤの人々にこう言いました。ガラテヤ人への手紙は、彼らがイエスを「天使」であるかのように受け入れたと述べ、イエスが宣べ伝えた音信を天そのものから来たものとして受け取ったという事実に言及しました。そして、パウロのような人間は「天使」、つまりメッセンジャーとして認識される可能性があるということも。したがって、私たちは、地球全体に福音を宣べ伝える黙示録 14 章の「天使」は、あらゆる国、部族、言語、人々に永遠の福音のメッセージを宣べ伝える一組の人間の使者を表していることがわかります。前の節でヨハネに紹介されたばかりの人々のグループは 144,000 人のグループであるため、論理的に理解すると、このグループ、つまりイエスに似た性質を持つ 144,000 人のグループは天使によって代表されるグループであると信じられます。終わりの時に永遠の福音を宣べ伝える人です。本文では、これらのメッセージが「永遠の」福音であると宣言されていることに注意してください。これらの「天使」が提示するメッセージは、多くの人にとって新しいように見えますが、実際には神の言葉の中に常に存在していました。なぜなら、それ自体が「太陽の下に新しいものはない」と伝道の書 1:9 に述べられているからです。本文には、これら神の僕たちが宣べ伝えるメッセージとは何なのかと書かれています。それは黙示録 14 章に次のように記されています。

「大声で『神を畏れ、神に栄光を帰せよ、神の裁きの時が来たのだから』と言う。そして天と地と海と水の泉を造られた方を崇拜しなさい。」黙示録 14:7

この聖句は、使者がどのようにメッセージを伝えるか、「大きな声で言う」ということから始まっていることに注意してください。それはどういう意味ですか？聖書は答えます。ルークの話に移りましょう。

「すると、エリサベトは聖霊に満たされて、大声で叫んで言った、『あなたは女の中で祝福されています、あなたの子宮の実も祝福されています！』。」ルカ 1:41,42

エリザベスは「聖霊に満たされて」、「大声で」言いました。「大きな声で」話すとは、聖霊に満たされて話すことを意味します。「大声で」こう言う天使は、聖霊に満たされて話す14万4,000人の集団を象徴しています。エリザベスの例に戻ると、本文には、彼女が聖霊を受けてしばらくしてから大声で叫んだだけでは書かれていないことに注意してください。聖霊に満たされた直後、彼女は大声で叫びました。エリサベトの物語に描かれている、神の僕は聖霊を受けるとすぐに「大声で」叫ぶというこの原則を理解すると、黙示録の中で天使に代表される人々のグループがまさに「大声で」叫ぶということがわかります。聖霊を受けました。最後の教皇の時代に14万4,000人が説教すること、そしてこの王の治世が42か月続くことはすでに見たように、彼らが最初から説教することを理解するのは自然です。天使に代表される14万4,000人が説教中に「大声で」と言っているのをヨハネが見たという事実は、彼らが42か月の初めに聖霊に満たされていることを示しています。この約3年半の期間は、キリストの説教期間と同じ期間です。14万4,000人はキリストの体験を追体験することになる。

ヨハネの黙示録 14:7 で、ヨハネは天使が「神を恐れよ…神の裁きの時が来たからです」と言うのを見ました。「神を恐れる」とはどういう意味でしょうか？伝道の書 12章13節と14節の本文を読んでみましょう。

「これまでに聞かれたすべてのことの結論は次のとおりです。神を畏れ、神の戒めを守りなさい。これはすべての人の義務だからです。なぜなら、神は、それが善であろうと悪であろうと、あらゆる業、あらゆる隠された事柄を裁くからである。」

伝道の書 12:13,14

前の節に次のように述べられていることに注意してください。「神を畏れ、その戒めを守りなさい…神はあらゆる行いに裁きを下すからです。」彼と黙示録の本文との関係は明らかです。この聖句によれば、神を畏れることは「神の戒めを守る」ことに関連しています。戒めとは何ですか？この10人は出エジプト記20章3節から17節で報告されています。パウロはこう言います、「殺してはならない、盗んではいけない、偽りの証言をしてはならない、貪ってはならない、それ以外に戒めがあるとすれば…」ローマ人への手紙 13:9。私たちが読んだ伝道の書によると、私たちは十戒を守ることが期待されています。「これはすべての人の義務だから」、また「神はあらゆる行いに裁きを下すからです」（伝道の書12:13,14）。神が行いに裁きをもたらすから戒めを守るように人間に言うとき、戒めが裁きの規則であることは明らかです。人間の業が比較されるのは彼らである。神はどのような働きをして裁きを下すのでしょうか？伝道者の書には「隠されているすべてのものさえも」と書かれています。この言葉によって、私たちは、最も親密な考えや動機が神の前で裁かれること、そして神はその心をご存じであることを理解します。人間は目の前のことを見るが、主は心を見るからである」（ヤムエル16:7）。

黙示録 14 章 7 節には、天使が「神を畏れ、神に栄光を帰しなさい」とも言っているのが分かります。それはどういう意味ですか？どうすれば神に栄光を帰すことができるでしょうか？使徒パウロはこのことについて次のように語っています。

「ですから、食べるにも飲むにも、あるいは何をすることも、すべて神の栄光のために行いなさい」 1コリント10:31

神を敬い、神の名を讃えることを第一に求めてあらゆることを行いましょう。イエスは神に祈ったとき、次のように言われました。「わたしは、あなたがわたしにやるよう与えられた仕事を終えて、地上であなたの栄光を現しました。」ヨハネ 17:4。そして彼は私たちの模範でした。もし私たちが神から与えられた仕事をするなら、私たちは神の栄光を讃えることとなります。そして、この作品はどこに明記されていますか？聖書の中で、神の勧告に従うことによって、私たちは神の栄光を現すこととなります。今読んだコリント人への手紙の本文に戻ると、そこでパウロは、食べる、飲むことすべてにおいて神の栄光を現わすようにとアドバイスしていることがわかります。

神は御言葉の中で、摂取しないほうが良い食べ物や飲み物があると教えています。

「肉を食べたり、ぶどう酒を飲まないのは良いことです」ローマ人への手紙 14:21

そして箴言にはこう書かれています。

「ワインは嘲笑的だ。そして強くて騒々しい飲み物。そしてそれらを誤る者は決して賢明ではない。」

箴言 20:1

このアドバイスに従うなら、私たちは食べたり飲んだりすることで神の栄光を現すことになり  
ます。

神の言葉は私たちに何を食べたり飲んだりするのが良いかを教えているだけでなく、人生の  
他のすべての分野についてもアドバイスを与えてくれていることを私たちは知っています。御言葉は私たち  
の実践的な指針でなければなりません。イエスはこう言われました。「人はパンだけで生きるものでは  
なく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きるのです」マタイ 4:4。黙示録のメッセージは、「神の栄光」の  
ためにあらゆることを行うよう人間に求めています。したがって、神の栄光を讃えるためには、人間は神の口  
から出る一つ一つの言葉に従って生きること、つまり、人の人生が常に神の言葉と調和していることが必要  
である。これは神との親密な交わりを通してのみ可能になります。

御言葉が次のように言っているように、私たちはイエスを通して神と深く結びついて、自分の考えさえも神  
によって導かれなければなりません。

「あらゆる考えをキリストの従順に捕らえる」 IIコリント人への手紙  
10:5 (アルメイダ訳の改訂および更新)

考えが純粹であれば、その人は純粹になります。なぜなら、口から出る言葉も心の中にあった  
結果だからです。イエスが言われたように、「心の豊かさから、口は心の豊かさから語ります」。

マタイ 12:34。したがって、キリストが心の王座に君臨し、それが私たちの思考のテーマである場合にのみ、  
私たちは神の栄光を讃えることができます。

聖書の中で言及されている、神の栄光を讃える別の方法があります。これはコメントに値し  
ます。

「そしてイエスは大声で叫んで言われた、「父よ、わたしの霊をあなたの御手に委ねま  
す。」そしてそう言い残して彼は息を引き取った。すると百人隊長は、何が起こったのかを見て、神に栄光を  
帰して、「確かに、この人は義人だった」と言いました」ルカ 23:46,47

神は、イエスがこの地上におられたとき、百人隊長がイエスが人間であることを認識したと  
き、栄光を受けたと御言葉の中で述べられました。また、百人隊長はイエスが神を讃えたとき、さらに何かを  
叫んだとも言われています。

彼は「この人は正義の人だった」と言いました。「正義の人」とは何でしょうか？彼は神の正義を遂行す  
る人だ。詩篇には、「神の戒めはすべて義である」（詩篇 119:172）と書かれています。したがって、義な  
る人とは、神の戒めをすべて守る人です。百人隊長が、イエスは人間であり、正義であると述べたとき、イエ  
スは私たちと同じ人間（「人間の神」でも「受肉した神」でもありません）が十戒の律法全体に従っている  
と言ったのです。私たちと同じ人間であるイエスが十戒をすべて守ったなら、私たちもそうするかもしれま  
せん。神が受けたのと同じ神からの力の助けによって、私たちも神の律法の十戒を守ることができます。これ  
を理解することが重要です。なぜなら、黙示録 14 章のメッセージが宣べ伝えられた結果、神は神の戒めと  
「イエスの信仰」を守る民を持つと宣言され、それが彼らに力を与え、可能にするからです。戒めを守るため  
に：

「神の戒めとイエスの信仰を守る聖徒たちの忍耐がここにあります。」黙示録 14:12

最初の天使のメッセージはまた、地上の人々に、「神の裁きの時が来たから」神を畏れ、神に栄光を帰すよう呼びかけています。このメッセージが、最後の教皇の治世の42か月以内に14万4,000人によってより大きな力をもって伝えられることを、私たちはすでに見てきました。その時こそ、彼は「神の裁きの時が来たからである」と力強く説教するであろう。それはどのような判断になるのでしょうか？

ダニエル 7 章と 8 章を研究したときに、全人類の裁きが 1844 年に始まったことがわかりました。この裁きは死者から始まり、その後生者に伝わりました。今日（2012年）、私たちはまだ最後の教皇の時代には入っていません。したがって、私たちは、144,000人に生者の裁きが到来すると認識しています。最初の天使のメッセージの続きを読んでみましょう。

「そして天と地と海と水の泉を造られた方を崇拜しなさい。」黙示録 14:7

誰がこれらすべてのことを「やった」のでしょうか？読みましょう：

「そして神は七日目に自分が行った働きを終え、七日目に自分が行ったすべての働きを休んだ。そして神は七日目を祝福し、それを神聖なものとした。なぜなら、彼は神の働きすべてから離れて休んだからである。

作られて作られた。」創世記 2:2,3

出エジプト記は、黙示録と同様に、彼が「天、地、海」、さらには水源の創造者であると指摘しています。

「しかし、七日目はあなたの神、主の安息日である。あなたも、息子も、娘も、下男も、下女も、家畜も、門の中にいる外国人も、どんな仕事もしてはなりません。

主は六日で天と地と海とその中にあるすべてのものを造られたからである。」

出エジプト記 20:10,11

この「神」とは誰なのでしょう？イエスはご自身を明らかにされました。イエスはご自身について、「わたしは道であり、真理であり、命である」と言いました（ヨハネ 14:6）。これは、イエスが言ったことはすべて真実であることを意味します。イエスは決して嘘をつきませんでした。もし嘘をついていたら罪を犯したことになり、イエスは私たちの救い主ではありません。そして、イエスによれば、神とは誰でしょうか？彼は答える：

「イエスはこれらのことを話され、目を天に上げて言われました。『父よ、時が来ました、御子を讃えなさい…そしてこれが永遠の命です。彼らがあなただけ、唯一の真の神、そしてイエスを知ることができるようにするために』あなたが遣わしたキリストよ。」ヨハネ 17:1,3

イエスは、ご自分の父が唯一の真の神であると言われました。イエスがいつも真実を語ったように、私たちはイエスが真実を語ったということを知っているので、それを確認するためにこれ以上の文章は必要ありません。存在する唯一の神は父であり、聖書には明らかに違うことを言っている箇所もありますが、それらは単に誤訳か誤解されているだけです。私たちは、唯一の神がイエスの父であり、イエスが父と呼んでいる方であると完全に確信しています。なぜなら、常に真実を語られたイエスご自身がそう言ったからです。そしてイエスはさらに、「これは永遠の命である」、つまり私たちの永遠の命は、「彼らが唯一の真の神であるあなたを知るため」、そして唯一の真の神が遣わしたイエス・キリストを知るためである、と言いました。

(ヨハネ 17:3)。黙示録 14 章のメッセージは、「地と空と海と水の泉を造られた方」を崇拜するよう私たちに呼びかけています。それは私たちに父なる神を礼拝するよう呼びかけています。彼は万物を造られた方として崇拜されるべきです。私たちはイエスを救い主、救い主として崇拜しますが、父を創造主として崇拜します。

ある人はこう自問するかもしれません。

クリエイター？ 聖書には、イエスが創造に参加されたと書かれています。

「万物は彼を通して造られた」ヨハネ1:3

すべてのものは神「を通して」作られたと書かれています。神によって作られたとは言っていません。それらが「神」を通して作られたと言うのと、「神によって」作られたと言うとの間には違いがあります。もし神がそれらが「神によって」作られたと言ったなら、神は万物を造られた方でもあるでしょう。しかし、それらが「彼」を通して作られたと書かれているとき、本文は、万物が作られた道具として彼を示しています。聖書は、「イエスを通して」何かがなされるとはどういうことかを私たちに示しています。使徒行伝 2 章 22 節の本文を読んでみましょう。

「イスラエルの人たちよ、この言葉を聞いてください。ナザレのイエス、あなたがたの間で不思議と不思議とするしをもって神に認められた人であり、神は彼を通してそれを行ってくださいました。」使徒行伝 2:22

イエスはこの地球にいたとき、多くの奇跡を行いました。ペテロは、実際のところ、神は「イエスを通して」奇跡を行ったと言っています。イエスはご自身についてこう言われました。

「私一人では何もできません」ヨハネ5:30

したがって、彼自身では奇跡を起こすことはできませんでした。したがって、奇跡を行ったのは、イエスを通して行動されたイエスの父でした。その力は父からのものであり、神は奇跡を起こす人でした。イエスご自身が次のように述べているように、イエスは奇跡を起こすために神が用いられる道具です。

「わたしが天から降りてきたのは、自分の意志を行うためではなく、私を遣わした方の意志を行うためである」ヨハネ6:38

厳密な意味では、万物を造られた神は実際には一つであった

- 父なる神 黙示録 14 章には、「やった方」と単数形で書かれています。イエスを含めるなら、「それら」は複数形だと言うでしょう。これまで私たちは最初の天使のメッセージを研究してきました。次の章では、第二の天使のメッセージを学びます。

## 第8章

### 2番目の天使のメッセージ

「そして、もう一人の天使が続いて、二番目の天使はこう言いました。『大いなるバビロンは倒れた、倒れた。バビロンは、すべての国民に彼女の淫行の怒りのぶどう酒を飲ませた。』」黙示録 14:8



引用された本文は、「別の天使が続いた」という言葉で始まります。最初の天使は144,000人を代表してメッセージを与えました。この2番目のメッセージは同じグループを表し、2番目のメッセージを宣言します。第二の天使は、「大バビロンは倒れた、倒れた」と言いました。私たちは黙示録17章の研究で、彼女が誰であるかをすでに見てきました。それはローマカトリック使徒教会です。彼女が「偉大な方」と言われるのは、カトリック聖職者がよく言うように、彼女は自分を教会の母、または「母なる教会だ」と考えているからです（黙示録17:5）。「落ちた」という。ヨハネに与えられたメッセージは神か

らのものであるため、「墮落」という用語は神の目には墮落を表します。従順から罪への転落、神の言葉の教義への信仰から人間の教義への信仰への転落です。カトリック教会が創立以来、人間の教義を説いてきたことを私たちは知っています。神の律法の第四戒の土曜日とは対照的に、安息日としての日曜日がこの教会の主な旗印です。そして、それが不法行為を支持し、人間が神のすべての戒めを守り神の目に完全であることができるという神の言葉によって与えられた可能性を否定したことも、この教会が誕生して以来見られてきました。

しかし、「墮落した」という言葉は、かつては神の前に純粹であったが、人間の教義と指導者の不法行為と偽善によって墮落したすべての教会を指します。それはまた、母教会によって教えられた人間の教義をその真只中に維持していた組織を指します。母教会の誤りを維持してきた教会は、教義的には母教会の「娘」です。

このような状況に陥ると、教会は天から「墮落した」とみなされます。「バビロンは崩壊した」というメッセージが彼らに当てはまります。この詩には「Caiu」という単語が2回出てくることに注意してください。最初の「崩壊」という言葉はカトリック教会の崩壊を指し、次の言葉はその霊的娘たちであるプロテスタント教会の崩壊を指します。プロテスタント教会は、かつては神と神の律法を尊重していましたが、今日では日曜日を守ることを、聖人崇拜、画像など

「彼女の淫行の怒りのぶどう酒をすべての国々に飲ませた者。」黙示録17章では、女性が「忌まわしいものと淫行の汚さで満たされた杯」を持っているのが見られます（黙示録17:4）。女性が教会を代表しており、キリストが真の教会の夫であることを私たちはすでに見てきました。女性の売春のシンボルは、キリストとその真理に対する裏切り、魂の敵であるサタンとその欺瞞との関係を表しています。安息日は神によって定められ、キリストによって尊重されました。日曜日を安息の日として定めることによって、カトリック教会は、実際には安息の日としての日曜日の指導者であるサタンと自らを結びつけ、象徴的な意味で自らを売春させた。したがって、日曜日を守ることは、ヨハネが黙示録17章の幻の中で、女性が手に持っていた杯の中に見た売春の一部です。黙示録14章8節に、この女性が与えたと記されているのは、この売春のぶどう酒です。諸国民に酒を飲むためである。カトリック教会は、最後の教皇を通じて、すべての国に日曜日を安息日として受け入れ、課すことになるでしょう。このワインは「怒り」のワインであるとも書かれています。歴史は、教皇庁と教会の指導者が人間の教義に従わない人々に対して激怒していることを示しています。だからこそ彼は過去に聖人を殺したのだ。今日、それは彼らを殺しません。しかし、聖書は、無力なところに寛容であるからといってそうするわけではないことを示しています。預言にあるように、最後の教皇が地球の十人の王の力を受け取るとすぐに、聖人たちとの戦いに身を投じるでしょう。黙示録13章には、この獣とその仲間たちが何をすることが報告されています。

「そして、獣の像を崇拜しなかったすべての人を殺させました。そして、小さい者も偉大な者も、金持ちも貧しい者も、自由人も奴隷も、すべての人の手や額に刻印を付けさせ、その刻印を持つ者、あるいはその者の名前以外には誰も売買できないようにする。獣、またはその名の数字」黙示録 13:15-17。

黙示録 14 章 8 節が、諸国民が売春の「怒り」のぶどう酒を飲んだと言っているという事実は、これらの言葉によって預言されている時点で、諸国民が安息日を守るキリスト教徒に対して教皇が抱いたのと同じ怒りに染まるであろうことを示している。そして教会は今日、カトリック教会のドームを持っています。この結果、黙示録 13 章 7 節の「聖徒たちと戦い、聖徒たちに打ち勝つことが彼に与えられた（獣に与えられた）」という言葉が成就することになる。地球の王たちは彼らの部下を教皇に利用させ、教皇が聖人たちを迫害し殺害する仕事に彼らを利用できるようにするだろう。今日、これらすべてが実現するのは非常に難しいように思えるかもしれませんが、人々が神の律法から背を向けてサタンの政府に降伏するとき、彼らは非常に残酷になるでしょう。教会の高官と世俗権力（ユダヤ人の祭司とピラト）が結集してイエスを殺害したのと同じように、将来も同じことが起こるだろう。神の民は、この試練の時に耐え、なおかつあらゆる国、部族、言語、人々に説教するよう促す信仰を必要とするでしょう。

「大いなるバビロンは倒れた、倒れた。そのため、すべての国々が彼女の淫行の怒りのぶどう酒を飲まされた。」黙示録 14:8

これまで私たちは第二の天使のメッセージを研究してきました。次の章では、第三の天使のメッセージを分析します。

## 第9章

### 第三の天使のメッセージ

「そして、別の三番目の天使が彼らを追って、大声で言いました。もし誰かがその獣とその像を崇拜し、額や手にその刻印を受けるなら、その人もまた神の怒りのぶどう酒を飲むでしょう。それは、神の怒りの杯から混合物なしで準備され、聖なる天使たちの前で、そして小羊の前で、火と硫黄で苦しめられるでしょう。彼の苦しみの煙は永遠に昇り、獣とその像を崇拜する者、そして彼の名の刻印を受ける者には、昼も夜も休むことはありません。」黙示録 14:9-11

第 2 の天使が最初の天使に対する追加のメッセージを表したのと同じように、第 3 の天使は最初の 2 つの天使に加えてメッセージを表します。最初と二番目のメッセージを発表したのと同じ人によって説教されています。このメッセージの中に、「大きな声で」という表現が再び出てくることに注意してください。これは、それが聖霊の力によって与えられることを示しています。

最初のメッセージでは、使者は聖霊に満たされた後、「大きな声」で話します。本文では、発表されたメッセージが何であるかを続けて述べています。

「もし誰かが獣とその像を崇拜し、額や手にその刻印を受けるなら、その人も神の怒りのワインを飲むことになるでしょう。」 「獣とその像を崇拜する」こと、そして「額や手に刻印を受ける」ことの意味については、黙示録 13 章の以前の研究ですでに取り上げられています。

「獣とその像を崇拜する」ということは、第四戒の土曜日の代わりに日曜日を守るカトリック教会と教義上その娘となった教会の権威を認めることであることが分かりました。そうすることで、私たちは、その変化をもたらした力が、律法を制定した者、つまり神ご自身の力よりも大きいものであることを認識します。私たちはまた、預言に示されているこの時期に、日曜日を守るために仕事をせず、日曜日が主の本当の日であると認識し、神の命令に背いたときに、手や額に獣の刻印を「受ける」ことも研究しました。戒め。黙示録 14 章にある第三の天使のメッセージの警告は、人々が神の戒めの安息日の代わりに日曜日を安息日として受け入れたり認識したりせず、この偽りの安息日を守らないようにという警告です。「もし誰かがそうするなら、その人は神の怒りのぶどう酒を飲むことになるでしょう」と警告は述べています。このワインは何ですか？黙示録にはこう書かれています。

「この後、私が見てみると、天にあるあかしの幕屋の聖所が開かれていた。そして、七つの災いを負った七人の天使たちが、清らかで明るい亜麻布を着て、胸に金の帯を締めて聖所から出てきました。四人の生き物のうちの一人が、永遠に生きる神の怒りが満ちた七つの黄金の鉢を七人の天使に与えました。」黙示録 15:5-7

黙示録は、人々に与えられた恵みの時が終わり、イエスが再臨される前に、7つの災いが降り注ぐことを示しており、それらは引用された聖句の中で「7つの黄金の鉢」の中にあり、「神の怒りで満たされている」と表現されている。神」、男性について。そして神の怒りの杯は第七の災いで注がれる。

「第七の天使は杯を空中に注ぎました。そして御座から大きな声が聖所から出てこう言った、「終わりました…そして諸国の都市は陥落しました。」そして神は大いなるバビロンを思い出し、その激しい怒りのワインの杯を彼女に与えた。鳥々はすべて逃げ出し、山々はもう見つからなかった。すると、空から大粒の雹が、一タラントンほどの重さの石となって人々の上に降った。そして人々は雹の災いのために神を冒瀆した。彼の疫病が非常にひどかったからです。」黙示録 16:17-21

神はバビロンが「神の激しい怒りのぶどう酒の杯」を彼女に与えたことを覚えておられました。神は彼女に怒りの杯を注ぐでしょう。偽りの安息の日がキリスト教世界、そして全世界に広まったのはローマ・カトリック使徒教会である彼女からであったからです。しかし、第七の疫病の時、安息日が主の日であるという真実についてすべての階級がすでに警告されていたため、誤ったまま残っていた人々は自発的に「バビロニア」教会と運命を持つことを選択しました。こうして彼らは義に従って、一緒に酒を飲むだろう。

彼女、神の怒りの杯。

同じ黙示録は、神が人の死を喜ばないことを示しています。

邪悪な:

「そして、聖所は神の栄光と神の力によって煙で満たされました。そして、七人の天使による七つの災いが終わるまでは、誰も聖域に入ることができなかった。」黙示録 15:8

神にとって、自らが創造した人間を罰し破壊する行為は神の本質とは異質であり、神に深い悲しみをもたらす。したがって、七つの災いが降り注ぐとき、神は被造物への愛のため、被造物に悲しみを見せないようになさるのです。父親が幼い息子に自分の痛みを理解してもらえないからといって、亡くなった愛する人を思って泣くとき、その涙を隠すのと同じように、神はご自分の被造物である神の子供たちに涙を隠してくださると私たちは信じています。疫病の最中に死に、最終的には復活するが、最後の審判の後に再び永遠に死ぬだけの人々に対する神の悲しみが分からないだろう。聖書はキリストについて証言しており、キリストは神を明らかにしています。したがって、聖書に登場する古代の人物に関する物語を読むとき、それが同じ時代に生きた人々の数多くの物語の中から偶然選ばれたものではないことがわかります。この言葉が聖書に選ばれたのは、それがキリストの使命の働きと神の人間との関わりの一部を表すためである。イエスの言葉は、これが真実であることを示しています。

「聖書を調べなさい。あなたは聖書の中で自分に永遠の命があると思っているからです。聖書はわたしについて証しているのです。」ヨハネ 5:39。

聖書の物語はキリストの使命の一部を表しており、キリストなぜなら、神はこう言ったからです。「わたしを見た者は父を見たのだ」ヨハネ 14:9。したがって、聖書に報告されている、ダビデが死んだときに自分を殺そうとした反抗的な息子アブサロムのために泣いたことは、反抗的になった神の被造物が滅びのを見た神の悲しみを表しています。しかし、神の子供たちが破滅するのを見た神の悲しみは、人間に対する神の扱いの正義を変えることはありません。恵みの時代の終わりに、安息日は神によって定められたものであると完全に確信し、教皇とカトリック教会を敬うことを好み、日曜日を守り安息日を軽視し、御霊の訴えに耳を傾けなかった人々。神のせい、ついに彼らは七つの災いに苦しむことになる。第三の天使のメッセージは、人々に神に従うよう警告し、疫病に苦しむ必要はないことを示しています。神の戒めに従う道は人間にとって安全な道です。

第三の天使のメッセージはさらに、第二の脅威を宣言しています。その獣を自分の像として崇拜し、その刻印を受ける者たち。

「そして彼は、聖なる天使たちの前で、小羊の前で、火と硫黄で苦しめられるだろう。その苦しみの煙は世々限りなく立ち上り、獣とその像を崇拜する者、そしてその名の印を受ける者には、昼も夜も休むことはありません。」黙示録 14:10,11

今日でも、安息日を守らないにもかかわらず、日曜日を守るとは公言しない人々がいます。しかし、神の言葉は、

預言によって示された当時の階級は、第四戒の安息日を守る者と日曜日を守る者の2つでした。したがって、このメッセージは、それを聞くすべての人にとって生死に関わる重みを持ち、各人が最終的な決断を下すように導くことになります。

「彼は火と硫黄で苦しめられるだろう。」聖書は、イエスが地上に再臨される時、イエスの救いを信じて死んだ人々が復活すると宣言しています。そうすれば、キリストにあって死んだ人々が最初によみがえります」テサロニケ第一 4:16。「しかし、他の者たちは千年が終わるまで再び生き返ることはなかった。初めての復活です。最初の復活に参加した者は祝福され、聖なる者です。第二の死はこれらに対して何の力もありませんが、彼らは神とキリストの祭司となり、千年間神とともに統治するでしょう。」

黙示録 20:5,6。最初の復活で復活した聖徒たちは神とキリストの祭司となり、神とともに千年間統治します。「第二の死」は彼らに対して何の力もありません。今回はこの「第二の死」についてお話しします。「そして千年が終わったとき…私は大きな白い玉座とそこに座る彼を見た。その存在から地も天も逃げ去り、彼らの居場所は見つからなかった。そして、私は死人が大なり小なり玉座の前に立っているのを見た、そして本が開かれた。そしてもう一つの本が開かれました、それは人生の本です。そして死者たちは、その書物に書かれていること、その行いに応じて裁かれた。そして海はその中にいた死者を放棄した。そして死と地獄はその中にいた死者を放棄した。そして彼らはその行いに応じて裁かれた」黙示録 20:7,11-13。千年後には裁きが下されるだろう。

この裁きについて言えば、「死者は裁かれた」と書かれています。これらの死者は正義の人か邪悪な人のどちらでしょうか？これまで見てきたように、キリストにある死者たちはすでに死んでいたことを思い出しましょう。彼らは千年も前に復活していました。上記の裁きの場面は千年後の出来事である。したがって、この裁きはキリストを受け入れなかった死者、つまり悪人に対するものです。彼らの判決は何でしたか？「命の書に記されていない者は、火の湖に投げ込まれた。」黙示録 20:15。命の書は子羊の命の書です。

「そして、地上に住む者は皆、小羊のいのちの書に名前が記されていない彼女を崇拜した」黙示録 13:8

小羊は私たちのために犠牲になったイエスを表します。人々の罪のためにカルバリの十字架で捧げられた主の犠牲を受け入れる者だけが、「子羊」のいのちの書に書き記されることができます。悪人たちはついに生涯、この犠牲を受け入れて神の許しを受けることを拒否し、神の力によって人生を変えられました。したがって、悪人はいのちの書に名前が記されることはありません。したがって、千年後に復活した悪人は、黙示録が言うように、火の湖に投げ込まれることになります。「命の書に記されなかった者は、火の湖に投げ込まれた」黙示録 20:15。

上記の脅威は、黙示録 14 章の第三の天使のメッセージに含まれているものです。獣とその像を崇拜する者、またはその刻印を受けた者は火の湖に投げ込まれるでしょう。千年の終わりに、海と死と地獄は「その中にいた死者たち」(黙示録20:13)を放棄し、彼らが裁かれるようになりました。これは、邪悪な死者たちが千年の終わりに最後の判決を受けるためによみがえることを示しています。そして判決を受けた後、彼らは「火の湖」に投げ込まれることになる。悪人は二度死ぬ。最初の死は私たちが知っている死である。の

2番目は火の湖のそば。聖書には「これは第二の死、火の湖である」とあります。黙示録 20:14。したがって、キリストへの救いの信仰を持って死ぬ人々は幸いです。なぜなら、彼らに対して「第二の死は何の力も持たない」からです。つまり、彼らは第二の死を経験しないからです。それどころか、彼らは復活して永遠に生きるのです。

「彼の苦しみの煙は世々限りなく立ち上る」黙示録 14:11。言及されたテキストは、私たちが今研究したばかりの獣の崇拝者が受けるであろう火の湖の非難について語っています。彼の苦しみの「煙」は「何世紀にもわたって」立ち上ると言われています。これは、悪人たちが最終的に永遠に燃えることを意味するのでしょうか？この結論を下す前に、神の言葉から、永遠に永遠に煙が立ち上るこの「永遠の火」の本当の意味を教えてください。

「ソドムとゴモラ、そしてその周囲の都市も同様であり、彼らと同じように自らを墮落させ、他の肉を追い求めて見せしめとなり、永遠の火の刑罰に苦しんだ。」ユダ 1:7

創世記には、これらの都市が受けた罰が次のように報告されています。

「そのとき、主はソドムとゴモラに天から硫黄と火を降らせた。そして彼はそれらの都市とすべての平地とそれらの都市のすべての住民とその地から生えたものを打倒した」創世記 19:25

ソドムとゴモラは火と硫黄で滅ぼされました。これは黙示録 14 章で予告されている「彼は火と硫黄で苦しめられる」と同じ滅びです。彼らは、悪人が最後の裁きの後に受けるのと同じ滅びを経験しました。これら 2 つの都市は、現在のイラクの国がある場所にありました。その場所には今日に至るまで硫黄が集中していますが、それ以来、何千年もの間、今日に至るまで火が燃えていることはありません。したがって、永遠の火は、犠牲者を決して焼き尽くすことなく、永遠に無限に燃え続けるものではなく、むしろ永遠に破壊するものであることがわかります。永遠の火の刑罰を受けたソドムとゴモラは二度とよみがえらなかった。同様に、悪人が永遠の火の刑罰を受けるとき、彼らはまるで存在しなかったかのようになります(オバデヤ1:16)。彼らは永遠に破壊されるでしょう。黙示録が、悪人の責め苦の煙が永遠に立ち上ると述べているという事実は、火が燃え続けることを意味するものではありません。火を起こすと、火が消えた後でも煙が立ち上るのが見えます。この場合、煙はその場所に火があったことを思い出させる役割を果たします。

象徴的な意味で、ヨハネが苦しみの「煙」が「永遠に立ち上る」と言われているという事実は、邪悪な者の滅びが永遠に記憶されることを意味します。罪はイエスの傷ついた体に跡を残した原因として常に記憶されるでしょう。人々は彼らが刺した彼を見るだろう -

イエス - あなたの罪を通して、そうすれば罪は再び立ち上がることはありません。

第三の天使のメッセージは、「獣とその像を崇拝する者、そしてその名の印を受け者には、昼も夜も休みがない」という言葉で終わります。黙示録 14:11。なぜ獣の崇拝者には休息がないのでしょうか？神の言葉はそれを私たちに明らかにします。イエスは地上にいたとき、今まで続く人類への招きを残しました。

「すべて働き、重荷を負っている人は、わたしのもとに来なさい。そうすればわたしはあなたたちを休ませてあげます。わたしのくびきを負い、わたしから学びなさい。わたしは心優しく謙虚な人間だからだ。そうすればあなたは自分の魂に安らぎを見つけるでしょう。」マタイ 11:28,29

くびきは、地上で働く牛を正しい方向に導くために首に付けられる器具です。私たちが神の御心に調和して歩むためには、何か導いてくれるものも必要です。イエスが持っているこの導き、つまり「くびき」は神の律法です。神の戒めは、私たちが神に喜ばれる道を歩めるように導いてくれます。律法に従って歩むとき、私たちはキリストのくびきを負い、安息を得ることができます。獣の崇拝者たちは日曜日を守り、第四戒の安息日を軽蔑し違反するでしょう。律法の違反者である彼らは、律法を守る者に約束された安息を得ることができません。第三の天使のメッセージが次のように述べているのはこのためです。「獣とその像を崇拝する者、そしてその名の印を受ける者には、昼も夜も休むことはありません。」黙示録 14:11. イエスは私たちに休息を与えてくださいました。私たちが自分の義である神を信頼し、神から学び、神の人生と人格について瞑想し、神への生きた信仰を持つとき、私たちは神の律法と調和し、こうしてキリストの安息を見出すことができます。私たち全員がこの安息を得ることができますように、それは私たちに対する天の願いです。

第三の天使のメッセージを受け入れた結果はどうなるのでしょうか？聖書には次のように書かれています。

「神の戒めとイエスの信仰を守る聖徒たちの忍耐がここにあります。」黙示録 14:12

そのメッセージは、受け取った人の人生を変えます。イエスの信仰によって、聖徒たちは神の戒めを守るでしょう。

「その時、私は天からこう言う声を聞いた。『書きなさい。これから主にあって死ぬ死者たちは幸いである。』と書きなさい。」そうです、御霊は彼らとその働きから休めるようにと言います、彼らの働きは彼らに伴うものだからです。」黙示録 14:13

引用された聖句は、黙示録 13 章と 14 章の預言が示す時代に、主にあって死ぬ人が大勢いることを明らかにしています。信仰のために死ぬ人もいます。なぜなら、獣には聖徒たちと戦い、聖徒たちに勝つために与えられたと言われているからです（黙示録 13:7）。しかし、神の言葉自体が、前の節で、この時点で死ぬ人は「祝福されている」と宣言しているように、現時点で自分の運命が何であれ、私たちは毅然としていなければなりません。Blessedは「幸せ」という意味です。この時、主イエスの信仰に死んだ人々は幸いである、と聖句は述べています、「彼らが労苦から休めるように」。これは恐ろしい迫害の時代となるでしょう。だからこそ神は、この時に主イエスを信じて死ぬ人はその労苦から休むだろうと言われます。しかし神はこの聖句を、これらの人々に「彼らの行いは彼らに伴うからである」という素晴らしい約束を与えて締めくくられています。

これらの言葉は、そのような人々が神への忠実さに対して報いを受けることを示しています。

主イエスと神の律法。このような理由から、忠実であり続ける人々が何を相続するかを知っていて、イエスはすでに次のように言われました。

「そして、友よ、あなたたちに言います。死体を殺したら他に何もすることがなくなった人たちを恐れないでください。」ルカ 12:4

キリストの復活の輝かしい朝は、主イエス、神の律法、そして第四戒の七日目である安息日に対して忠実であり続けるすべての人への報酬です。わたしたちが忠実であり、愛される読者であり続けますように、そして、生きるか死ぬかにかかわらず、主の側に居続けられますように。神は忠実な方であり、私たちが求めたり思ったりするよりもはるかに豊かに与えてくださいます。「神を愛する人々のために神が備えてくださったものは、目を見たことも、耳で聞いたことも、人の心に入ったこともありません。」コリント人への第一の手紙 2:9。そしてイエスはこう言われました。「見よ、わたしはすぐに来る。わたしの報いは、すべての人にその働きに応じて与えるためである。」黙示録 22:12。アーメン、さあ、主イエスが来てください！